

○主 文

本件上告ハ孰レモ之ヲ棄却ス

○理 由

各被告人辯護人澤邊金三郎上告趣意書第一點原審判決ハ被告人等ニ對シ罪トナラサル行爲ヲ處罰シタル違法アリ一、被告會社ハ故樽ヲ蒐集シテ酒造家ニ販賣スルコトヲ業トスル會社ニシテ被告人佐竹岩勇ハ其ノ代表者ニシテ其ノ經營ノ衝ニ當レル者ナル處原審判決ハ被告人兩名ニ對シ左ノ如ク事實認定ヲ爲シ被告人兩名ヲ各罰金二十圓ニ處スヘキ旨ノ有罪判決ノ言渡ヲ爲サレタリ即チ原審判決理由ニ於テ認定セララルル事實ハ一、被告會社ハ大阪市浪速區元町一丁目ニ於テ空樽ノ販賣ヲ營ム合名會社ニシテ被告人佐竹岩勇ハ其ノ代表社員ナルトコロ被告人岩勇ハ右會社ノ業務ニ關シ昭和十三年十月十七日頃以降同年十二月三十一日頃迄ノ間九回ニ互リ右會社店舖ニ於テ酒類販賣業尾崎政雄外數名ニ對シ法定ノ除外事由ナク且ツ特別ノ許可ヲ受ケサルニ拘ラス商工大臣ノ指定物品タル故ノ樽日本盛空樽二等銘酒一明樽半樽合計十四個ヲ其ノ指定年月日タル昭和十三年十月五日ニ於ケル販賣價格(日本盛空樽六圓五十錢二等銘酒一明樽五圓三十錢半樽三圓五十錢)ヨリ合計金四圓十錢ヲ超過スル對價合計金五十九圓七十錢ニテ販賣シタルモノ云々トスル處ナリ而シテ被告人等カ本件違反事實ヲ認定セララルル爲

メ取調ヘテ受ケタル取引ハ昭和十三年十月五日ヨリ昭和十四年九月末日ニ至ル一箇年間ノ總取引ニシテ(此ノコトハ本件指定年月日カ昭和十三年十月五日ナル點及司法警察吏井谷久吉ノ報告カ昭和十四年九月二十日附提出セラレ居ル事實ニ徴シ明カナリト信ス)被告會社ノ一箇年間ノ取引金額ハ昭和十二年度金二萬九千七百三十二圓八十一錢也又昭和十三年度金三萬七千七百九十一圓八十四錢也(原審提出賣上日記帳寫御參照)ニシテ右二箇年平均三萬三千七百六十二圓三十二錢ニ上レリ仍テ右取調期間内ニ於ケル取引金額ハ三萬圓以上ニシテ取引樽數ハ一萬個ニ達スル次第ナリ即チ被告會社等ハ取引金額三萬圓樽數一萬個中僅カニ金額ニテ四圓十錢樽數十四個ノミカ商工大臣ノ指定日タル昭和十三年十月五日ニ於ケル被告會社ノ實績價格ヲ一樽ニ付十錢乃至一圓ノ超過ヲ見タルモノトシテ原審ニ於テ前掲スルカ如ク認定セラレタルモノナリ二、而シテ被告會社等カ本件違反事實ヲ爲シタルハ實ニ昭和十三年商工省告示第二百八號物品販賣價格取締規則第一條ニ依ル物品及年月日指定ニ關スル件ナル告示ヲ知ラサリシコトニ基因スル處ナリ被告會社等カ告示ヲ知ラサリシコトニ付テハ左ノ調書ニ依リ明カナリト信ス昭和十四年九月九日佐竹岩勇提出始末書ニ於テ「私方テハ前記ノ如キ省令カ實施サレテ居ルコトハ少シモ知リマセヌテシタ爲メニ斯様ナ不都合ヲ致シマシタ次第テ何共申譯カアリマセヌ」ト述ヘ居レル點原審公判ニ於テ「私ハ支那事變カ起ツテカラ國策ニ副フヘク總テノ運動ニ從事盡力シテ來タモノテス然ルニ本規則ノアルコトヲ知ラナカツタ爲メニ犯人トナツタコトヲ遺憾ニ思フ次第テ

アリマス樽ニ付テ迄統制規則カ出來テ居ルコトカ判ツテ居タラ斯様ナコトハ致シテ居リマセヌ」ト述
 へ被告佐竹皆勇ハ本件檢舉ノ當初ヨリ告示ノ不知ヲ主張セル次第ナリ三、昭和十四年九月二十九日附
 司法警察官江崎光二ノ意見書ニ依レハ其ノ犯罪ノ動機及情狀ノ項ニ「被疑者ハ樽カ商工大臣ニ於テ物
 品竝ニ年月日ヲ指定セラレタルコトヲ充分知悉セス這般ノ犯罪ヲ敢行シタルモノノ如シ」ト述へ居レ
 ル點四、昭和十四年八月ニ至リテ(本件檢舉直後)始メテ之カ會合ヲ催シタル點(第一審提出印刷物)右
 被告人ノ供述其ノ他ヲ綜合スレハ被告會社等カ昭和十三年商工省告示第二百八號ヲ知ラサリシコトヲ
 證明スル處ナリ然ラハ右告示不知ノ結果何等犯罪事實タルコトノ認識ナクシテ爲サレタル本件事案ニ
 付犯罪ノ成立ヲ認め得ヘキカ甚タ疑ヒナキ能ハサル處ナリ本件商工省告示ハ昭和十二年九月十日法律
 第九十二號輸出入品等ニ關スル臨時措置ニ關スル法律第二條ニ「政府ハ支那事變ニ關聯シ國民經濟ノ
 運行ヲ確保スル爲メ特ニ必要アリト認ムルトキハ輸入ノ制限其ノ他ノ事由ニ因リテ需給關係ノ調整ヲ
 必要トスル物品ニ付左ノ措置ヲ爲スコトヲ得」トシ其ノ第二號ニ「當該物品又ハ之ヲ原料トスル製品ノ
 配給讓渡使用又ハ消費ニ關シ必要ナル命令ヲ爲スコト」ト定メ配給讓渡使用又ハ消費ニ關スル措置ノ
 内容竝ニ如何ナル物品ニ對シテ斯カル措置ヲ爲スヤハ政府ノ命令ニ委任シタリ仍ツテ政府ハ右委任ニ
 基キ昭和十三年七月九日商工省令第五十六號ヲ以テ物品販賣價格取締規則ヲ制定シ同則第一條ニ「商
 工大臣ノ指定スル物品ヲ販賣スル者ハ何等ノ名義ヲ以テスルヲ問ハス其ノ指定前日ニ於ケル販賣價格

(中略)ヲ超ユル對價ヲ以テ當該物品ヲ販賣(指定前ニ爲シタル契約ニ依ル引渡ヲ含ム)スルコトヲ
 得ス」ト定メ物品竝ニ販賣價格ノ指定ハ商工大臣ノ指定ニ委任スルコトトセリ即チ昭和十二年法律第
 九十二號輸出入品等ニ關スル臨時措置ニ關スル法律及昭和十三年商工省令第五十六號物品販賣價格取
 締規則ハ共ニ物品販賣價格制限ノ根據ヲ定ムルノミニシテ之カ運用上缺クヘカラサル物品名及年月日
 ノ指定ハ商工大臣ノ指定ニ委任シタルモノナリ而シテ商工大臣カ右委任ニ基キ爲シタル指定ハ之ヲ告
 示ナル形式ヲ以テ外部ニ發表スル處ニシテ本件故樽ニ付テハ昭和十三年商工省告示第二百八號ヲ以テ
 其ノ物品名及指定年月日ヲ發表セラレタル次第ナリ茲ニ商工大臣カ爲ス指定ノ本質ハ法ノ制定ニアラ
 スシテ一ツノ處分タル本質ヲ有スルモノニシテ法規制定ニアラサルコト一點疑ナキ處ナリ斯カル告示
 (即チ商工大臣ノ指定ナル處分)ヲ被告カ知ラスシテ何等法禁行爲ニアラスト信シテ爲シタル本件取
 引ハ法律ノ不知ニ基因スルモノニアラスシテ事實不知ニ基因シ右事實ノ不知ニ因ル被告等ノ行爲ハ全
 ク犯意ナキ行爲タルヘキモノナリト謂ハサルヘカラサル處ナリ然ルニ御院判例ニ依レハ輸出入品等ニ
 關スル臨時措置ニ關スル法律違反ニ付テハ犯意ヲ要スルコト一般犯罪ト何等異ナル處ナキ旨ヲ判示セ
 ラルル處ナレハ(昭和十五年(れ)第二三八號事件ニ對スル同年五月九日第二刑事部判決判例集第十
 九卷第八號登載昭和十四年(れ)第一一二七號事件ニ對スル昭和十五年二月二十六日第二刑事部判決
 判例集第十九卷第二號登載)犯意ナキ本件被告人等ノ行爲ハ犯罪ヲ構成セサルコト明カナリト信ス原

審判決カ第一審判決ニ於テ被告會社ニ對シ罰金百圓被告人ニ對シ罰金三十圓ニ處シタルヲ取消シ被告會社及被告人ニ對シ各罰金二十圓ニ處ストノ寛大ナル判決ヲ爲シタル理由ハ被告會社等カ右告示ヲ知ラサリシ結果ノ所爲ナリト認定セラレタル結果斯カル著シキ減輕ヲ爲サレタル次第ナリ然レトモ原審ニ於テ猶有罪判決ヲ爲サレタルハ一ツニ右告示不知ヲ法律ノ不知ト解セラレタル結果ニ外ナラサルナリ然レトモ被告會社等ハ商工大臣ノ指定處分ナル事實ノ不知ノ結果全ク犯意ナク犯罪事實タルコトノ認識ヲ缺除シテ爲シタル本件事案ハ到底犯罪ヲ構成スルニ由ナキ處ナリ五、輸出入品等ニ關スル臨時措置ニ關スル法律制定ノ理由ハ同法第二條ニ宣示セラルル處ナリ即チ支那事變ニ關聯シ國民經濟ノ運行ヲ確保スル爲メ特ニ必要アリト認ムルトキト爲シ今次事變ニ對應シ國策ノ遂行ヲ容易ナラシメ且ツ國民生活ノ確保ヲ以テ其ノ目的トスル處ナリ即チ從來ノ如ク經濟竝ニ物資ノ運行ヲ各人ノ自由ニ放任シ國民ヲシテ私益ノ追及ニ專念セシムルトキハ國策ノ遂行ヲ阻害シ國民生活ヲ不安ニ陥レ國家機構ヲ紊リ延イテ國家ノ公益ヲ害スルニ至ルヘキカ故ニ個人ノ經濟行爲ニ對シ國權ヲ以テ其ノ自由ナル行動ヲ抑制シ以テ國家計畫經濟ノ實現ヲ期シ國策遂行ノ圓滿ナル進展ヲ計ラムトスル處ナリ然ルニ今本件ヲ見ルニ被告會社ハ一箇年三萬圓ヲ超ユル取引額ヲ有シ其ノ取引商品(樽)數一萬個ニ達スル店舗ニ於テ一箇年ニ互リ取調ヘタル結果偶々取引金額五十九圓餘取引商品數十四個ニ付僅カニ四圓十錢ヲ商工大臣指定日ニ於テ實績價格ニ超過セル取引ヲ發見シタリトスルモ之ヲ取ツテ以テ被告會社及被告人

カ右商工大臣ノ告示、省令乃至法律ニ違反スルノ犯罪意思アリタリトスルコト能ハサルヘシ又國策遂行ヲ阻害シ我國ノ經濟運行ノ確保ヲ妨クルカ如キ金額ニアラス全ク斯カル輕微ナル超過ハ何等輸出入品等ニ關スル臨時措置法ノ所企スル目的ニ毫モ影響スル處ナキ事案ナリト言ハサルヲ得ス此ノ點ヨリ觀察スルモ被告會社等ニ於テ本法違反事實ニ對スル犯意ナキコトヲ立證シテ餘リアリト信ス右理由ニ依リ本件被告會社及被告人ノ行爲ハ犯意ナク到底犯罪ノ成立ヲ認ムル能ハサル事案ナルニモ拘ハラス原審ニ於テハ強ヒテ有罪ノ判決ヲ爲サレタルハ全ク違法ノ判決ニシテ到底破毀ヲ免レサルモノナリト信スト云フニ在レトモ

輸出入品等ニ關スル臨時措置ニ關スル法律第二條ニ依レハ政府ハ支那事變ニ關聯シ國民經濟ノ運行ヲ確保スル爲メ必要アリト認ムルトキハ輸入ノ制限其ノ他ノ事由ニ因リ需給關係ヲ調整スル爲メ當該物品ノ販賣ニ關シ價格ノ制限ヲ命令ニ委任セル趣旨ナルコト明ニシテ昭和十三年七月九日商工省令第五十六號物品販賣價格取締規則第一條及同年七月二十八日商工省令第六十八號ニ依リ商工大臣ノ指定スル物品ヲ販賣スル者ハ何等ノ名義ヲ以テスルヲ問ハス其ノ指定ノ際商工大臣ノ指定スル年月日ニ於ケル販賣價格ヲ商工大臣又ハ地方長官カ販賣價格ヲ指定スルトキハ其ノ販賣價格ヲ超ユル對價ヲ以テ當該物品ヲ販賣スルコトヲ得サル旨ヲ定メ更ニ右省令ニ基キ昭和十三年七月二十八日商工省令第二百八號同年十月八日同省告示第二百九十四號ヲ以テ樽(故ノモノヲ含ム)ヲ指定シタルコト右省令及告

【要旨】

示ヲ併セテ通覽スレハ洵ニ明ナリ而シテ法律カ物品販賣價格ノ取締ヲ命令ニ委任シ此ノ命令ニ基キ物品ノ指定ヲ告示シタルトキハ該事項ニ關シテハ其ノ命令又ハ告示ハ相俟テ法律ノ内容ヲ補充シ命令又ハ告示ニ從フコトカ即チ法律ニ從フ所以ニシテ右命令又ハ告示ハ法令ノ制定行為ナリト謂ハサルヲ得ス故ニ右告示ノ如キモ一般法令ト同シク官報ヲ以テ公布國民ニ遵由ノ義務ヲ負ハシメ居ルモノナレハ之カ不知ヲ以テ争フハ畢竟法律ヲ知ラスト云フニ歸スルヲ以テ依テ以テ罪ヲ犯スノ意ナキモノト爲スヲ得サルコト言フ竝タス故ニ右告示ヲ以テ行政官廳ノ處分行爲ナリト論スルハ當ラス而シテ被告人ニ犯意アリタルコトハ原判決ノ認定セル所ニシテ且判示援引證據上疑ナキヲ以テ原判決ニ於テ所論ノ如ク罪トナラサル行為ヲ處罰シタルモノト謂フヲ得ス論旨理由ナシ(其ノ他ノ上告論旨及判決理由ハ之ヲ省略ス)

右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第四百四十六條ニ則リ主文ノ如ク判決ス
 檢事下田勝久關與

○不穩文書臨時取締法違反被告事件 (昭和十五年(九)第一〇九四號
 同年十一月十四日第二刑事部判決 棄却)

【上告人】 被告人 佐藤慶次郎 辯護人 (角岡知夏 三宅仙太郎)
 【第一審】 東京刑事地方裁判所 【第二審】 東京控訴院

○判示事項

不穩文書臨時取締法ニ定ムル不穩文書ノ意義

○判決要旨

不穩文書臨時取締法第一條第二條ニ所謂「治安ヲ妨害スヘキ事項ヲ掲載シタル文書圖書」トハ國家社會公共ノ安全ヲ害スル虞アル事項ヲ掲載シタル文書圖書ヲ指稱スルモノニシテ軍秩ヲ紊亂シ財界ヲ

攪亂シ又ハ人心ヲ惑亂スル等特定ノ治安ヲ妨害スヘキ事項ヲ掲載シタル文書圖書ノミニ限定スヘキモノニ非ス

【参照】不穩文書臨時取締法第一條 軍秩ヲ紊亂シ財界ヲ擾亂シ其ノ他人人心ヲ惑亂スル目的ヲ以テ治安ヲ妨害スヘキ事項ヲ掲載シタル文書圖書ニシテ發行ノ責任者ノ氏名及住所ノ記載ヲ爲サス若ハ虚偽ノ記載ヲ爲シ又ハ出版法若ハ新聞紙法ニ依ル納本ヲ爲ササルモノヲ出版シタル者又ハ之ヲ頒布シタル者ハ三年以下ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス

同法第二條 前條ノ事項ヲ掲載シタル文書圖書ニシテ發行ノ責任者ノ氏名及住所ノ記載ヲ爲サス若ハ虚偽ノ記載ヲ爲シ又ハ出版法若ハ新聞紙法ニ依ル納本ヲ爲ササルモノヲ出版シタル者又ハ之ヲ頒布シタル者ハ二年以下ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス

○事實

第二審ハ左記ノ如ク事實ノ認定及法律ノ適用ヲ爲シ被告人ヲ禁錮三月ニ處ス但本裁判確定ノ日ヨリ二年間右刑ノ執行ヲ猶豫ス訴訟費用ハ全部被告人ノ負擔トスル旨ノ判決ヲ爲シタリ

被告人ハ小樽中學校卒業後早稲田大學法科豫科ニ入學シ第二學年ヲ中途退學シテ日本大學經濟科ニ轉シ大正十二年同大學ヲ卒業シタルカ大學在學中ヨリ思想問題外交問題等ヲ研究シ次第ニ所謂日本精神ノ發揚ヲ目的トスル日本主義ヲ信奉スルニ至リ大正十年頃日本主義ノ研鑽ト共產主義ノ撲滅ヲ目的トスル八紘社ヲ創立シ次テ華府會議ノ際當局者ヲ鞭撻シ輿論ヲ喚起スルコトヲ目的トシテ興國義會ヲ起シ更ニ大正十二年末所謂虎之門事件發生スルヤ同事件ニ關スル

貴族院殊ニ研究會ノ不謹慎ナル行動ヲ膺懲スル爲愛國同志會ヲ組織シタルモ其ノ後專ラ外交軍事思想方面ノ研究ニ没頭シ其ノ間「陸軍縮ト米露東亞經綸」外數種ノ著述ヲ爲シ昭和九年頃ヨリ再ヒ實踐運動ニ携ハリ同年九月頃一君萬民自治精神農本主義ヲ基調トスル日本精神ノ發揚ヲ目的トスル興國自治會(昭和十二年五月皇道自治會ト改稱ス)ヲ創立シテ之ヲ主宰シ山形秋田青森等ニ其ノ支部ヲ設ケ機關雜誌「北光」ヲ發行スルト共ニ光源塾(昭和十一年五月天井村塾ト改稱ス)ヲ組織シ啓蒙運動ニ從事シ來リタルモノナルトコロ昭和十二年一月ノ政變ニ際シ廣田内閣瓦解後陸軍大將宇垣一成大命ヲ拜シテ組閣ニ著手スルヤ同月二十五日興國自治會本部ナル被告人ノ肩書自宅ニ於テ同會執行委員長井上寅雄等ト協議ノ上宇垣内閣出現阻止ノ方針ヲ決定シ直ニ宣言文ヲ作成シタル上即日右兩名ニテ東京市麻布區廣尾町ノ組閣本部ヲ訪レ右宣言文ヲ手交シテ大命拜辭ノ要求ヲ爲シ次テ陸軍大臣參謀次長海軍大臣軍令部次長ヲ歴訪シテ夫々該宣言文ヲ手交シタルカ更ニ興國自治會ノ態度ヲ闡明シテ輿論ヲ喚起スヘク右井上寅雄ト共謀ノ上同月二十六日前記被告人自宅ニ於テ「二十五日の大命降下ニ際して本部のとれる行動」ト題シ「二十五日大命宇垣氏に降下せるを知るや事態頗る重大なるに鑑み同日午前より午後に互つて本部に緊急中央委員會を開催本會の態度を宇垣排撃並に元老の陰謀行爲覆滅に決定し左の宣言文を起草して本朝陸軍大臣參謀本部軍令部兩次長に齎らし極力鞭撻激勵に努むると共に麻布廣尾町なる組閣本部に至つて同宣言文を手交し宇垣氏に自決を迫り他方元老にも之を送達して彼の態度を糾彈膺懲するの舉に出たり」「宣言」「軍部ト政黨トノ對立決戰ハ這迄革新陣營ト自由主義現狀維持勢力トノ對立決戰ヲ意味シ此ノ兩者ハ順逆相容ル可カラステ早晚興敗ヲ決スヘキ時期ニ逢著スヘキハ自明ノ理ニシテ今次ノ政變ハ此ノ意味ニ於テ維新途上劃期的事變テアル吾等ハ皇國維新國體明徴ノ成否此ノ一舉ニアルヲ信念シ總躍起シテ以テ既成大逆勢力ノ中央突破ヲ敢行セサルヘカラス嘗テハ 陸下ノ軍隊ヲ政黨ニ賣リ自家名利ノ具ニ使用シタル疑アル自由主義軍閥ノ巨頭宇垣ヲ奏請シタル元老西園寺ノ行動ハ皇國維新ノ趨勢ヲ無視シ既成勢力ヲ代表シテ維新大義勢力

不穩文書臨時取締法ニ定ムル不穩文書ノ意義

ニ挑戦シ大權ヲ擁シテ皇道維新ノ達成ヲ阻止セントスル陰謀ナリト認ム吾等ハ維新ノ途上必然幾難關ニ遭遇スルヲ覺悟シ上 陛下ノ御前ヲ斷シテ清被セン爲大道直行堂々ノ進軍ヲ開始センコトヲ誓フ此ノ膝一度屈セハ又延フヘカラス維新ノ成敗此ノ一舉ニアリ軍部諸公願ハクハ國體明徴ノ大義ニ則リ宇垣自由主義軍閥ヲ徹底排撃シ奸賊西園寺元老ノ陰謀ヲ斷乎覆滅セラレンコトヲ天神地祇ハ唯至誠一貫ノ上ニアリ右宣言ス昭和十二年一月二十六日興國自治會同志一同ト記載シ所謂革新勢力ト自由主義現狀維持勢力ノ對立相列ヲ誇張シ宇垣ハ自由主義軍閥ノ巨頭ニシテ之ヲ奏請シタル元老西園寺ノ行動ハ大權ヲ擁シテ皇道維新ノ達成ヲ阻止セントスル陰謀ナリト斷シ自由主義軍閥ヲ徹底排撃シ奸賊西園寺元老ノ陰謀ヲ斷乎覆滅スヘキコトヲ高唱煽動シ且總驅起シテ即成大逆勢力ノ中央突破ヲ敢行セサル可カラスト主張シ之カ爲ニハ實力行使ヲモ辭セサルカ如キ趣旨ヲ暗示セル治安ヲ妨害スヘキ事項ヲ掲載シタル文書約百部ヲ騰寫印刷シ其ノ發行責任者ノ氏名及住所記載ヲ爲サス且出版法ニ依ル納本ヲ爲サスシテ内約五十部ヲ其ノ頃廣田前内閣總理大臣各閣僚湯淺内大臣松平宮内大臣其ノ他各友誼團體並ニ興國自治會各支部宛ニ郵送頒布シタルモノナリ法律ニ照スニ被告人ノ判示所爲ハ不穩文書臨時取締法第二條刑法第六十條ニ該當スルヲ以テ所定刑中禁錮刑ヲ選擇シ其ノ刑期範圍内ニ於テ被告人ヲ禁錮三月ニ處シ尙情狀右刑ノ執行ヲ猶豫スルヲ相當ト認メ刑法第二十五條第二號刑事訴訟法第三百五十八條第二項ニ則リ本裁判確定ノ日ヨリ二年間右刑ノ執行ヲ猶豫スヘク訴訟費用ニ付テハ刑事訴訟法第二百三十七條第一項ヲ適用シ被告人ヲシテ全部之ヲ負擔セシムヘキモノトス

○主 文

本件上告ハ之ヲ棄却ス

○理 由

辯護人角岡知良上告趣意書第一點原判決ハ理由不備ノ違法アルニ非サレハ擬律錯誤ノ不法アリテ破毀ヲ免レスト思料ス原判決ノ事實理由ニ依レハ被告人ハ……昭和十二年一月ノ政變ニ際シ廣田内閣瓦解後陸軍大將宇垣一成大命ヲ拜シテ組閣ニ著手スルヤ宇垣ハ自由主義軍閥ノ巨頭ニシテ之ヲ奏請シタル元老西園寺ノ行動ハ皇道維新ノ達成ヲ阻止セントスル陰謀ナリト斷シ自由主義軍閥ヲ徹底排撃シ奸賊西園寺元老ノ陰謀ヲ斷乎覆滅スヘキコトヲ高唱シ之カ爲ニハ實力行使ヲモ辭セサルカ如キ趣旨ヲ暗示セル治安ヲ妨害スヘキ事項ヲ掲載シタル文書約百部ヲ騰寫印刷シ……内約五十部ヲ其ノ頃廣田前内閣總理大臣其ノ他各友誼團體並ニ興國自治會各支部宛ニ郵送頒布シタルモノナリト判示シ右被告人ノ所爲ニ對シ不穩文書臨時取締法第二條ヲ以テ問擬シタリ然レトモ不穩文書臨時取締法第二條ニ謂フ所ノ不穩文書トハ軍秩ヲ紊亂シ財界ヲ攪亂シ其ノ他人心ヲ惑亂スル等之等特定ノ治安ヲ妨害スル事項ヲ掲載シタル文書ナリ換言セハ單ニ一般治安ノ妨害事項ヲ掲載シタルノミヲ以テハ未タ其ノ要件ヲ充足セス敍上三種ノ治安妨害事項ノ内何レカニ該當スヘキ事項ヲ掲載シタル文書ナラサルヘカラス蓋シ不穩文書臨時取締法第二條ハ同法第一條トハ異リテ目的犯ニ非サルコト明カナレトモ右第二條ノ所謂治安ヲ妨害スル文書トハ同法第一條ニ特定セラレタル三種ノ治安ヲ妨害スル文書ナラサル可カラサルコトハ法文自體ニ徴シテ明カナルノミナラス同法ハ制定當時ノ社會狀勢ニ於テ特ニ重要視サレタル軍秩紊亂財界攪亂其ノ他人心惑亂ノ特定治安ノ妨害ヲ嚴重取締リ之ヲ防止スル目的ヲ以テ立法セラレタルモ

ノニシテ一般治安ノ妨害即チ一般社會ノ安寧秩序ヲ妨害スル事項ヲ掲載シタルニ止マル文書ハ出版法違反ノ物體ニシテ其ノ取締防止處罰等其ノ法益保護ハ出版法ヲ以テ必要且充分ナリト云ハサルヘカラサレハナリ然ルニ原判決カ單ニ漠然ト治安ヲ妨害スヘキ事項ヲ掲載シタル文書ナリト判示シタルニ止マリ進テ敍上三種ノ特定治安ノ内ノ如何ナル治安ヲ妨害スヘキ文書ナリヤ判示セサルハ罪トナルヘキ事實ヲ明示セサル理由不備ノ違法アルニ非サレハ罪トナラサル事實ニ對シ不穩文書臨時取締法第二條ヲ問擬シタル不法ヲ免レスト思料スルモノナリト云ヒ辯護人三宅仙太郎上告趣意書第二點原判決ハ判決ニ示スヘキ判斷ヲ遺脱シタルノ違法アリ不穩文書臨時取締法ハ新聞紙法及出版法ノ特別法ニシテ同法第二條ノ所謂不穩文書ハ軍秩ヲ紊亂シ財界ヲ攪亂シ其ノ他人心ヲ惑亂スル治安妨害事項ヲ掲載シタル文書ナルコト言フ俟タス之ヲ新聞紙法第四十一條及出版法第二十七條ノ所謂安寧秩序妨害事項掲載ノ文書ニ比較スルニ前者ハ同法列舉ノ特定治安妨害事項掲載ノ文書ニシテ後者ハ一般社會ノ安寧秩序即チ一般治安妨害事項掲載ノ文書ナリ果シテ然リトスレハ不穩文書臨時取締法ノ適用ニ當リテハ當該文書カ一般治安妨害事項掲載ノ文書ナリヤ否ヤノ點ヲ先ツ第一ニ判斷シ更ニ進ンテ同法第一條列舉ノ如何ナル治安妨害事項掲載ノ文書ナリヤ判示シテ之ヲ判示セサルヘカラス然ルニ原判決ハ此ノ點ニ關スル判斷ノ説明ヲ遺脱シ本件文書ヲ目シテ單ニ治安ヲ妨害スヘキ事項ヲ掲載シタル文書ト斷シ去ツタルニ過キスシテ其ノ内容タル事項カ一般治安ヲ害スルモノナリヤ將タ軍秩紊亂財界攪亂其ノ他人

【要旨】

心惑亂ノ何レニ該當スル治安妨害事項掲載ノ文書ナルヤニ付何等ノ判斷ヲ爲サス或ハ爲シタリトスルモ之ヲ判示セサルハ判決ニ示スヘキ判斷ヲ遺脱シタルノ違法アリト云フヘシト云フニ在リ
 按スルニ不穩文書臨時取締法第二條ニ所謂前條ノ事項ヲ掲載シタル文書圖書トハ同法第一條ニ定ムル治安ヲ妨害スヘキ事項ヲ掲載シタル文書圖書ヲ指稱スルモノナルコト該規定ノ文詞ニ照シ明カニシテ斯ル不穩文書ノ發行又ハ頒布カ軍秩ヲ紊亂シ財界ヲ攪亂シ其ノ他人心ヲ惑亂スルカ如キ目的ニ出テタル場合ニ於テハ第一條ヲ適用スヘク然ラサル場合ニ於テハ第二條ヲ適用スヘキモノナルコト疑ヲ容レス而シテ前記「治安ヲ妨害スヘキ事項」トハ國家社會公共ノ法的安全ヲ害スル虞アル事項ヲ謂ヒ現行出版法制ニ於ケル朝憲紊亂政體變壞及安寧秩序紊亂ヲモ包含スルモノニシテ右第一條第二條ニ定ムル不穩文書ヲ所論ノ如ク軍秩ヲ紊亂シ財界ヲ攪亂シ又ハ人心ヲ惑亂スル等之等特定ノ治安ヲ妨害スヘキ事項ヲ掲載シタル文書ナリト解スヘキモノニ非サルコト該法文自體ニ徴シ極メテ明瞭ナリトス然レハ原判決カ判示ノ如ク本件文書ノ内容ヲ舉示シ之ヲ以テ治安ヲ妨害スヘキ事項ヲ掲載シタル文書ナリト認メ同法第二條ヲ以テ問擬シタルハ其ノ理由ヲ具備シタルモノニシテ且擬律モ正當ナリトス從テ又此ノ點ニ付所論ノ如ク判斷ヲ遺脱シタリト爲スヲ得ス論旨孰レモ理由ナシ(其ノ他ノ上告論旨及判決理由ハ之ヲ省略ス)
 右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第四百四十六條ニ則リ主文ノ如ク判決ス
 檢事柴碩文關與

○私文書偽造行使詐欺未遂被告事件ノ再審請求棄却決定ニ對スル
抗告事件

(昭和十五年(五)第一九號
同年十一月十八日第一刑事部決定 棄却)

【抗告人】 再審請求人 山城禮班 辯護人 村井清造
【原 審】 名古屋控訴院

○判示事項

再審請求棄却決定ニ對スル代理人又ハ辯護人ノ抗告申立

○決定要旨

再審請求棄却決定ニ對シテハ代理人ニ依ル抗告申立ヲ許サス又其
ノ送達後ニ選任セラレタル辯護人モ獨立シテ抗告申立ヲ爲スノ權
ナシ

【參照】 刑事訴訟法第三百七十六條 上訴ハ檢事又ハ被告人之ヲ爲スコトヲ得

同法第三百七十七條 檢事又ハ被告人ニ非サル者ニシテ決定ヲ受ケタル者ハ抗告ヲ
爲スコトヲ得

同法第三百七十九條 原審ニ於ケル代理人又ハ辯護人ハ被告人ノ爲上訴ヲ爲スコト
ヲ得但シ被告人ノ明示シタル意思ニ反スルコトヲ得ス

同法第四百九十三條 檢事ニ非サル者再審ノ請求ヲ爲ス場合ニ於テハ辯護人ヲ選任
スルコトヲ得

前項ノ規定ニ依ル辯護人ノ選任ハ再審ノ判決アル迄其ノ效力ヲ有ス

○事實

事實關係ハ決定理由ニ説示スル所ノ如シ

○主 文

本件抗告申立ハ之ヲ棄却ス

○理 由

本件抗告申立ノ要旨ハ一、抗告人ニ對スル私文書偽造行使詐欺未遂被告事件ニ付昭和十五年三月一日
原裁判所タル名古屋控訴院ニ於テ言渡サレタル有罪ノ判決ニ對シ抗告人ハ上告ノ申立ヲ爲シ同年六月
二十日大審院ニ於テ上告棄却ノ判決ヲ受ケ前記名古屋控訴院ニ於テ言渡サレタル有罪判決確定セリ
二、然ル處抗告人(再審請求人)ハ右判決ニ對シ再審ノ原由ヲ發見シタルヲ以テ原院ニ再審請求申立

再審請求棄却決定ニ對スル代理人又ハ辯護人ノ抗告申立

ヲ爲シタル處原院ハ昭和十五年八月二十八日再審請求棄却ノ決定ヲ爲シ抗告人ハ該決定謄本ノ送達ヲ昭和十五年九月十八日受ケタルモ該決定ハ事實誤認法律ニ違背シタル不法ナルモノニ付茲ニ即時抗告ヲナス次第ナリ三、理由第一點刑事訴訟法第四百八十五條第二號ノ再審ノ原由ト同第六號ノ原由トハ各獨立ノ再審ノ原由ニシテ有罪ノ言渡ヲ受ケタル者ニ對シ全部又ハ一部ノ無罪又ハ原判決ニ認メタル罪ヨリ輕キ罪ヲ認ムヘキ明確ナル證據ヲ新ニ發見シタル場合ニハ原判決ノ證據トナリタル證言鑑定通譯又ハ翻譯ノ虛偽ナルコトカ確定判決ニ依リ證明サルルヲ要セスシテ再審ノ原由アルモノト解スヘキモノト信ス本件ニ於テ抗告人(再審請求人)ハ曩ノ有罪判決ニ於テ證第八十五號ノ借用證ヲ橋出寅吉ニ對スル家屋明渡等訴訟ノ取下示談ヲ條件トシテ作成セシメテ騙取シ之ニ基キ金澤地方裁判所民事部ニ貸金請求訴訟ヲ提起シ詐欺未遂ヲ犯シタリトセラレタリト雖モ新ニ再審請求書ニ添附提出ノ借用證(再審證第一號)ヲ發見シ該證カ右訴訟ノ取下示談ヲ條件トシテ加藤賢ノ手ヲ經テ抗告人ニ差入レラレタルモノナルコトヲ發見スルニ至リタルカ該借用證ハ未タ嘗テ行使セラルルコトナクシテ抗告人ノ手許ニ在リタルモノナレハ證第八十五號ノ借用證ヲ騙取シ之ヲ行使シタリトノ犯罪ハ存在セサルモノナルコトヲ詳細説明シタルニ拘ラス原決定ハ此ノ點ニ付判斷スルコトナク單ニ右證人ノ各證言カ確定判決ニヨリ虛偽ナリシコトヲ證明セラレス又右委任狀カ確定判決ニ依リ偽造ナリシコトヲ證明セラレサルコトハ請求人ノ自認スルトコロナルヲ以テ再審ノ理由ナシトテ棄却シタルハ失當ナリ第二點本件

再審請求ニ於テ抗告人ハ有罪判決摘示證第四十七號記錄中ノ訴訟委任狀ハ其ノ判決認定ノ如ク橋出寅吉ノ作成ニ非サルコト即チ同委任狀ニ於ケル横井與市名義ハ加藤賢ノ内縁ノ妻加野ツエノ筆書ニシテ橋出寅吉ヲシテ作成セシメタルニ非サル明確ナル證據ヲ發見シタルモノナリ此ノ點ハ同委任狀ノ筆跡トノ對照鑑定等ニヨリ容易ニ知り得ヘキ所ニシテ抗告人ハ再審請求書ニ橋出寅吉ノ證言カ偽證ナルコトヲ主張シ且同人ヲ偽證罪ニテ告訴シアルモ未タ其ノ偽證ニ付確定判決ナキハ事實ナレトモ此ノコトハ單ニ刑事訴訟法第四百八十五條第一號又ハ第二號ノ再審ノ原由ヲ得サルニ止マリ同條第六號ノ再審ノ原由ヲ主張スルコトヲ妨クルモノニ非スト信ス然ラハ原決定ハ本件再審請求カ同法同條第六號ニ繫ルモノナルコトヲ看過シテ棄却シタル違法アルモノニシテ破毀ヲ免レスト云フニ在リ

記錄ニ就キ之ヲ查スルニ山城禮班ハ自ラ昭和十五年七月一日原院ニ對シ再審請求ノ申立ヲ爲シ同年八月二十八日原院ニ於テ該申立棄却ノ決定ヲ受ケ其ノ決定書ハ同年九月十八日申立人ニ送達セラレ同年九月二十日附本院宛辯護人選任届ヲ以テ連署ノ上村井清造ヲ辯護人ニ選定シ同辯護人ヨリ其ノ名ニ於テ本件抗告申立書ヲ提出シタルコト明瞭ナリ仍テ按スルニ刑事訴訟法第三百七十六條ニ依レハ上訴ハ檢事又ハ被告人ニ於テ之ヲ爲スコトヲ原則トシ檢事又ハ被告人ニ非サル者ニシテ決定ヲ受ケタルモノハ同法第三百七十七條ニ依リ抗告ヲ爲スコトヲ得ヘキモ元來刑事訴訟行爲ハ本人自ラ之ヲ爲スヲ本則トシ只特ニ明文ヲ以テ許容セラレタル場合ニ限り代理人ニ依リ之ヲ爲スコトヲ得ヘキニ止ル而シテ同

法第三百七十九條ニ依レハ辯護人モ亦被告人ノ爲ニ上訴ヲ爲シ得ヘキ規定アリト雖之レ原審ニ於ケル辯護人ニ限定セラレ既ニ原審ノ決定送達後ニ選任セラレタル辯護人ノ如キハ其ノ中ニ包含セラレサルコト蓋シ疑ヲ容ルルノ餘地毫モ存在セス果シテ然ラハ本件村井清造ヨリ爲シタル抗告申立ハ辯護人トシテ之ヲ許スヘキニ非サルハ勿論又特ニ明文ノ見ルヘキモノ存在セサル本件ニ於テ代理人トシテモ亦之ヲ認許スヘキ筋合ノモノニ非サルコト多言ヲ俟タスシテ明白ナルヲ以テ本件申立ハ不適法ナリト謂ハサルヲ得ス固ヨリ同法第四百九十三條ニ依レハ再審ノ請求ヲ爲ス場合ニ於テハ辯護人ヲ選任スルコトヲ得ヘキモ該規定アルカ爲ニ原審ノ辯護人ニモ非サル村井清造ヨリ本件抗告申立ヲ爲スノ權能アリト速斷スルヲ許ササルナリ

以上ノ理由ナルヲ以テ本件抗告申立ヲ不適法トシテ棄却スヘキモノトシ刑事訴訟法第四百六十六條第一項前段ニ則リ主文ノ如ク決定ス

檢事田口環關與

○警察犯處罰令違反被告事件 (昭和十五年(レ)第一〇九號 棄却)
(同年十一月十八日第二刑事部判決)

【上告人】 被告人 宮澤平 馬 辯護人 譽田三十郎
外三名 江見盛秀

【第一審】 高崎區裁判所 【第二審】 前橋地方裁判所

○判示事項

警察犯處罰令第二條第十八號ニ所謂醫療ヲ妨ケタル者ノ意義

○判決要旨

警察犯處罰令第二條第十八號ニ所謂醫療ヲ妨ケタル者トハ醫療ヲ必要トスル病者ノミニ限ラス醫師ヨリ既ニ不治ノ病ト看做サレタルトキニ於テモ醫療效驗ナク神水ニノミ頼ルヘキ旨申向ケテ之ヲ

警察犯處罰令第二條第十八號ニ所謂醫療ヲ妨ケタル者ノ意義

與へ以テ醫藥ノ服用ヲ廢止スルニ至ラシメタル場合ヲモ包含スルモノトス

【参照】警察犯處罰令第二條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ三十日未滿ノ拘留又ハ二十日未滿ノ科料ニ處ス

十八 病者ニ對シ禁厭、祈禱、符呪等ヲ爲シ又ハ神符、神水等ヲ與へ醫藥ヲ妨ケタル者

○事實

第二審ハ左記事實ノ認定及法律ノ適用ヲ爲シテ被告人平馬ヲ拘留十日ニ處ス被告人民藏、憲一及計佐義ヲ各科料十五圓ニ處ス但シ被告人平馬ニ對シ未決拘留日數中十日ヲ右本刑ニ算入ス被告人民藏、憲一、計佐義ニ於テ右科料ヲ完納スルコト能ハサルトキハ科料金一圓ヲ一日ニ換算シタル期間當該被告人ヲ勞役場ニ留置ス(被告人平馬ノ無罪及各被告人ニ對スル訴訟費用ノ點省略)ル旨ノ判決ヲ爲シタリ被告人等ハ日蓮宗本門八品淨風教會ノ會員ニシテ被告人印東民藏ハ同教會群馬支部長同宮澤平馬ハ同教會教務補同神山憲一ハ同教會群馬支部前橋第二部副組長ヲ各務メ佐藤計佐義ハ一般信徒トシテ孰レモ同宗ノ熱心ナル信者ナルトコト被告人印東民藏ハ昭和十四年八月十六日頃同宗ノ信徒小栗銀次郎ヨリ群馬縣碓氷郡松井田大字松井田四百二十四番地ノ二神宮ゆくノ娘京子(當時二十二歳)カ肺結核ニテ重態ナルヲ以テ病氣平癒ノ祈願ヲ受ケ度キ意響アル旨ノ通知ニ接スルヤ被告人宮澤平馬同神山憲一等ト協議ノ上同月十八日共ニ右神宮方ニ到リゆく及京子ヲ同教會ニ入會セシメタル上御本尊ヲ祀リ同所ニ於テ同日以降同年九月十六日京子ノ死亡ニ至ル迄又被告人佐藤計佐義ハ同年八月二十四日被告人印東民藏ヨリ同人等カ京子ノ病氣平癒ヲ祈願シ居ル旨ヲ聞知シ神宮方ニ赴キ前記被告人等ト相謀リ共々同日

以降京子ノ死亡ニ至ル迄ノ間互ニ交代繼續シ京子ノ病氣平癒ノ祈願ヲ爲シ其ノ間被告人等ハ交々京子並ニゆくニ對シ日蓮宗ノ御指南ニテハ御本尊ニ供ヘタル生水ハ之ヲ御供水ト謂ヒ信念ヲ以テ戴クニ於テハ藥同様ノ效驗アリ醫藥ノ要ナキ故之ノミニ頼ルヘキ旨ヲ申向ケ京子ニ對シ生水ノ飲量ヲ約五合ヨリ日増ニ増量シ遂ニ一日約五升ヲ飲用セシメ因テ同年五月頃ヨリ引續キ同町醫師武井才止郎ノ診察ヲ受ケ治療ヲ續ケ居リタル同人ヲシテ前示八月十八日以降醫藥ノ服用ヲ廢セシメ且其ノ看護ニ當リ居リ尙醫療ヲ續ケントスル意思ヲ有シ居リタルゆくヲシテ京子ノ死亡ニ至ル迄ノ間同年九月上旬頃僅カ一回被告人等ニ祕シテ武井醫師ヲ招キ診察ヲ受ケシメタルニ止メ以テ京子ノ醫療ヲ妨ケタルモノナリ

法律ニ照スニ被告人等ノ判示所爲ハ警察犯處罰令第二條第十八號刑法第八條第六十條ニ該當スルヲ以テ被告人宮澤平馬ニ對シテハ所定刑中拘留刑ヲ選擇シ其ノ刑期範圍内ニ於テ拘留十日ニ處スヘク被告人印東民藏同神山憲一同佐藤計佐義ニ對シテハ同條所定刑中科料刑ヲ選擇シ其ノ科料額ノ範圍内ニ於テ被告人等ヲ夫々科料十五圓ニ處スヘク右科料ヲ完納スルコト能ハサルトキハ刑法第十八條第二項ニ依リ金一圓ヲ一日ニ換算シタル期間當該被告人等ヲ勞役場ニ留置スヘキモノトス尙被告人宮澤平馬ニ對シテハ刑法第二十一條ニ則リ其ノ未決拘留日數中十日ヲ右本刑ニ算入スヘキモノトス

○主文

本件上告ハ執レモ之ヲ棄却ス

○理由

各被告人辯護人譽田三十郎、江見盛秀、譽田實上告趣意書第一點原判決ハ擬律ノ錯誤アリ原判決理由

警察犯處罰令第二條第十八號ニ所謂醫療ヲ妨ケタル者ノ意義

ニ依レハ「(前略)被告人等ハ相謀リ同日以降京子ノ死ニ至ル迄ノ間互ニ交代繼續シ京子ノ病氣平癒ノ祈願ヲ爲シ其ノ間被告人等ハ交々京子竝ニゆくニ對シ日蓮宗ノ御指南ニテハ御本尊ニ供ヘタル生水ハ之ヲ御供水ト謂ヒ信念ヲ以テ戴クニ於テハ藥同様ノ效驗アリ醫藥ノ要ナキ故之ノミニ頼ルヘキ旨ヲ申向ケ京子ニ對シ生水ノ飲量ヲ約五合ヨリ日増ニ増量シ遂ニ一日約五升ヲ飲用セシメ因テ同年五月頃ヨリ引續キ同町醫師武井才止郎ノ診療ヲ受ケ治療ヲ續ケ居リタル同人ヲシテ前示八月十八日以降醫藥ノ服用ヲ廢止セシメ且ツ其ノ看護ニ當リ居リ尙醫藥ヲ續ケントスル意思ヲ有シ居リシゆくヲシテ京子ノ死亡ニ至ル迄ノ間同年九月上旬頃僅ニ一回被告人等ニ祕シテ武井醫師ヲ招キ診察ヲ受ケシメタルニ止メ以テ京子ノ醫藥ヲ妨ケタルモノナル旨(下略)」判示セリ然レトモ第一審證人武井才止郎供述同人ニ對スル警察聽取書原審證人神宮ゆく供述同人ニ對スル警察第一回聽取書檢事聽取書小栗銀次郎ニ對スル警察聽取書印東民藏ニ對スル同上第一回聽取書各被告人等ノ原審公判ニ於ケル辯解等ヲ綜合スレハ京子ハ昭和十四年一月發病シ同年五月以來醫師武井才止郎ノ診療ヲ受ケタルモ此ノ時ハ既ニ肺結核トナリ次テ腸ヲ胃サレ遂ニ全身結核トナリ同醫師モ匙ヲ抛ケタルタメ同年八月中更ニ佐藤醫學博士ノ來診ヲ乞ヒ武井ト立會診察セシメシトコロ其ノ頃ハ病勢頗ル重態ニシテ同博士モ八月一杯ハ生キラレヌト診斷シ以テ死ノ宣告ヲ與ヘタル事實竝ニ其ノ結果京子初メゆくモ最早醫藥ノ特ムヘカラサルコトヲ知り信仰ニ入ラント決意シ同年八月小栗銀次郎ヲ介シ日蓮宗本門八品淨風教會群馬縣支部長印東

民藏ニ申込ミ同教會ノ信者トナリ茲ニ被告人等ニ依頼シ同月十八日以來九月十六日死亡ニ至ル迄病氣平癒ノ祈願ヲナスニ至リタル事實ハ何レモ明白ニシテ寸毫ノ疑ナキ點ナリ加之肺結核乃至腸結核ニシテ如上重態ニ陥リタルモノハ現代醫學上不治ノ疾病ト認メラレ居ルコトモ亦言ヲ俟タサルトコロナリトスサレハ若シ吾人カ一朝不幸ニシテ斯ル不治ノ病ニ罹リ醫者ヨリ死ノ宣告ヲ與ヘラレタリトセハ醫藥ヲ廢シテ信仰ニ入り病氣平癒ノ祈願ヲナス等精神療法ニ依ルカ又ハ何等カノ自然療法ニヨリテ病氣克服ノ途ヲ講セントスルハ人間ノ本能ニシテ何人ト雖モ當然取ルヘキ處置ナリトス而シテ國法モ亦斯ル療法ヲ禁止スヘキ理由毫モ存セサルモノト思料ス依ツテ警察犯處罰令第二條第十八號ニ「病者ニ對シ祈禱云々醫藥ヲ妨ケタル者トアル所謂病者トハ醫藥ヲ必要トスル病者ノミヲ指稱シ已ニ醫者ヨリ見放サレ不治ノ病ト確定シタル病者ノ如キハ醫藥ノ必要之ナキモノナレハ之ヲ除外スヘキ趣旨ナリト解スルヲ同法ノ精神ナリト信ス蓋シ醫者ヨリ死ノ宣告ヲ與ヘラレタル京子ノ如キ病者ハ最早醫藥ノ必要ナキモノナレハ若シ斯ルモノニ對シ尙醫藥ヲ施スハ形式上醫藥ノ型ニヨリテ無意味且ツ無用ノコトヲナスニ過キス實質上醫藥トハ謂ヒ得サルヲ以テ假ニ被告人等カ京子ニ對シ醫藥ヲ廢シ信心專一ニセヨト申聞ケ之ヲ差止メタリトスルモ之ヲ目シテ醫藥妨害トハ謂ヒ得サル道理ナレハナリ然ルニ原審カ被告人等ノ行爲ヲ目シテ醫藥ヲ妨害シタルモノト認定シタルハ同法條ノ精神ヲ誤解シタル違法アリ擬律錯誤ナリト謂ハサルヲ得スト云フニ在レトモ

【要旨】

警察犯處罰令第二條第十八號ニ所謂醫療ヲ妨ケタル者トハ醫療ヲ必要トスル病者ノミニ限ラス既ニ醫師ヨリ不治ノ病ト看做サレ病者モ亦醫療ノ持ムヘカラスト思惟スルニ至リタル時ニ於テモ醫療效驗ナク神水ニノミ頼ルヘキ旨申向ケテ之ヲ與ヘ以テ醫藥ノ服用ヲ廢止スルニ至ラシメタル場合ヲモ包含スルモノトス原判決ノ認メタル事實ハ論旨摘録ノ如クナルヲ以テ右法條ニ該當スルコト言フ俟タス故ニ原判決ニハ所論ノ如ク擬律ノ錯誤アルモノト謂フヘカラス論旨理由ナシ(其ノ他ノ上告論旨及判決理由ハ之ヲ省略ス)

右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第四百四十六條ニ則リ主文ノ如ク判決ス
檢事下田勝久關與

○縣會議員選舉罰則違反竝當選無效附帶訴訟事件

(昭和十五年(九)第一〇二二號 棄却)
昭和十五年十一月六日第三刑事部判決

【上告人】 被告人 佐川 清光 (高橋武夫)
外三名 辯護人 (井上末光)

【私訴上告人】 被告 佐川 清光 訴訟代理人辯護士 松本 重吉
【第一審】 松山地方裁判所 【第二審】 廣島控訴院

○判示事項

當選無效附帶訴訟ヲ提起シ得ヘキ檢事

○判決要旨

府縣制第三十四條ノ二第三項ニ依リ當選無效附帶訴訟ヲ提起シ得

當選無效附帶訴訟ヲ提起シ得ヘキ檢事

ヘキ者ハ公訴ノ第一審裁判所檢察ナルヲ以テ足り公訴ノ擔當檢察
タルコトヲ要セス

七六八 (108)

【參照】府縣制第三十四條ノ二第三項 檢察ハ衆議院議員選舉法第一百十二條乃至第百
十三條ノ規定ノ準用ニ依ル罪ニ該ル事件ノ被告人カ選舉事務長又ハ選舉事務長ニ
非スシテ事實上選舉運動ヲ總括主宰シタル者ナルニ因リ同法第三百三十六條ノ規定
ノ準用ニ依リ當選ヲ無効ナリト認ムルトキハ公訴ニ附帶シ當選者ヲ被告トシテ訴
訟ヲ提起スルコトヲ要ス

同條第四項 衆議院議員選舉法第八十五條、第八十七條、第四百十一條及第四百十一條
ノ三ノ規定ハ第一項又ハ第二項ノ規定ニ依ル訴訟ニ、同法第四百十一條ノ三ノ規定
ハ前項ノ規定ニ依ル訴訟ニ之ヲ準用ス

衆議院議員選舉法第一百十二條 左ノ各號ニ掲クル行爲ヲ爲シタル者ハ三年以下ノ懲
役若ハ禁錮又ハ二千圓以下ノ罰金ニ處ス

- 一 當選ヲ得若ハ得シメ又ハ得シメサル目的ヲ以テ選舉人又ハ選舉運動者ニ對シ
金錢、物品其ノ他ノ財産上ノ利益若ハ公私ノ職務ノ供與其ノ供與ノ申込若ハ約束
ヲ爲シ又ハ獎勵接待、其ノ申込若ハ約束ヲ爲シタルトキ
- 二 當選ヲ得若ハ得シメ又ハ得シメサル目的ヲ以テ選舉人又ハ選舉運動者ニ對シ
其ノ者又ハ其ノ者ノ關係アル社寺、學校、會社、組合、市町村等ニ對スル用水、小作、債權
寄附其ノ他特殊ノ直接利害關係ヲ利用シテ誘導ヲ爲シタルトキ
- 三 投票ヲ爲シ若ハ爲ササルコト、選舉運動ヲ爲シ若ハ止メタルコト又ハ其ノ周旋

勸誘ヲ爲シタルコトノ報酬ト爲ス目的ヲ以テ選舉人又ハ選舉運動者ニ對シ第一
號ニ掲クル行爲ヲ爲シタルトキ

四 第一號若ハ前號ノ供與、獎勵接待ヲ受ケ若ハ要求シ、第一號若ハ前號ノ申込ヲ承
諾シ又ハ第二號ノ誘導ニ應シ若ハ之ヲ促シタルトキ

五 第一號乃至第三號ニ掲クル行爲ヲ爲シタル目的ヲ以テ選舉運動者ニ對シ金
錢若ハ物品ノ交付、交付ノ申込若ハ約束ヲ爲シ又ハ選舉運動者其ノ交付ヲ受ケ若
ハ要求シ若ハ其ノ申込ヲ承諾シタルトキ

六 前各號ニ掲クル行爲ニ關シ周旋又ハ勸誘ヲ爲シタルトキ
選舉事務ニ關係アル官吏又ハ吏員當該選舉ニ關シ前項ノ罪ヲ犯シタルトキハ四年
以下ノ懲役若ハ禁錮又ハ三千圓以下ノ罰金ニ處ス警察官吏其ノ關係道府縣内ノ選
舉ニ關シ前項ノ罪ヲ犯シタルトキ亦同シ

同法第四百十一條ノ二 第八十四條第二項ノ規定ニ依ル訴訟ニ付テハ刑事訴訟法中
第五百七十二條第二號第三號第五號乃至第八號第十號乃至第十三號、第五百七十四
條、第五百八十二條、第五百八十八條、第五百八十九條、第五百九十一條、第六百五條乃至
第六百十條及第六百十二條ノ規定ヲ除ク外私訴ニ關スル規定ヲ準用ス但シ同法第
五百七十六條中民事訴訟法トアルハ刑事訴訟法トシ民事部トアルハ刑事部トス
第八十四條第二項ノ規定ニ依ル訴訟ニ付當選無効ノ判決確定スト雖モ其ノ判決ハ
公訴ニ付有罪ノ判決確定スルニ非ザレバ其ノ效力ヲ生ゼズ
刑事訴訟法第五百六十八條 私訴ハ公訴ニ付第一審ノ辯論終結スルニ至ル迄之ヲ提
起スルコトヲ得但シ豫審中ハ之ヲ提起スルコトヲ得ス

當選無効附帶訴訟ヲ提起シ得ヘキ檢事

七六九

(109)

第二審ハ被告人佐川清光外三名ニ對スル縣會議員選舉罰則違反被告事件ニ附帶スル當選無效訴訟ニ於テ左記ノ事實ニ對シ昭和十四年九月二十五日施行ノ愛媛縣縣會議員選舉ニ於テ伊豫郡選舉區ニ於ケル被告ノ當選ハ之ヲ無効トスル旨ノ判決ヲ爲シタリ

原告ハ主文ト同趣旨ノ判決ヲ求メ被告ハ請求棄却ノ判決ヲ求メタリ當事者雙方ノ事實上ノ陳述ハ孰レモ原判決事實摘示ト同一ナルヲ以テ茲ニ之ヲ引用ス

證據トシテ原告ハ本件公訴記録全部ヲ援用シ被告ハ本件公訴記録全部並原審第六回公判調書中證人福岡芳芽同岩城敏男並被告本人ノ各供述記載部分ヲ援用シタリ

仍テ按スルニ被告カ昭和十四年九月二十五日施行セラレタル愛媛縣縣會議員選舉ニ際シ同月七日伊豫郡選舉區ヨリ立候補シ同日大西弘ヲ其ノ選舉事務長ニ選任シ同月十六日同人ヲ解任スルト同時ニ同郡南山崎村岩城敏男ヲ選舉事務長ニ選任シ選舉ノ結果當選シタルカ右大西弘ハ被告ノ選舉事務長在任中被告ニ當選ヲ得シムル目的ヲ以テ

(甲) 昭和十四年九月十二、三日頃被告ノ選舉事務所ナル愛媛縣伊豫郡郡中町藤田精方ニ於テ選舉人大西桂ニ對シ被告ニ對スル投票並投票取纏運動ノ報酬トシテ金十圓ヲ供與シ

(乙) 同月十三日頃前同所ニ於テ選舉人宮岡唯市ニ對シ前同趣旨ノ下ニ金三十圓ヲ供與シ

(丙) 同月十五日頃前同所ニ於テ選舉人福岡豐ニ對シ前同趣旨ノ下ニ金十圓ヲ供與シ

タルコト及選舉事務長解任後ニ於ケル他ノ同種犯行ニ付昭和十四年十月十三日縣會議員選舉罰則違反被告事件トシテ松山地方裁判所ニ豫審ヲ請求セラレ同裁判所豫審判事ニ於テ豫審ヲ遂ケ同年十一月二十二日同裁判所ノ公判ニ付スル

旨ノ決定ヲ爲シ同裁判所ハ審理ノ結果昭和十五年二月十日大西弘ニ對シ(イ)同人カ谷口惠ト共謀シ候補者佐川清光ニ當選ヲ得シムル目的ヲ以テ昭和十四年九月十八、九日頃前記藤田精方ニ於テ選舉人白石登ニ對シ同候補者ニ對スル投票並投票取纏運動ノ報酬トシテ金二十五圓ヲ供與シタル事實及(ロ)同月十五、六日頃谷口惠ヨリ同人カ候補者佐川清光ノ爲投票並選舉運動ヲ爲スコトノ報酬トシテ選舉人及選舉運動者ニ供與セシムル目的ヲ以テ金二百五十圓ヲ交付スルニ當リ其ノ情ヲ知りテ之カ交付ヲ受ケタリトノ事實中金二百圓ノ授受ノ點ヲ除ク其ノ餘ノ公訴事實ニ付犯罪ノ證明アリタルモノトシテ大西弘ヲ禁錮二月ニ處シ未決勾留申十五日ヲ右本刑ニ算入スル旨ノ判決ヲ爲シ之ニ對シ大西弘ハ昭和十五年二月十二日控訴ノ申立ヲ爲シタルコトハ本件公訴記録ニ徵シ明白ナリ而シテ大西弘ハ右選舉ニ關シ候補者佐川清光ノ選舉事務長ニ在任中同候補者ニ當選ヲ得シムル目的ヲ以テ前記(甲)(乙)(丙)ノ犯行ヲ爲シ昭和十四年九月十五、六日頃前記藤田精方ニ於テ選舉人水口悅太郎ニ對シ同候補者ニ對スル投票並投票取纏運動ノ報酬トシテ金十圓ヲ供與シタル選舉事務長解任後ニ於テモ候補者佐川清光ノ選舉運動ニ付事實上ノ總括主宰者トシテ同候補者ニ當選ヲ得シムル目的ヲ以テ谷口惠ト共謀ノ上

(甲) 大西弘ノ手ニ依リ

(一) 昭和十四年九月二十日頃佐川清光ノ選舉事務所ナル前記藤田精方ニ於テ選舉人宮岡唯市ニ對シ同候補者ニ對スル投票並投票取纏運動ノ報酬及同候補者ノ爲ノ選舉運動者ニ供與スヘキ報酬並投票買收資金トシテ金百圓ヲ供與シ

(二) 同月十八日頃前同所ニ於テ選舉人福岡豐ニ對シ前同趣旨ノ下ニ金三百圓ヲ供與シ

(三) 同月十七日頃前同所ニ於テ選舉人篠崎幸市ニ對シ同候補者ニ對スル投票並投票取纏運動ノ報酬及同人ヨリ同候補者ノ爲ノ投票取纏運動者ニ供與スヘキ運動報酬並投票買收資金トシテ金三十圓ヲ供與シ

當選無效附帶訴訟ヲ提起シ得ヘキ檢事

(四) 同日頃前所ニ於テ選舉人芳賀本信ニ對シ前同趣旨ノ下ニ金五十圓ヲ供與シ

(五) 選舉人小池吉秋ニ對シ

(イ) 同日頃大西弘ノ居宅ニ於テ候補者佐川清光ニ對スル投票竝投票取纏運動報酬トシテ金十圓ヲ

(ロ) 同日頃前記選舉事務所ニ於テ前同趣旨ノ下ニ金十圓ヲ

各供與シ

(六) 右小池吉秋ヲ介シ選舉人白石登ニ對シ

(イ) 同月十七日頃愛媛縣伊豫郡北伊豫村大字神崎二百十四番地ノ第二白石登居宅ニ於テ前同趣旨ノ下ニ金十圓ヲ

(ロ) 同日頃伊豫郡郡中町路上ニ於テ前同趣旨ノ下ニ金十圓ヲ

各供與シ

(乙) 谷口惠ノ手ニ依リ

(一) 選舉人小西晴義ニ對シ

(イ) 同月十八日頃前記選舉事務所ニ於テ候補者ニ對スル投票竝投票取纏ニ對スル報酬及同候補者ノ爲ノ投票

取纏運動者ニ供與スヘキ報酬竝買収資金トシテ金八十圓ヲ

(ロ) 同月十九日頃前所ニ於テ前同趣旨ノ下ニ金五十圓ヲ

各供與シ

(二) 選舉人仙波米次郎ニ對シ

(イ) 同月十七日頃前記選舉事務所附近路上ニ於テ順次小西晴義、玉井義則ヲ介シ同候補者ニ對スル投票竝投票

取纏運動ノ報酬トシテ金三十圓ヲ

(ロ) 同月二十二日頃伊豫郡北山崎村大字三秋ナル仙波米次郎居宅ニ於テ玉井義則ヲ介シ前同趣旨及同候補者ノ爲ノ投票取纏運動者ニ供與スヘキ報酬竝投票買収資金トシテ金百圓ヲ

各供與シ

(三) 同候補者ニ當選ヲ得シムル目的ヲ有セシ小西晴義ト共謀ノ上右選舉ニ際シ伊豫郡選舉區ヨリ立候補シタル相田梅太郎ノ爲同人以外ノ者ノ爲ニスル選舉運動ヲ監視シ以テ同人ノ爲選舉運動ヲ爲シ居リタル重藤音春ニ對シ都田吉雄ヲ通シ音春ニ於テ爾後佐川清光ノ選舉運動者ニ對スル監視ヲ爲ササルコトヲ交渉シテ之ヲ承諾セシメ其ノ報酬トシテ右吉雄ノ手ヲ經テ金員ヲ供與センコトヲ企テ同月十八日前記選舉事務所ニ於テ小西晴義ニ金二十圓ヲ託シ更ニ同人ヨリ都田吉雄ノ手ヲ經テ同月二十日頃伊豫郡北山崎村都田吉雄方ニ於テ重藤音春ニ對シ前掲趣旨ノ下ニ金二十圓ヲ供與シ

(四) 同月二十日頃伊豫郡郡中町所在伊豫郡農會事務所ニ於テ選舉人窪田章ニ對シ同候補者ノ爲ニスル投票取纏運動ノ報酬及投票取纏運動者ニ供與スヘキ報酬竝投票買収資金トシテ金七十圓ヲ第三者ヲ介シテ供與シ

(五) 選舉人倉田繁雄ニ對シ

(イ) 同月二十二、三日頃前記選舉事務所ニ於テ同人ノ同候補者ノ爲ニスル選舉運動報酬及他ノ投票取纏運動者ニ供與スヘキ報酬竝投票買収資金トシテ其ノ處分ヲ一任シテ金七十圓ヲ

(ロ) 同日夜伊豫郡北山崎村倉田繁雄居宅門先ニ於テ前同趣旨ノ下ニ金二十圓ヲ

(ハ) 同月二十四日頃佐川清光ノ選舉事務所ノ移轉先ナル郡中町稻田屋旅館ニ於テ前同趣旨ノ下ニ金二十圓ヲ各供與シ

(六) 同月二十三日頃前記藤田精方ニ於テ選舉人松岡末好ニ對シ同候補者ニ對スル投票取纏運動ノ報酬及同候補者ノ爲ノ投票取纏運動者ニ供與スヘキ報酬資金トシテ金八十圓ヲ供與シ

(丙) 右選舉終了後谷口惠ト共謀シ

(一) 同月二十五日前記稻田屋旅館ニ於テ谷口惠ヨリ金三十圓ヲ受取りタル上選舉人小西晴義ニ對シ同候補者ノ爲投票取纏運動ヲ爲シタルコトノ報酬トシテ右金三十圓ヲ供與シ

(二) 同月二十七日前同所ニ於テ谷口惠ヨリ金五十圓ヲ受取りタル上選舉人篠崎幸市ニ對シ前同趣旨ノ下ニ之ヲ供與シ

(三) 同日前同所ニ於テ大塚章ト共謀ノ上選舉人福本住一ニ對シ前同趣旨ノ下ニ谷口惠ノ手ヨリ金五十圓ヲ供與シタル事實及該犯罪事實ニ因リ大西弘カ刑ニ處セラレタルコトハ當院公訴判決ノ主文及理由ニ徴シ明白ナリ被告ハ(一)大西弘ハ當時革新同盟愛媛支部理事長ニシテ被告ニ立候補ヲ慫慂スルニ際シテモ言論文書ニ依ル理想選舉ニ依ルヘキコトヲ強調シ選舉運動モ千圓以下ノ費用ヲ以テ爲スヘキコトヲ誓ヒタル如キ人物ナルヲ以テ被告ハ之ニ信賴シテ同人ヲ事務長ニ選任セリ(二)被告ハ大西弘ヲ事務長ニ選任後再三同人ニ對シ非合法運動ヲ爲ササルヤウ注意ヲ與ヘ(三)選舉事務所ノ設置ニ付テハ特ニ道路ニ面シ入口ニ方面ヲ透明ノ硝子戸トナシアル藤田精方ヲ選ヒ外部ヨリ容易ニ透見スルコトヲ得シメテ秘密取引ノ行ハルルコトヲ防止シ以テ非合法運動ヲ爲ス餘地ナカラシムルヤウ注意シ(四)被告ハ選舉事務所開設後數日ヲ除ク外殆ント事務所ニ在リテ同事務長以下選舉委員ノ運動状態ヲ注意監督シ來リ(五)選舉運動ノ費用ニ付テモ非合法支出ヲ防止スル爲一時ニ多額ノ金員ヲ交付スルヲ避ケ必要ニ應ジ少額ノ金員ヲ交付スル等ノ方法ニ依リ相當ノ注意ヲ爲シ來リ更ニ昭和十四年九月十六日以後ハ人格徳高キ岩城敏男ヲ選舉事務長ニ選任シ且大西始メ選舉委員一同ニ對シ總テ選舉運動ニ關シテハ岩城ノ指揮命令ニ服從スヘク嚴命シ來リタルヲ以テ假ニ大西弘

ニ於テ原告主張ノ如キ違反行爲ヲ爲シタリトスルモ并ハ同人カ被告ノ右嚴命ニ拘ラス犯シタルモノナリ假ニ然ラストスルモ大西弘ハ被告ノ制止ヲ背セスシテ原告主張ノ如キ違反行爲ヲ爲シタルモノナルヲ以テ被告ハ其ノ責ニ任スヘキ謂ハレナク結局大西弘ノ違反行爲ハ被告ノ當選無効ノ原因トナルモノニ非サル旨主張スレトモ少クトモ大西弘ノ選舉事務長解任後昭和十四年九月十七日以後ノ同人ノ前段認定ノ(甲)(乙)(丙)ノ違反行爲ニ付テハ當選人タル被告ハ大西弘カ選舉事務長ニ非スシテ事實上選舉運動ヲ總括主宰シタルコトヲ知ラサリシトキ若ハ大西カ當選人タル被告ノ制止ニ拘ラス事實上選舉運動ヲ總括主宰シタル場合ニ限り大西ノ前示違反行爲ニ付免責事由タリ得ルモノナルトコロ斯ル免責事由ノ存シタルコトヲ認ムルニ足ル證據ナキノミナラス却テ當院公訴判決ニ引用シタル證據ニ依レハ被告ハ昭和十四年九月十五日谷口惠ヨリ選舉運動ノ都合上大西弘カ選舉事務長ヲ辭シ選舉委員トシテ爾今事實上選舉運動ヲ總括主宰シ從來ノ方針ヲ更メ谷口ト共ニ買収等非合法運動ニ出ツヘキコトヲ打明ケラレ被告ハ之ニ賛意ヲ表シタル結果大西カ谷口ト共謀ノ上前示(甲)(乙)(丙)ノ違反行爲ニ及ヒタルモノナルコト明カニシテ被告ニ於テ大西弘カ選舉事務長ニ非スシテ事實上選舉運動ヲ總括主宰シタル者ナルコトヲ知ラス又ハ同人カ被告ノ制止ニ反シテ選舉運動ヲ總括主宰シタリト謂フカ如キ事情ニ非ス從テ此點ニ關スル被告ノ抗辯ハ之ヲ採用スル能ハス然ラハ選舉事務長ニ非スシテ事實上選舉運動ヲ總括主宰シタル大西弘カ前示(甲)(乙)(丙)ノ違反行爲ヲ爲シ刑ニ處セラレタリトノ事實ニ因リ被告ノ當選ハ無効タルヘキコト論ナキカ故ニ爾餘ノ爭點ニ關スル說明ヲ省略シ原告ノ本訴請求ヲ理由アリト認メ主文ノ如ク判決ス

尙第二審ハ公訴ニ付左記ノ如ク事實ノ認定及法律ノ適用ヲ爲シ被告人佐川清光ヲ禁錮二月ニ被告人谷口惠ヲ禁錮四月ニ被告人小西晴義ヲ禁錮二月ニ被告人福岡豊ヲ罰金八百圓ニ處ス原審ニ於ケル未決勾留日數中被告人佐川清光同谷口惠同小西晴義ニ對シ各十五日ヲ右各本刑ニ算入シ被告人福岡豊ニ對シ

十五日ヲ一日金二圓五十錢ノ割合ニ依リ換算シ右本刑ニ算入ス被告人福岡豊ニ於テ罰金ヲ完納スルコト能ハサルトキハ金二圓五十錢ヲ一日ノ割合ニ依リ換算シタル期間被告人ヲ勞役場ニ留置ス(沒收追徴及訴訟費用負擔ノ點省略)ル旨ノ判決ヲ爲シタリ(事實及法律ノ適用省略)而シテ本件當選無効附帶訴訟ヲ提起シタル檢事ハ第一審原告松山地方裁判所檢事正山口龍作ナリ

○主 文

本件公訴竝之ニ附帶スル當選無効訴訟ノ上告ハ孰レモ之ヲ棄却ス

○理 由

當選無効附帶訴訟代理人辯護士松木重吉上告趣意書第一點原審判決ハ其ノ判決理由ニ於テ被告ノ抗辯ヲ排斥スルニ「少クトモ大西弘ノ選舉事務長解任後ナル昭和十四年九月十七日以後ノ同人ノ前段認定ノ(甲)(乙)(丙)ノ違反行爲ニ付テハ當選人タル被告ハ大西弘カ選舉事務長ニ非スシテ事實上ノ選舉運動ヲ總括主宰シタルコトヲ知ラサリシトキ若ハ大西カ當選人タル被告ノ制止ニ拘ラス事實上選舉運動ヲ總括主宰シタル場合ニ限り大西ノ前示違反行爲ニ付免責ノ事由タリ得ルモノナルトコロ斯カル免責事由ノ存シタルコトヲ認ムルニ足ル證據ナキノミナラス却而當院公訴判決ニ引用シタル證據ニ依レハ被告ハ昭和十四年五月十九日谷口惠ヨリ選舉運動ノ都合上大西弘カ選舉事務長ヲ辭シ選舉委員トシテ爾今事實上選舉運動ヲ總括主宰シ從來ノ方針ヲ更メ谷口惠ト共ニ買收等非合法運動ニ出スヘキコト

ヲ打明ケラレ被告ハ之ニ賛意ヲ表シタル結果大西カ谷口ト共謀ノ上前示甲乙丙ノ違反行爲ニ及ヒタルモノナルコト明ラカニシテ被告ニ於テ大西弘カ選舉事務長ニ非スシテ事實上選舉運動ヲ總括主宰シタルモノナルコトヲ知ラス又ハ同人カ被告ノ制止ニ反シテ選舉運動ヲ總括主宰シタリト謂フカ如キ事情ニ非スト判示セラレタリ然レトモ被告(上告人)カ選舉委員大西弘ニ於テ買收等非合法運動ヲ爲シ居タルコトニ關シ之ヲ知ラサリシコトハ大西弘谷口惠カ候補者タリシ被告(上告人)ニ祕シ谷口惠カ自己ノ事業資金トスル爲メ當時伊豫郡南山崎村產業組合トノ間ニ締結セル當座貸越契約ニ基キ引出シタル千數百圓ノ金員ヲ買收運動ノ資金トシテ支出シ居タル事實ニ顧ミルモ亦被告カ此ノ立替支出ノ事實ヲ九月二十七日頃始メテ事務長タリシ岩城敏男ヲ通シテ聞知シ大ニ驚キタルカ其ノ後谷口ハ同人ノ事業資金トスル爲メノ金員ヲ支出シタル事情ヲ考慮シ止ムチク九月二十九日被告(上告人)宅ニ於テ之ヲ精算シ與ヘタル事實ニ顧ミルモ(被告人佐川清光被告人大西弘被告人谷口惠等ニ對スル各豫審訊問調書竝第一審第二審公判調書及附帶訴訟第一審證人岩城敏男ノ證言御參照)被告(上告人)ハ右大西弘カ買收等非合法運動ヲ爲シ居タル事實ヲ知ラサリシモノト云フヘク且又被告(上告人)ハ選舉運動ニハ事務長タル岩城敏男ノ命令ニ服シテ之ヲ爲シ且買收等ニヨル非合法選舉運動ハ絕對排撃スヘキ旨選舉委員タル大西其ノ他ノ委員ニ戒告シ居リ之ニ反シテ若シ非合法運動ニ走ル如キコトアラハ何時ナリトモ被告(上告人)ハ候補者ヲ辭退スル旨揚言シ居タルヨリ見レハ(附帶訴訟第一審記錄中被告本人訊

問調書並證人岩城敏男ニ對スル訊問調書御參照) 被告(上告人)ハ充分大西カ事實上選舉運動ヲ總括主宰スルコトヲ制止シタルモノニシテ判示ニ言フカ如ク免責事由ノ證據ナシト言フコトヲ得サルノミナラス殊ニ昭和十四年九月十五日谷口惠ヨリ選舉事務長タル大西弘ノ事務長辭任ニ關スル相談ノ如キハ何等爾今大西カ事務長ヲ辭シタル後選舉委員ト爲リ買收等ノ非合法運動ニ入ル爲ナラス只選舉地盤トモ云フヘキ產青聯ノ幹部等トノ間ノ連絡カ充分ナラサル故之ト連絡ヲ取ル爲大西ヲシテ面接シ依頼スル程度ハ止ムナシトセル程度ニシテ未タ夫レ以上惡質ナル買收等ヲナス非合法運動ニ入ルトノ相談ヲ爲シタルモノニ非ス(被告人佐川清光ニ對スル強制處分ニ於ケル被疑者第二回訊問調書御參照)然ルニ此等ノ點ニ付被告(上告人)抗辯ノ如キ證據ナシ或ハ面接ノ程度ノ運動ハ止ムナシトセル相談ノ事實ヲ買收等非合法運動ヲ爲スコトニ付贊意ヲ爲シタルモノト誤認セル理由ノ下ニ爲サレタル原審判決ハ證據ノ判斷ヲ逸脱シ且其ノ判斷ヲ誤リ事實ヲ誤認シタルノ違法アリト思料ス破毀ヲ免レスト云ヒ」同第二點本件公訴ニ附帶スル當選無效訴訟ハ第一審ニ於テ記錄ニ於テ明白ナル如ク原告松山地方裁判所檢事正山口龍作カ提起セラレタルモノナリ然レトモ當選無效ノ附帶訴訟ヲ原告トシテ提起シ得ル檢事ハ刑事ノ公訴ヲ擔當スル檢事ト同一人タルコトヲ要スルモノトス何トナレハ該刑事事件ヲ擔當スル檢事ニ非スシテ其ノ當選ノ無效ナルコトヲ認定シ得ル理由ナク從而又衆議院議員選舉法第八十四條第二項ノ訴訟ヲ提起スル權限ヲ有スルコト有リ得サル次第ナレハナリ然ルニ本件ニ付公訴事件ノ擔

當者タル檢事ハ本件記錄ニヨリ明白ナル如ク片山昇ニシテ檢事正山口龍作ニ非ス而シテ當選無效ノ附帶訴訟ハ第一審ノ辯論終了迄ニ提起スルコトヲ要スルモノナル故(刑事訴訟法第五六八條)第二審タル原審ニ至リ突如擔當檢事原告名義ト爲ルモ何等不合法ノ訴訟ヲ適法化セス仍テ不合法ノ訴訟提起アリタルモノトシテ却下ノ裁判ヲ爲スヘキモノナルニ拘ラス適法ナル訴訟ノ提起アリタルモノト爲シ進ント本案ノ審理ヲ遂ケ以テ被告(上告人)ノ當選ヲ無効トスル旨ノ判決ヲ爲シタル原判決ハ法令ニ違背シ又ハ法令ヲ不當ニ解釋適用シタルノ違法アリ破毀ヲ免レスト思料スト云フニ在レドモ

本件當選無效原因ノ存在就中上告人ノ所論各抗辯事實ガ孰レモ理由ナキコトハ原審公訴判決及私訴判決ニ引用セル各證據ニ依リ優ニ之ヲ認メ得ベク記錄ニ徵スルモ原判決ニ重大ナル事實ノ誤認アルコトヲ疑フニ足ルベキモノナシ然リ而シテ府縣制第三十四條ノ二第三項第四項衆議院議員選舉法第四百四一條ノ二刑事訴訟法第五百六十八條ニ依レバ本件當選無效附帶訴訟ヲ提起シ得ベキモノハ第一審裁判所タル松山地方裁判所ニ附置セラレタル檢事局所屬ノ檢事ナルヲ以テ苟モ同廳所屬檢事ナル以上總テ同訴訟ヲ提起シ得ベキ權限ヲ有スルコト檢事同一體ノ原則上疑ヒナキトコロニシテ敢テ所論ノ如ク之ヲ本件公訴ノ擔當檢事ニ限ルベキ根據ナシ要之原判決ニハ所論ノ如ク破毀スベキ點一モナク論旨孰レモ理由ナシ

右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第四百四十六條ニ則リ主文ノ如ク判決ス

檢事田口環關與

當選無效附帶訴訟ヲ提起シ得ヘキ檢事

○輸出入品等ニ關スル臨時措置ニ關スル法律違反被告事件

(昭和十五年(れ)第一〇八一號
同年十一月九日第三刑事部判決 棄却)

【上告人】 被告人 松田助次郎 外二名 辯護人 寺田道夫

【第一審】 東京區裁判所 【第二審】 東京刑事地方裁判所

○判示事項

公判期日指定ノ效力

○判決要旨

數個ノ被告事件ヲ併合シタル事件ニ付キ豫メ數回ニ互ル公判期日ヲ指定シタルトキハ該指定ハ其ノ取消ナキ限り後日右併合事件ヲ

分離シタル場合ニ於テモ其ノ效力ヲ有ス

【參照】 刑事訴訟法第三百二十條 裁判長ハ公判期日ヲ定ムヘシ

公判期日ニハ被告人、辯護人及輔佐人ヲ召喚スヘシ

第八十四條及第九十九條ノ規定ハ辯護人及輔佐人ノ召喚ニ付之ヲ準用ス

公判期日ハ之ヲ檢事ニ通知スヘシ

○事實

第二審ハ左記ノ如ク事實ノ認定及法律ノ適用ヲ爲シ被告人松田助次郎ヲ罰金千圓ニ同鈴木廣春同廣瀬愛太郎ヲ各罰金貳千圓ニ處ス被告人等參名カ右罰金ヲ完納スルコト能ハサルトキハ孰レモ金拾圓ヲ壹日ニ換算シタル期間勞役場ニ留置スル旨ノ判決ヲ爲シタリ

被告田端ゴム工業所ハ東市市瀧野川區田端新町二丁目四十二番地ニ本店ヲ置キ原料ゴムヲ以テゴム毬等ノ製造ヲ業トスル合資會社、被告人松田助次郎ハ同社ノ代表社員ニシテ其ノ業務一切ヲ統括シ居ルモノ、同鈴木廣春ハ昭和十年五月ヨリ昭和十四年四月頃迄ノ使用人トシテ原料ゴムノ買入及製品ノ販賣ヲ擔當シ居リタルモノ、同廣瀬愛太郎ハゴム藥品類ノブローカートシテ數年前ヨリ右會社ニ出入シ居リタルモノナルトコロ右被告人三名ハ共謀ノ上昭和十三年八月初旬同社カ購入票ヲ以テ買入レタル原料ゴムヲ他ニ讓渡シテ利益ヲ得ンコトヲ企テ、同社カ同年八月二十二日頃ヨリ十月二十日頃迄ノ間東京ゴム原料卸商業組合ヨリゴム購入票ト引換ヘ買受ケタルインディアラバIFAQSTD中四千二百五十封度(代金約二千五百圓相當)ヲ其ノ頃前後三回ニ同區瀧野川町二千二百三十九番地關東ゴム調製株式會社外一個所ニ於テ同會社工場管理人末吉詳治外一名ニ代金合計約一萬圓ニテ販賣シタルモノニシテ、

公判期日指定ノ效力

右被告人等ノ所爲ハ犯意繼續ニ係ルモノトス。

法律ニ照スニ被告人等三名ノ判示所爲ハ輸出入品等ニ關スル臨時措置ニ關スル法律第五條第二條第七條商工省令ゴム配給統制規則第七條刑法第五十五條第六十條被告廣瀨ニ對シテハ尙刑法第六十五條ニ該當スルヲ以テ孰レモ罰金刑ヲ選擇シ所定金額範圍内ニ於テ被告人松田助次郎ヲ罰金千圓ニ同鈴木廣春、廣瀨愛太郎ノ兩名ヲ罰金二千圓ニ處シ、又被告人松田及鈴木ノ兩名カ被告合資會社田端ゴム工業所ノ業務ニ關シ判示違反行爲ヲ爲シタル場合ナルヲ以テ前示臨時措置法第七條第五條ニ則リ所定金額範圍内ニ於テ被告會社ヲ罰金五百圓ニ處スヘク尙被告會社ヲ除ク被告人等三名カ右罪金ヲ完納スルコト能ハサルトキハ刑法第十八條ニ則リ金十圓ヲ壹日ニ換算シタル期間勞役場ニ留置スヘキモノトス

○主 文

本件上告ハ孰レモ之ヲ棄却ス

○理 由

各被告人辯護人寺田道夫上告趣意書第一點原審ノ昭和十五年二月八日第二回公判調書ニ依レハ右被告人等ニ對スル審理ハ他被告事件ト分離シテ此ノ程度ニ於テ審理ヲ次回ニ續行スル旨ヲ宣シタルコトヲ認メ得レトモ該公判廷ニ於テ次回ノ公判期日ヲ指定シタル事實ハ之ヲ認ムルニ由ナシ然ルニ昭和十五年二月十日第三回公判調書ニ依レハ昭和十五年二月十日ニ公判ヲ開廷シ裁判長ハ前回ニ引續キ審理スル旨ヲ告ケ被告等三名ヲ審訊シタル事實ヲ認メ得ルニ止マリ此ノ二月十日ノ公判期日カ裁判所ノ一定方

式ニヨリ指定セラレタル公判期日ナルコトハ記録上何等認識シ得ヘキ證據ナシ從テ被告等ハ昭和十五年二月八日ノ公判廷ニ於テ裁判長ヨリ次回公判期日ノ口達ヲ受ケタルカタメニ昭和十五年二月十日ニ出廷シタルモノナラント想像シ得レトモ此ノ口達ノ事實ヲ公判調書ニ記載スルコトヲ遺脱シタル以上ハ公判期日ニ於ケル手續ハ公判調書ノミニ依リテ之ヲ證明スルヨリ外ナキ我刑事訴訟法ノ下ニ於テハ正式ニ期日ノ指定ナクシテ突然公判ヲ開廷シタル違法アルモノト謂ハサルヲ得ス從テ斯カル手續上ノ違法ハ公判審理適法性ヲ缺如スルコトナリ此ノ審理ニ基ク第二審判決ハ結局違法ノ裁判ナリト斷セサルヲ得サルナリ彼ノ責問權拋棄ノ法則ハ本場合ニ適用シ得ヌ又ハ判決ニ影響ヲ及ホササル法律違反ハ上告ノ理由トナラストノ法則モ又本場合ニ適用シ得サルモノト思料スト云フニ在リ

【要旨】

仍テ原審各公判調書ヲ查スルニ原審ハ昭和十四年十二月二十一日各被告人竝ニ辯護人出廷ノ下ニ被告人等ニ對スル第一回公判ヲ開キ被告人等ニ對スル被告事件ヲ斂本浦太郎外三名ニ對スル被告事件ト併合審理シタル後次回公判期日ヲ昭和十五年二月八日、二月十日、二月十三日ト指定告知シ（昭和十四年十二月二十一日附各被告人等ニ對スル第一回公判調書竝同日附各被告人及斂本浦太郎等計八名ニ對スル第一回公判調書參照）次テ昭和十五年二月八日其ノ第二回公判ヲ開キ同日裁判長ハ各被告人等ニ對スル事件ヲ前示斂本等ニ對スル事件ト分離スル旨宣シタル後曩ニ第一回公判ニ於テ指定シタル期日ヲ取消スコトナク其ノ儘審理ヲ次回ニ續行スル旨宣シテ閉廷シ（各被告人及斂本浦太郎等計八名ニ對

スル第二回公判調書参照) 更ニ同月十日各被告人等ニ對スル第三回公判ヲ開廷シ審理終結ノ後判決宣告期日ヲ同月十七日ト指定シ(各被告人等ニ對スル第三回公判調書参照)タルモノニシテ被告人等ハ孰レモ右第二回第三回各公判期日ニ出頭シ審理ヲ受ケタルコト明カナリ然リ而シテ凡ソ公判期日ノ指定ハ各公判毎ニ次回期日ヲ指定スルヲ以テ一般ノ事例トスベケンモ必ラズシモ之ニ據ルコトヲ要スルモノニ非ズ裁判長ハ事件ノ性質被告人ノ員數其ノ他審理ノ模様等ニ依リ適當ト認メタルトキハ豫メ數回ノ公判期日ヲ指定シ以テ屢次公判期日ヲ指定告知スル煩瑣ヲ避クルト共ニ訴訟關係人ノ便宜ヲ計ルハ期日指定ノ一方法トシテ相當ナル處置ニ屬シ毫モ違法ノ處置ト謂フベキニ非ズ且數人ノ被告事件ヲ併合シタル事件ニ付公判期日ヲ指定シタルトキハ該期日ノ指定ハ固ヨリ併合セラレタル各被告人ニ對スル期日ノ指定トシテ有效ナルカ故ニ後日右併合事件ヨリ分離セラレタル者ニ對シテモ亦該指定ノ取消ナキ限リ其ノ效力ヲ存スルコト多言ヲ須ヒザルトコロナリ然ラバ所論本件各被告人等ニ對スル昭和十五年二月十日ノ第三回公判ハ昭和十四年十二月二十一日ノ前示籤本浦太郎等トノ併合事件第一回公判廷ニ於テ適法ニ指定告知セラレタルトコロニ基キ開廷セラレタルモノニシテ原審ノ公判手續ニハ毫モ所論ノ如キ違法アルモノニ非ズ論旨理由ナシ(其ノ他ノ上告論旨及判決理由ハ之ヲ省略ス)以上ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第四百四十六條ニ則リ主文ノ如ク判決ス

檢事榎田麟二關與

○縣會議員選舉罰則違反被告事件 (昭和十五年(れ)第一〇三三號 棄却)
(同年十一月十三日第三刑事部判決)

【上告人】 被告人 横山茂七 辯護人 志賀和多利 伊藤鹿治郎 赤井幸夫

【第一審】 水澤區裁判所 【第二審】 盛岡地方裁判所

○判示事項

刑事訴訟法第二百一條第一項第三號及第百八十八條第二項ニ所謂共犯ノ意義

○判決要旨

刑事訴訟法第二百一條第一項第三號及同法第百八十八條第二項ニ所謂共犯ノ關係トハ衆議院議員選舉法第百十二條第一項第六號ノ

刑事訴訟法第二百一條第一項第三號及第百八十八條第二項ニ所謂共犯ノ意義

罪ノ犯人ト同項第一號ノ罪ノ被告人トノ關係ヲモ包含スルモノト
ス

【參照】 刑事訴訟法第二百一條第一項 證人左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ宣誓ヲ爲
サシメスシテ之ヲ訊問スヘシ

(中略)

三 現ニ供述ヲ爲スヘキ事件ノ被告人ト共犯ノ關係アル者又ハ其ノ嫌疑アル者

(中略)

五 第百八十八條ノ場合ニ於テ證言ヲ拒マサル者

(以下省略)

同法第百八十八條第二項 現ニ供述ヲ爲スヘキ事件ノ被告人ト共犯ノ關係アリトシ
テ起訴セラレ未タ確定判決ヲ經サルトキ亦前項ニ同シ

衆議院議員選舉法第百十二條第一項 左ノ各號ニ掲グル行爲ヲ爲シタル者ハ三年以

下ノ懲役若ハ禁錮又ハ二千圓以下ノ罰金ニ處ス

一 當選ヲ得若ハ得シメ又ハ得シメサル目的ヲ以テ選舉人又ハ選舉運動者ニ對シ
金錢、物品其ノ他ノ財産上ノ利益若ハ公私ノ職務ノ供與、其ノ供與ノ申込若ハ約束
ヲ爲シ又ハ要應接待、其ノ申込若ハ約束ヲ爲シタルトキ

(中略)

六 前各號ニ掲グル行爲ニ關シ周旋又ハ勸誘ヲ爲シタルトキ

○事實

第二審ハ左記ノ如ク事實ノ認定及法律ノ適用ヲ爲シ被告人ヲ禁錮參月ニ處スル旨ノ判決ヲ爲シタリ

被告人ハ昭和十四年九月二十四日施行セラレタル岩手縣會議員選舉ニ際シ同縣江刺郡ヨリ立候補シタル菅原隆一郎ノ
法定ノ選舉運動者ニ非サルニ拘ラス同候補者ノ當選ヲ得シムル目的ヲ以テ犯意繼續シテ

(一) 同年九月十八日同郡岩谷堂町字中町九十五番地ノ自宅ニ於テ菅野長太ニ對シ同候補者ノ爲同郡玉里村方面ニ於
ケル投票取纏方ヲ依頼シ之ニ要スル買收費トシテ金五拾圓ヲ交付シ

(二) 同月二十一日右自宅ニ於テ同人ニ對シ前同趣旨ノ下ニ金貳拾圓ヲ交付シ

以テ一面選舉運動ヲ爲シタルモノナリ

法律ニ照スニ被告人ノ判示所爲中法定ノ選舉運動者ニ非スシテ選舉運動ヲ爲シタル點ハ府縣制第三十九條第四十條衆
議院議員選舉法第九十六條第一項第百二十九條ニ、金員交付ノ點ハ府縣制第四十條衆議院議員選舉法第百十二條第一
項第五號ニ各該當スルトコロ右ハ一個ノ行爲ニシテ數個ノ罪名ニ觸ルル場合ニ該當シ且無資格選舉運動ノ罪並金員交
付ノ罪ハ夫々連續犯ニ係ルヲ以テ刑法第五十四條第一項前段第五十五條第十條ヲ適用シ重キ(一)ノ金員交付ノ罪ノ
刑ニ從ヒ所定刑中禁錮刑ヲ選擇シ其ノ刑期範圍内ニ於テ被告人ヲ禁錮參月ニ處スヘキモノトス

○主文

本件上告ハ之ヲ棄却ス

○理由

辯護人志賀和多利同伊藤鹿治郎同赤井幸夫上告趣意書第一點原判決ハ證據トシテ第一審第二回公判調

書ニ於ケル證人佐藤浩平ノ供述記載ヲ引用シタリ仍テ右第二回公判調書ヲ見ルニ佐藤浩平ハ刑事訴訟法第二百一條第一項第三號ニ該當スルモノト認メ宣誓ヲ爲サシメスシテ訊問ヲ爲シタル旨ノ記載アリ然レトモ記録ニ依レハ同人ハ嚮ニ「菅野長太カ菅野隆一郎ニ當選ヲ得シムル目的ヲ以テ金員ノ供與ヲ受クルニ付キ其ノ周旋ヲ爲シタルモノナリ」トシテ刑ニ處セラレ其ノ裁判ハ既ニ確定シタルモノナリ而シテ衆議院議員選舉法ニ依レハ他人カ金員ノ供與ヲ受クルニ付之レカ周旋ヲ爲シタル者ハ其他人ノ行爲ヲ幫助シタル者(即チ共犯)ニアラスシテ之レト獨立シタル周旋又ハ勸誘ノ罪(衆議院議員選舉法第二百一條第一項第六號)トシテ處罰セラルルモノナルヲ以テ從ツテ右佐藤浩平ハ菅野長太カ金員ノ供與ヲ受ケタル罪ノ共犯者ニアラス(共犯者ニアラスト雖モ證人トシテ訊問ヲ受クルニ際リ共犯者ト看做サルル者ハ刑事訴訟法第二百一條第二項ニ明示セラルルモ右衆議院議員選舉法ニ於ケル金員ノ供與ヲ受ケタル者ト其ノ周旋者ノ如キハ其ノ内ニ包含セラレス)況ンヤ上告人横山茂七ノ金員供與罪(假リニ之レアリトシテモ)トノ關係ニ於テオヤ左レハ第一審裁判所カ右佐藤浩平ヲ訊問スルニ當リテハ宣誓ヲ爲サシメタル上訊問ヲ爲ササルヘカラサリシモノナリトス而シテ宣誓資格アル者ニ對シ宣誓ヲ爲サシメスシテ訊問ヲ爲シタルトキハ右訊問ハ違法ニシテ之レヲ斷罪ノ資料ト爲スヘカラサルモノナルコトハ御院判例ノ示サルル處ナルヲ以テ右佐藤浩平ノ供述記載ヲ證據ニ引用シタル原判決ハ破毀ヲ免レサルモノト信スト云フニ在リ

【要旨】

按ズルニ刑事訴訟法第二百一條第一項第三號並同法第八十八條第二項ニ所謂共犯トハ刑法第六十條以下ノ規定ヲ適用スベキ刑法上嚴格ナル意義ニ於ケル共犯ノミヲ指稱スルニ非ズ宜シク之ヲ廣義ニ解シ縱令相互ニ罪名ヲ異ニシ刑法上ハ之ヲ共犯ト稱シ得ザル場合ニ於テモ尙證人ト現ニ供述ヲ爲スベキ事件ノ被告人トノ間ニ其ノ實質ニ於テ共犯タル關係アルトキハ刑事訴訟法第二百一條第一項第三號第百八十八條第二項ノ規定ノ適用ニ付テハ之ヲ共犯ト解スベキモノトス然リ而シテ衆議院議員選舉法第百十二條第一項第六號所定ノ周旋罪ハ同項第一號所定ノ供與罪トハ固ヨリ其ノ罪名並適用法條ヲ異ニスト雖前者ハ後者ノ從犯タルノ實質ヲ具有スルガ故ニ右供與罪ノ被告事件ニ付證人ノ宣誓若ハ供述義務ノ有無ヲ審査スル場合ニ於テハ右周旋罪ノ犯人ハ即チ供與罪ノ共犯ト認ムベキモノトス今之ヲ本件ニ付テ觀ルニ所論證人佐藤浩平ハ第一審裁判所ガ同人ヲ證人トシテ訊問シタル當時既ニ被告人及原判示菅野長太間ニ於テ授受セラレタル本件供與ノ周旋ヲ爲シタリトノ事實ニ依リ同裁判所ニ起訴セラレ未ダ確定裁判ヲ經ザリシコト記録上甚ダ明白ナルヲ以テ同裁判所ガ同證人ト被告人トノ間ニ敍上共犯ノ關係アリトシテ宣誓セシメズシテ同證人ヲ訊問シタルハ正當ナリト謂ハザルベカラズ唯同裁判所ハ右證人ヲ宣誓セシメザル理據トシテ刑事訴訟法第二百一條第一項第三號ヲ舉示スレドモ同證人ハ上敍ノ如ク右訊問當時既ニ起訴セラレ未ダ確定裁判ヲ經ザリシモノナルヲ以テ須ラク同法第二百一條第五號第百八十八條ヲ適用スベキトコロナルニ拘ラズ事茲ニ出デザリシハ失當ナルヲ免レズト雖同裁判所

ガ同證人ヲ宣誓セシメザリシコトハ結局正當ナルヲ以テ右瑕疵ハ該證人訊問調書ヲ無効トスベキ理由ト爲スニ足ラズ然ラバ原判決ガ右訊問調書ノ記載ヲ採テ以テ斷罪ノ用ニ供シタレバトテ毫モ所論ノ如キ違法アルモノニ非ズ論旨理由ナシ(其ノ他ノ上告論旨及判決理由ハ之ヲ省略ス)右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第四百四十六條ニ則リ主文ノ如ク判決ス
檢事田口環關與

○詐欺被告事件(昭和十五年(れ)第一〇二五號 棄却)

【上告人】 被告人 川瀬房一 外二名 孫市 辯護人 (野川上孫市)
各被告人 原審辯護人 野上孫市
【第一審】 福岡地方裁判所 【第二審】 長崎控訴院

○判示事項

差戻前ノ上告趣意書ノ採用

○判決要旨

刑事訴訟法第四百四十八條ノ二ニ依リ差戻サレタル事件ニ對スル再度ノ上告事件ノ上告趣意書中差戻前ノ上告趣意書ヲ採用スルモ其ノ效ナキモノトス

【參照】 刑事訴訟法第四百二十五條 上告趣意書ニハ上告ノ理由ヲ明示スヘシ
訴訟手續ノ法令ニ違反スルコトヲ理由トスル場合ニ於テハ違反ニ關スル事實ヲ表示スヘシ
第四百十二條及第四百十四條ノ場合ニ於テハ訴訟記録及原裁判所ニ於テ取調ヘタル證據ニ現ハレサル事實ヲ採用スルコトヲ得ス
第四百十三條ノ場合ニ於テハ事實ヲ表示シ其ノ證據ヲ差出スヘシ
同法第四百三十四條 上告裁判所ハ上告趣意書ニ包含セラレタル事項ニ限り調査ヲ爲スヘシ
裁判所ノ管轄公訴ノ受理及判決ニ依リ定リタル事實ニ對スル法令ノ適用ノ當否ニ付テハ職權ヲ以テ調査ヲ爲スコトヲ得判決アリタル後ニ於ケル刑ノ廢止若ハ變更又ハ大赦ニ付亦同シ
第二審判決ニ對スル上告事件ニ於テハ第四百十二條乃至第四百十四條ニ規定スル事由ニ付職權ヲ以テ調査ヲ爲スコトヲ得

差戻前ノ上告趣意書ノ採用

同法第四百四十八條ノ二 上告裁判所事實ノ確定ニ影響ヲ及ホスヘキ法令ノ違反アリト認メ又ハ第四百十二條乃至第四百十四條ニ規定スル事由アリト認ムル場合ニ於テ自ラ事實ノ審理ヲ爲スチ適當ナラストスルトキハ判決ヲ以テ原判決ヲ破毀シ事件ヲ原裁判所ニ差戻シ又ハ原裁判所ト同等ナル他ノ裁判所ニ移送スヘシ前項ノ差戻又ハ移送アリタル事件ニ付裁判ヲ爲ス場合ニ於テハ原判決又ハ其ノ基礎ト爲リタル取調ニ關與シタル事ハ其ノ裁判ニ關與スルコトヲ得ス

○事實

第二審ハ左記ノ如ク事實ノ認定及法律ノ適用ヲ爲シ被告人川瀬房一ヲ懲役拾月、同塚本伊左衛門ヲ懲役八月、同川瀬コト前田幸三郎ヲ懲役五月ニ處ス但シ被告人伊左衛門ニ對シテハ原審ニ於ケル未決勾留日數中百八十日ヲ右本刑ニ算入シ、被告人幸三郎ニ對シテハ本裁判確定ノ日ヨリ三年間右刑ノ執行ヲ猶豫ス(其ノ他ノ點ハ省略)ル旨ノ判決ヲ爲シタリ

被告人房一及幸三郎ハ昭和八年一月ヨリ資本金約六千圓ヲ以テ福岡市片土井町十五銀行ビルディング内ニ店舗ヲ設ケ株式會社日本勸業銀行發行日本勸業證券獎勵部ナル商號ヲ使用シテ割引勸業債券(額面二十圓)四枚及復興貯蓄債券十圓券二枚計六枚ヲ以テ一組トスル所謂組合セ販賣ヲ營ミ居タル者、被告人伊左衛門ハ右房一及幸三郎ノ使用人ニシテ同年三月頃ヨリ外事課長次テ同年十一月頃ヨリ内勤主任ト爲リ同人等ノ右業務ノ樞機ニ關與シ居タルモノナルトコロ同年八月頃ヨリ漸次騰貴ノ傾向ヲ示シ居タル債券ノ市價ハ同年十月頃ニ至リ急激ニ奔騰シ來リタルカ元來右債券ノ組合セ方ハ一組毎ニ毎月一本ノ抽籤ニ與リ得ル様組合ハスヘキ約定ナリシモ爾ク組合ハス爲ニハ勢ヒ其ノ發行時ノ舊キ從テ仕入價格ノ高價ナル債券ヲモ仕入レサルヘカラサル狀況ニ在リ斯クテハ市價ノ暴騰ト共ニ缺損ヲ招クノ餘儀ナキ

ニ立至ルヘキヲ以テ被告人等三名ハ之カ缺損ヲ防止スルコトニ焦慮スルノ餘仕入レ價格ノ比較的廉價ナル債券ヲ仕入レ枚數ノミヲ取揃ヘテ購入者ニ引渡セハ事足レリト做シ其ノ組合ハセ方ノ如キハ最早ヤ全ク考慮スルノ意思ナカリシニ拘ラス契約ヲ誠實ニ履行スルモノノ如ク購入者ヲ欺罔シ契約保證金名義ノ下ニ金員ヲ騙取セムコトヲ企テ共謀ノ上昭和八年十一月月上旬ヨリ昭和九年三月中旬頃迄ノ間數十回ニ互リ犯意ヲ繼續シテ情ヲ知ラサル多數外交員ヲシテ山口縣豊浦郡小串町二千二百九十一番地隅本友一方其ノ他ニ於テ別紙目錄掲記ノ如ク同人外三十六名ニ對シ「一組毎ニ必ス毎月一本宛ノ抽籤ニ與リ得ル様組合ハセテ販賣スヘキ」旨申向ケテ勸誘セシメ因テ同人等ヲシテ其ノ旨誤信セシメタル上契約金額總計一萬三千八百三十二圓ニ相當スル組合セ債券ノ購買契約ヲ締結セシメ之カ契約保證名義ノ下ニ合計金千五百六十三圓及割引勸業債券二十圓券二枚ヲ交付セシメテ之ヲ騙取シタルモノナリ

尙被告人房一ハ大正十四年十二月十八日長崎控訴院ニ於テ詐欺罪ニ依リ懲役五年ニ處セラレ(昭和二年勅令第十二號ニ依リ懲役三年九月ニ變更セラレ次テ昭和三年勅令第二百七十號ニ依リ懲役二年九月二十二日ニ變更セラレ)昭和四年十一月二十六日其ノ執行ヲ終リタルモノナリ

法律ニ照スニ被告人等ノ判示所爲ハ刑法第二百四十六條第一項第六十條第五十五條ニ各該當シ尙被告人房一ノ所爲ハ累犯ニ係ルヲ以テ同法第五十六條第一項第五十七條ヲ適用シ累犯加重ヲ爲シ夫々其ノ所定期間範圍内ニ於テ被告人房一ヲ懲役十月同伊左衛門ヲ懲役八月同幸三郎ヲ懲役五月ニ處スヘク而シテ被告人伊左衛門ニ對シテハ同法第二十一條ニ據リ原審ニ於ケル未決勾留日數中百八十日ヲ右本刑ニ算入シ被告人幸三郎ニ對シテハ其ノ犯情刑ノ執行ヲ猶豫スルヲ相當ト認ムルヲ以テ同法第二十五條ニ則リ本裁判確定ノ日ヨリ三年間右刑ノ執行ヲ猶豫スヘク訴訟費用ハ刑事訴訟法第二百三十七條第一項及第二百三十八條ヲ適用シ主文ノ如ク其ノ負擔ヲ定ムヘキモノトス尙辨護人ハ左記理由中ニ説明シタルカ如ク其ノ上告趣意書ニ於テ差戻前ノ上告事件ニ付提出シタル上告趣意書ヲ援用

○主 文

本件上告ハ孰レモ之ヲ棄却ス

○理 由

各被告人辯護人野上孫市上告趣意書第一點ハ原判決ハ被告人等ニ對シ漫然抽象的形式供述部分ヲ事務的ニ羅列引用シテ客觀的ニ現實ナル具體的事實ヲ無視シ本法ニ詐欺ノ犯意手段乃至被告人房一ノ共同關係ヲ認定シ且客觀的ニ實在セサル被害事實ヲ架空ニ冒認スルニ至リシ違法アルモノニシテ結局事實誤認ヲ疑フニ足ルヘキ顯著ナル事由アリ其ノ破毀ヲ免レサルモノアリト信ス(此點ニ關シ破毀以前ノ原判決ニ對スル各上告趣意書ヲ採用スルコト左記ノ如シ)(イ)原審ニ於テ被告人等ニ對シ詐欺ノ共謀犯行アリト爲シ認定シタル事實ノ要旨ハ、被告人房一及同宰三郎ハ昭和八年一月ヨリ割引勸業債券(額面二十圓)四枚及復興貯蓄債券十圓券二枚計六枚ヲ以テ一組トスル債券組合セ販賣ヲ營ミ居タル者被告人伊左衛門ハ同被告人等ノ使用人ニシテ同營業ノ樞機ニ關與シ居タル者ナル所同年八月頃ヨリ漸次騰貴ノ傾向ヲ示シ居タル債權ノ市價ハ同年十月頃ニ至リ急激ニ奔騰シ來リタルカ元來右債券ノ組合方ハ一組毎ニ毎月一本ノ抽籤ニ與リ得ル様組合ハスヘキ約定ナリシモ斯ク爲スニ於テハ仕入價格ノ高額ナル債券ヲモ仕入レサルヘカラサル狀況ニ在リ斯クテハ市價ノ暴騰ト共ニ缺損ヲ招クノ餘儀ナ

キニ立至ルヘキヲ以テ被告人等三名ハ之カ缺損防止ニ焦慮ノ餘リ仕入價格ノ比較的廉價ナル債券ヲ仕入レ枚數ノミヲ取揃ヘテ購入者ニ引渡セハ事足レリト爲シ其ノ組合セノ如キハ最早全ク考慮スルノ意思ナカリシニ不拘契約ヲ誠實ニ履行スルモノノ如ク購入者ヲ欺罔シ契約保證金名義ノ許ニ金員ヲ騙取セシコトヲ企テ共謀ノ上昭和八年十一月上旬ヨリ翌九年三月中旬頃迄ノ間數十回ニ互リ情ヲ知ラサル多數外交員ヲシテ三十七名ニ對シ「一組毎ニ必ス毎月一本宛ノ抽籤ニ與リ得ル様組合セテ販賣スヘキ」旨申向ケテ勸誘セシメ因テ同人等ヲシテ其ノ旨誤信セシメタル上契約金額總計金一萬三千八百三十二圓ニ相當スル組合債券購買契約ヲ締結セシメ之カ契約保證金名義ノ下ニ合計金千五百六十三圓及割引勸業債券二十圓券二枚ヲ交付セシメテ之ヲ騙取シタルモノナリト云フニ在リ(ロ)而シテ右原判示認定事實中犯罪ノ期間犯意手段乃至共謀關係ノ點ハ全然破毀以前ノ原審判決ノ認定ト同一ニ事實ノ認定ヲ爲シアリ單ニ其ノ結果ニ屬スル被害ノ數量關係ニ於テ兩者大差ヲ生スルニ至レリ即チ破毀以前ノ原審判決ハ右犯罪期間中ノ營業ニ屬スル全契約者數百名(實際ハ四百九十四名)ト契約金額總計十七萬六千六百六十圓ニ相當スル購買契約ヲ締結シ其ノ契約保證金名義ノ許ニ合計金二萬九千七百餘圓ヲ騙取シタル旨ノ認定ニ屬シ居リタルモ本件原判決ハ右ノ如ク其ノ内一小部分ニ係ル契約者三十七名ト契約金額總計金一萬三千八百餘圓ニ相當スル購買契約ヲ締結シ此等ノ者ヨリ契約保證金名義ノ許ニ合計金千五百六十三圓及二枚ノ二十圓券債券ヲ騙取シタル旨ノ認定ニ過キス(ハ)前示ノ如ク原判決ト破毀以前ニ屬

スル原判決トハ其ノ結果タル被害人員被害金額ノ點ニ於テ大差アル認定振リニ出テ居レリト雖其ノ犯罪ノ期間犯意手段共謀關係ノ認定ハ共ニ全然同一ナルノミナラス此等ノ事實ヲ認定スルニ至リシ根據證據トシテ引用シタル關係者(被告人等乃至外務員等)ノ抽象供述部分モ亦兩者同一ナルヲ以テ本件原判決ハ「漫然此等抽象的形式供述部分ヲ事務的ニ羅列引用シテ客觀的ニ現實ナル具體的事實ヲ無視シテ不法ニ詐欺ノ犯意手段乃至被告人房一ノ共同關係ヲ認定シ且客觀的ニハ實在セサル被害事實ヲ架空ニ冒認スルニ至リシ違法アル理由」ヲ明確ナラシムル爲メニハ其ノ重複ヲ避クル必要上(ニ)破毀以前ノ原判決ニ對スル上告事件(第二刑事部昭和十四年(レ)第八號)ノ上告趣意書即チ本辯護人ノ上告趣意書第一點乃至第六點並ニ同辯護人名川侃市ノ上告趣意書第一點乃至第十三點ヲ凡テ本件ニ援用ス以テ原判決ハ結局事實誤認ヲ疑フニ足ルヘキ顯著ナル事由アルヲ明認シ得ヘク破毀ヲ免レサルモノアリト信スト云フニ在リ(同第二點、同第三點、同第四點ハ孰レモ其ノ論旨ヲ省略ス)

然レトモ原判決援用ノ所論始末書並豫審訊問調書ヲ査閲スルニ其ノ内容ハ結局孰レモ判示ニ照應スル各被害顛末ヲ敘説シタルニ外ナラサルモノト解シ得ヘク而モ右始末書豫審訊問調書並其ノ他援用ニ係ル證據ヲ綜合スレハ判示ノ如ク被告人等カ債券購入者ヲ欺罔シ契約保證金名義ノ下ニ金員ヲ騙取セムコトヲ企圖シ共謀ノ上判示手段ヲ弄シテ隅本友一外三十六名ヲ錯誤ニ陥レ因テ金品ヲ騙取シタル事實ヲ認定スルニ十分ナリ記録ニ徵スルモ右援用ニ係ル始末書カ所論ノ如キ事情ノ下ニ提出者ニ於テ不任

【要旨】

意ニ虚構ノ事實ヲ記載シタルモノナルコトヲ肯認シ難ク原判決ノ採證ニ所論ノ如キ不當不法ノ廉アルヲ認メス其ノ他判示事實ノ認定ニ重大ナル誤認アルコトヲ疑フヘキ顯著ナル事由ナク所論ノ如キ違法毫モ存セス論旨ハ孰レモ其ノ理由ナシ尙辯護人ハ曩ニ長崎控訴院カ被告人等三名ニ係ル詐欺被告事件ニ付昭和十三年十二月六日言渡シタル有罪判決ニ對スル上告事件(昭和十四年(レ)第八號事件)ニ付其ノ辯護人等カ夫々提出シタル上告趣意書ヲ援用スルモ該上告事件ハ本院カ原判決ヲ破毀シ事件ヲ同控訴院ニ差戻ス旨ノ判決ヲ爲シタルト同時ニ終了シ且同事件ニ付右辯護人等ノ提出シタル敍上ノ上告趣意書ハ上告趣意書トシテノ用ヲ充タシ其ノ效ナキニ歸シタルモノト云フヘキヲ以テ爾後差戻ヲ受ケタル長崎控訴院ノ爲シタル同被告人等ニ係ル有罪判決ニ對スル本件上告事件(昭和十五年(レ)第一〇二五號事件)ニ付右上告趣意書ヲ援用スルモ其ノ效ナキモノト解スルヲ相當トス蓋シ右上告趣意書ハ畢竟他ノ上告事件ニ付提出セラレタルモノナルカ故ニ之ヲ直ニ本件上告事件ニ援引シ該趣意書ヲ參照スルニ非サレハ其ノ上告理由ヲ知悉スルコト能ハサルカ如キハ法ノ許容セサルトコロト云フヘク且從來相被告人辯護人ノ上告趣意書ノ援用ヲ許シタルハ其ノ趣意書ノ有效ナルコトヲ前提ト爲シタルモノナレハナリ故ニ援用ニ係ル所論上告趣意書ハ之ヲ精査シタルモ其ノ各論旨ニ付逐一説明ヲ與ヘス(其ノ他ノ上告論旨及判決理由ハ之ヲ省略ス)

右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第四百四十六條ニ則リ主文ノ如ク判決ス

檢事瀧川秀雄關與

差戻前ノ上告趣意書ノ援用

○輸出入品等ニ關スル臨時措置ニ關スル法律違反被告事件

(昭和十五年(九)第一一七〇號
同年十二月七日第三刑事部判決 棄却)

【上告人】 被告人 遠藤太一郎 辯護人

松本包壽
小田垣昇次郎
深田洪憲
赤井幸夫

【第一審】 東京區裁判所 【第二審】 東京刑事地方裁判所

○判示事項

綿絲配給統制規則第三條ノ法意

○判決要旨

綿絲配給統制規則第三條ハ工業者力其ノ使用綿絲買受ノ場合ハ輸出品又ハ輸出品ノ原料若ハ材料ノ製造又ハ加工ノ爲使用スルモノ

ヲ除キ販賣者ノ何人タルヲ問ハス常ニ割當票トノ引換ニ依ラサルヘカラサルノ法意ナリトス

【參照】 昭和十三年三月一日商工省令第六號綿絲配給統制規則第一條 綿絲綿トステ
一 プルフアイバートノ混紡絲ヲ含ム以下同シヲ原料又ハ材料トスル製品ノ製造又
ハ加工ヲ業トスル者(以下工業者ト稱ス)ハ地方長官ニ於テ又ハ商工大臣ノ指定シタ
ル團體ニ於テ割當テタル數量ヲ超エ綿絲ヲ原料又ハ材料ニ使用スルコトヲ得ズ但
シ輸出品(滿洲國及關東州ニ輸出スルモノヲ除ク以下同シ)又ハ輸出品ノ原料若ハ材
料ノ製造又ハ加工ノ爲使用スル場合ハ此ノ限ニ在ラズ
地方長官又ハ前項ノ團體ハ前項ノ規定ニ依ル割當ノ總數量ニ付商工大臣ノ承認ヲ
受クベシ

同第三條 工業者ハ割當票ト引換フルニ非ザレバ其ノ使用スル綿絲(輸出品又ハ輸出品
品ノ原料若ハ材料ノ製造又ハ加工ノ爲使用スルモノヲ除ク)ヲ買受クルコトヲ得ズ
同第四條 工業者ニ對シ前條ノ綿絲ヲ販賣スル者ハ割當票ト引換フルニ非ザレバ之
ヲ販賣スルコトヲ得ズ

○事實

第二審ハ左記ノ如ク事實ノ認定及法律ノ適用ヲ爲シ被告人佐野勝治ヲ懲役四月(第一審未決勾留三十
日ヲ本刑ニ算入ス)ニ處スル旨(訴訟費用負擔ノ點省略)ノ判決ヲ爲シタリ(被告人遠藤太一郎ニ對
スル分全部省略)

綿絲配給統制規則第三條ノ法意

(中略)

八〇〇 (三六)

第三 原審相被告人木村才次郎ハ静岡縣富士郡吉原町六十番地ニ本店ヲ有スル東京艶絲株式會社ノ取締役、被告人佐野勝治ハ其ノ支配人ニシテ同會社ハ綿絲ノ艶附其ノ他一般纖維ノ加工、電線コード、墨線等ノ製造販賣ヲ業トスル工業者ナルトコロ

(一) 右兩名ハ共謀ノ上同會社ノ業務ニ關シ昭和十四年一月中旬頃同會社ニ於テ使用スル爲綿絲三捆二十玉(前記第一ノ(一)ノ綿絲)ヲ何等法定ノ除外事由ナキニ拘ラス其ノ會社ニ於テ割當票ト引換ニ非スシテ前記株式會社富士製紐所ノ代表者タル被告人遠藤太一郎ヨリ代金千九百二十五圓ニテ買受ケ

(中略)

(三) 被告人佐野勝次ハ綿統制違反罪ニヨリ昭和十三年十二月十四日附吉原區裁判所ノ略式命令ヲ以テ罰金八十圓ニ處セラレ其ノ確定後更ニ前記會社ノ業務ニ關シ取締役木村才次郎ト共謀ノ上昭和十四年一月十五日頃ヨリ同年三月二十五日頃迄ノ間數回ニ互リ同會社ニ於テ法定ノ除外事由ナキニ拘ラス商工大臣ノ指定シタル者ニ非サル染色業坂倉謹一ニ對シ右會社カ豫テ原料用トシテ買入レ保有シ居リタル綿絲中ヨリ合計七捆二十玉ヲ代金合計四千四百餘圓ニテ卸販賣シ

(四) 被告人佐野勝治ハ單獨ニテ右會社ノ業務ニ關シ昭和十四年二月一日頃同會社ノ前記綿絲ノ内二捆二十玉ヲ右會社ニ於テ法定ノ除外事由ナキニ拘ラス商工大臣ノ指定シタル者以外ノ者タル染色業坂倉謹一ニ代金千五百十九圓餘ニテ卸販賣シ

(中略)

タルモノニシテ(中略)而シテ右(三)及(四)ノ所爲ハ繼續ノ犯意ニ出テタルモノトス

法律ニ照スニ被告人佐野勝治ノ(一)ノ所爲ハ前記綿絲配給統制規則第三條前記措置法第七條第五條ニ該當シ(三)及(四)ノ所爲ハ何レモ前記綿製品ノ販賣制限ニ關スル件第一項本文前記措置法第七條第五條及刑法第五十五條ニ該當スルトコロ右ハ同法第四十五條前段ノ併合罪ナルヲ以テ何レモ懲役刑ヲ選擇シ同法第四十七條本文第十條ニ從ヒ犯情重キ前記綿製品ノ販賣制限ニ關スル件ノ違反罪ノ刑ニ法定ノ加重ヲナシタル刑罰範圍内ニ於テ同被告人ヲ懲役四月ニ處スヘク尙刑法第二十一條ニ依リ原審ニ於ケル未決勾留日數中三十日ヲ右懲役刑ニ算入シ訴訟費用ハ刑事訴訟法第二百零三十七條第一項第二百零三十八條ニ從ヒ被告人天野保平同石田二男同木村才次郎同佐野勝治ヲシテ夫々主文記載ノ如ク負擔セシムルヲ相當トス

尙本件公訴事實中判示以外ノ事實ハ其ノ證明十分ナラサレ共判示事實ト連續犯ノ關係ニ於テ起訴セラレタルモノナルヲ以テ主文ニ於テハ特ニ無罪ノ言渡ヲ爲サス

主 文

本件上告ハ孰レモ之ヲ棄却ス

理 由

被告人佐野勝治辯護人松本包壽、同小田垣昇次郎上告趣意書第一點ハ原判決ハ法令ノ解釋ヲ誤リ免訴ノ言渡又ハ無罪ノ言渡ヲ爲スヘキ事實ニ對シ有罪ノ言渡ヲ爲シタル違法アリ原判決ハ被告人佐野勝治ニ對シ原判決理由中第三ノ冒頭及(一)ノ事實ヲ認定シ之ニ對シ輸出入品等ニ關スル臨時措置ニ關スル法律(以下單ニ臨時措置法ト略記ス)第二條ニ基ク昭和十三年三月一日商工省令第六號綿絲配給統制規則(以下單ニ本則ト略記ス)第三條臨時措置法第七條第五條ヲ適用シタリ然レ共(一)本則ハ昭和

十四年一月二十三日商工省令第七號絲配給統制規則(同年二月一日ヨリ施行)ニ於テ「綿絲配給統制規則ハ之ヲ廢止ス但罰則ノ適用ニ付テハ仍從前ノ例ニ依ル」ナル規定ニ依リ廢止サレタルコト明白ナリ而シテ右但書ニ依レハ廢止前ノ違反行爲ニ對シテハ右廢止後モ罰則ノ適用アルカ加キナルモ本則ハ臨時措置法ニ基ク委任命令ナル處同法ニ於テ勅令ニ委任シタル範圍即チ勅令ノ規定シ得ル範圍ハ同法第一條乃至第三條ノ規定事項ノミニ止マリ同法第四條以下ノ罰則事項ニ付テハ勅令ニ委任シテ居ラス從テ罰則ノ改廢存否變更等ハ同法自體ニ於テ決定スヘキモノニシテ本則ニ於テ左右シ得ルモノニアラス假ニ本則ニ於テ臨時措置法所定ノ罰則事項ニ立入り罰則ヲ改廢變更スルカ如キ規定ヲ設クルモ該規定ハ法律違反ノ勅令ナルカ故ニ無効ナリ果シテ然ラハ本則附則中ノ「綿絲配給統制規則ハ之ヲ廢止ス但罰則ノ適用ニ付テハ仍從前ノ例ニ依ル」ナル規定中但書ハ違法ノ勅令ニシテ無効ニシテ本則廢止後ハ本則違反行爲ハ處罰シ得サル筋合ト爲リタルモノトス從テ本則違反行爲ニ對スル公訴ハ本則廢止後ハ刑法第六條及刑訴第三百六十三條第二號ノ規定等ニ依リ公判ニ於テ免訴ノ言渡ヲ爲スヘキモノナリ假ニ然ラストモ(二) 判示綿絲ノ買受ハ罪トナラス本則第三條乃至第五條竝本則ニ代リ發布施行セラレ且本則ト同一精神ニテ制定セラレタル絲配給統制規則第三條第七條乃至第十條第十二條等ノ各規定ヲ考察スルトキハ右規定ニ所謂販賣スルモノトハ絲類ヲ賣却スル者ノ總稱ニ非ス一定ノ範圍ノ者ニシテ即チ工業者ニ對シ割當票ト引換ニ絲ヲ販賣スル義務ヲ負擔シ及其ノ他ノ公的義務ヲ課セラレタ

ル者ヲ指稱シ居ルコト明白ニシテ當時ノ法規上右販賣者ニ該當スル者ハ綿絲ニ在ツテハ日本綿絲元賣商業組合員ニシテ判示富士製紐所ノ如キハ固ヨリ他ノ工業者ニ對シ糸ヲ販賣スル公的義務ヲ負擔シ居ラサルモノニシテ右ニ所謂販賣スル者ニ在ラサルノミナラス右富士製紐所ノ如キ者ニ於テ其ノ所有ノ糸ヲ販賣セントスル場合ハ綿製品ノ販賣制限ニ關スル件第一項ニ依リ商工大臣ノ指定シタル者ニ對シ販賣シ得ルノミ(割當票ト引換ニ買受ケタル糸ヲ他人ニ讓渡スルニハ地方長官ノ許可ヲ受クルヲ要ス)ニテ商工大臣ノ指定シタル者以外ノ東京艶絲株式會社(以下單ニ艶絲會社ト略記ス)其ノ他一般工業者ニ販賣シ得サルモノナレハ本件ノ艶絲會社ハ勿論一般工業者ハ割當票ト引換ニ於テナリトモ右富士製紐所ヨリ綿糸ヲ買受クル能ハス割當票ト引換フルニ非サレハ買受クルコトヲ得ストノ規定ハ割當票ト引換ナラハ買受ケ得ル關係ニ在ル者ニ對スル賣買ヲ規定シタルモノニシテ割當票ト引換ニ於テナリトモ買受ケ得サル者トノ關係ヲ規定シタルモノニ非サル趣旨ナルコト明瞭ナリト謂フヘシ要スルニ本則第三條及絲配給統制規則第三條ハ表裏ノ關係ニ在ル規定ニシテ右第四條所謂販賣者ハ當時ノ法律上日本綿絲元賣商業組合員ヲ指稱シ第三條ハ工業者カ第四條ノ販賣者ヨリ絲ヲ買受クル場合ヲ規定シタルモノト解スヘキモノナリ換言スレハ本則第三條ノ無票買受禁止規定ハ工業者カ他ノ工業者ヨリ綿絲ヲ買受クル場合ノ規定ニ非ス從テ判示ノ富士製紐所ヨリ艶絲會社カ綿糸ヲ買受クル行爲ニ付テハ制裁規定ナシ(富士製紐所ノ賣却行爲ハ本則第五條綿製品ノ販賣制限ニ關スル件等ニ違反ス)右解

釋ハ一見不通ノ感ナキニシモアラサルモ綿製品ノ販賣制限規則ハ綿糸綿織物ノ卸賣ノミヲ罰シ小賣及買受ハ一切不處罰ト爲シ居ルトコロニシテ卸賣ノ買主ハ早晚之ヲ他ノ製品ニ製造若ハ加工シ又ハ轉賣スルカ何レカノ方法ニテ處理シ結局綿製品製造加工販賣等ノ各制限規則ノ支配ヲ受ケ相當ノ制裁ヲ受クヘキカ故ニ買受ヲ處罰スルノ要ナク若シ工業者ヨリノ綿糸無票買受ヲ處罰スルニ於テハ綿製品中綿織物綿莫大小ノ買受ハ罰セラレサルニ獨リ綿糸ノ買受ノミカ罰セラルコトナリ却テ公平ヲ缺クニ至ル敍上ニ依リ判示買受行爲ハ法令違反ト爲ラサルモノト思料スト云フニ在リ

仍テ按スルニ昭和十四年一月二十三日商工省令第七號絲配給統制規則附則第二項ニ綿絲配給統制規則ハ之ヲ廢止ス但シ罰則ノ適用ニ付テハ仍從前ノ例ニ依ルトアルハ昭和十三年三月一日公布施行セラレタル商工省令第六號綿絲配給統制規則ハ右絲配給統制規則ノ施行ニ依リ廢止スルモ該省令第六號施行中ニ於ケル違反行爲ニ對シテハ右廢止後ト雖モ仍從前ノ例ニ從ヒ罰則ノ適用アリトノ意味ナリト解スルヲ正當トスヘク而シテ該附則中ノ所論但書ヲ目シ違法ノ勅令ナリト做ス論旨ハ前掲各省令ノ基本タル昭和十二年法律第九十二號第二條カ支那事變ニ關聯シ政府ヲシテ國民經濟ノ運行ヲ確保スル爲之ニ必要ナル物資ノ調整ニ付生産配給消費等ニ統制ヲ加ヘ以テ複雜多岐ナル戰時體制下ノ經濟現象ニ對處シ適切ナル取締ヲ爲サシメントスル一般の總括的變態的法律タルコトヲ看過シタルニ因ル謬論タルニ過キササルヲ以テ採ルニ足ラス又前示綿絲配給統制規則第三條ニ同規則第一條ニ所謂工業者ハ其ノ使用

【要旨】

スル綿絲ヲ何人ヨリ買受クル場合ニ於テモ輸出品又ハ輸出品ノ原料若ハ材料ノ製造又ハ加工ノ爲使用スルモノヲ除キ常ニ割當票ト引換フルニ非サレハ買受クルヲ得サルコトヲ定ムルモノニシテ所論ノ如ク所謂販賣者ヨリ買受クル場合ノミノ規定ニ非スト解スルヲ正當トス然ラハ原判決カ原判示第三ノ(一)ノ犯罪事實ヲ認定シ原判示擬律ニ及ヒタルハ寔ニ正當ニシテ何等所論ノ如キ違法アリト云フヲ得ス論旨ハ總テ理由ナシ(其ノ他ノ上告論旨及判決理由ハ之ヲ省略ス)

右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第四百四十六條ニ則リ主文ノ如ク判決ス

檢事榎田麟二關與

○市會議員選舉罰則違反被告事件

(昭和十五年(九)第四八六號
昭和十五年十一月六日第三刑事部判決)

棄却)

【上告人】 被告人 菊池住一 藤井克修 辯護人 平井彦三郎

【第一審】 八幡濱區裁判所 【第二審】 松山地方裁判所

○判示事項

期日變更ト被告人召喚手續ノ要否——第一審ニ於テ從犯事實ヲ認定シタル事件ノ控訴審ニ於ケル共同正犯事實ノ認定ト刑事訴訟法第四百三條

○判決要旨

一 適法ニ開カレタル公判期日ニ於テ判決宣告ノ期日ヲ指定シ被告人ニ對シ出頭スベキコトヲ命ジタル場合ニ於テハ右指定期日ニ

期日變更ト被告人召喚手續ノ要否 第一審ニ於テ從犯事實ヲ認定シタル事件ノ控訴審ニ於ケル共同正犯事實ノ認定ト刑事訴訟法第四百三條

被告人不出頭ノ儘期日ノ變更宣言ヲ爲シタルトキト雖モ新期日ニ付被告人召喚ノ手續ヲ爲スヲ要セス【要旨第一】

二第一審ニ於テ從犯事實ヲ認定シタル事件ニ付控訴審ニ於テ共同正犯ノ事實ヲ認定スルモ第一審判決主文ノ定メタル刑其ノ他之ト同視スベキ事項ヲ不利益ニ變更セザル限り刑事訴訟法第四百三條ニ違背シタルモノト謂フヲ得ズ【要旨第二】

【参照】刑事訴訟法第八十四條第一項第二項 被告人ノ召喚ハ召喚狀ヲ發シテ之ヲ爲スヘシ

被告人ヨリ期日ニ出頭スヘキ旨ヲ記載シタル書面ヲ差出シ又ハ出頭シタル被告人ニ對シ口頭ヲ以テ次回ノ出頭ヲ命シタルトキハ召喚狀ヲ送達シタルト同一ノ效力ヲ有ス口頭ヲ以テ出頭ヲ命シタル場合ニ於テハ其ノ旨ヲ圖書ニ記載スヘシ

同法第三百二十條第二項 公判期日ニハ被告人、辯護人及輔佐人ヲ召喚スヘシ

同法第三百二十二條第一項 裁判長ハ公判期日ヲ變更スルコトヲ得

同法第四百三條 被告人控訴ヲ爲シタル事件及被告人ノ爲ニ控訴ヲ爲シタル事件ニ付テハ原判決ノ刑ヨリ重キ刑ヲ言渡スコトヲ得ス

○事實

第二審裁判所ハ左ノ如ク事實ヲ認定シ法律ヲ適用シ

被告人菊池住一ヲ罰金五十圓ニ被告人藤井克修ヲ罰金三十圓ニ各處ス右罰金ヲ完納スルコト能ハサルトキハ金二圓ヲ一日ニ換算シタル期間當該被告人ヲ勞役場ニ留置ス被告人兩名ニ對シ衆議院議員選舉法第三百七條第一項ノ規定ヲ適用セストノ判決ヲ爲シタリ

被告人住一ハ昭和十四年五月十三日施行セラレタル愛媛縣八幡濱市會議員總選舉ニ際シ立候補ノ上當選シタルモノニシテ被告人藤井克修ハ其ノ選舉委員タリシモノナルトコロ八幡濱市ハ昭和十年二月十一日西宇和郡八幡濱町ニ同郡神山町舌田村千丈村ヲ合併シ市制ヲ施行スルニ至リタルモノニシテ其ノ合併條件トシテ八幡濱市（以下合併側ト稱ス）ハ舊千丈村舌田村神山町（以下被合併側ト稱ス）ニ對シ金十五萬圓ヲ即時支出シテ道路橋梁等ノ土木施設ヲ爲スコト及戶數割ヲ舊八幡濱町一〇ニ對シ被合併側ハ六、四ノ割合ヲ以テ賦課スルコトヲ協定シタルニ拘ラス爾來右條件ハ完全ニ履行セラレサルノミナラス被合併側ニ對シ不利益ニ變更セラレル虞アリテ前示合併條件履行ノ問題ハ被合併側住民ニ對シ特殊且直接ナル利害關係ヲ有スルモノナルトコロ被告人兩名ハ共謀ノ上右利害關係ヲ利用シ被告人住一ノ被上選舉ニ付舊千丈村ノ選舉人ヨリ投票ヲ得テ當選センコトヲ目的トシテ被告人克修ノ起稿ニ基キ

(イ) 同年四月二十八日附住一ノ立候補挨拶狀中ニ前示合併側ハ常ニ合併條件十五萬圓ノ棒引税金比率ノ解消ヲ叫ビ居リ被合併側ノ態度ニ不滿ノ念ヲ拭フ能ハサリシカ來ル五月十三日執行ノ市會議員總選舉ニ當リ幸ニ再ヒ諸氏ノ明鑑ニ叶ヒ市政ニ參與シ以テ前任期中ノ未完成問題殊ニ合併ノ必須條件タル道路橋梁其ノ他諸施設ニ關シ必ス之ヲ達成スヘキニヨリ自己ニ投票セラレ度キ趣旨

(ロ) 更ニ同年五月八日頃同月七日附ヲ以テ今回ノ選舉ハ八幡濱市ヲ一區トスル大選舉ニシテ當千丈區選舉民ニモ他區ノ有力候補ニ心惹カルル者多キヤニ聞知スルモ合併條件ノ遂行或ハ直接利害ノ及フ戶數割ノ増減ニ關シ當區ノ選

期日變更ト被告人召喚手續ノ要否 第一審ニ於テ從犯事實ヲ認定シタル事件ノ控訴審ニ於ケル共同正犯事實ノ認定ト刑事訴訟法第四百三條

出委員以外ニ協議スルコトヲ許サレズ委員以外ハ如何ナル有力議員モ委員會ノ協議ニ對シ一切干渉ヲ許ササル絶對的權威ヲ有スルモノニシテ而モ強力ナル委員ヲ要スルモノニシテ若シ然ラサレハ彼ノ十五萬圓モ戸數割課稅比率モ合併側ノ意思ニヨリ抹消サルルニ至ルヘシ自分ハ從來委員タリシ立場ヨリ是非當局ヲ勵マシ之カ遂行ヲ期シ居レリ千丈區ハ千丈區トシテノ然ルヘキ議員ヲ市會ニ送ラルル様考慮セラレ度キ趣旨

ヲ各記載シタル文書ヲ讀レモ藤井克修ヲシテ印刷セシメタル上同人ノ手ニ依リ(イ)ノ挨拶狀ハ同年四月三十日頃ヨリ同年五月一日頃マテノ間數回ニ亘リ(ロ)ノ挨拶狀ハ同年五月八日頃各同市ノ選舉人タル舊千丈村選舉人約三百名宛郵送シ其頃之ヲ該宛名人ニ到着セシメ以テ舊千丈村住民ニ特殊且直接ナル利害關係ヲ利用シテ舊千丈村ノ選舉人ヲ誘導シタルモノニシテ右所爲ハ犯意繼續ニ係ルモノトス

法律ニ照スニ被告人兩名ノ所爲ハ刑法第六十條市制第四十條衆議院議員選舉法第一百十二條第一項第二號刑法第五十五條ニ各該當スルヲ以テ其ノ所定刑中罰金刑ヲ選擇シ其ノ罰金額ノ範圍内ニ於テ被告人住一ヲ罰金五十圓ニ被告人克修ヲ罰金三十圓ニ各處シ右罰金ヲ完納スルコト能ハサルトキハ刑法第十八條ニ依リ罰金二圓ヲ一日ニ換算シタル期間當該被告人ヲ勞役場ニ留置スヘキモノトシ且市制第四十條衆議院議員選舉法第三十七條第三項ニ則リ同條第一項ノ五年間選舉權及被選舉權ヲ有セサル旨ノ規定ヲ適用セス仍テ主文ノ如ク判決ス

第一審判決ノ主文左ノ如シ

被告人菊池住一ヲ罰金五十圓ニ處シ同藤井克修ヲ罰金三十圓ニ處ス

右各罰金ヲ完納スルコト能ハサルトキハ金二圓ヲ一日ニ換算シタル期間當該被告人ヲ勞役場ニ留置ス

被告人兩名ニ對シ衆議院議員選舉法第三十七條第一項ノ規定ヲ適用セス

主 文

本件上告ハ孰レモ之ヲ棄却ス

理 由

各被告人辯護人平井彦三郎上告趣意書第一點原判決ハ公判期日ニ被告人ニ對スル召喚手續ヲ爲サスシテ判決ヲ宣告シタル違法アリ原審ノ公判調書ヲ査閱スルニ第三回公判期日タル昭和十四年三月二十七日ノ公判廷ニ於テ被告人及辯護人ノ出廷セサルニ拘ラス「裁判長ハ判決宣告期日ヲ來ル四月二日午前九時ニ變更スル旨ヲ告ケ閉廷シタリ」トアリ而シテ其ノ第四回ノ公判日タル同年四月二日ノ公判廷ニ於テ被告人及辯護人ノ出廷セサルニ拘ラス「裁判長ハ判決ノ宣告ヲナス旨ヲ告ケ判決主文ヲ朗讀シ云云」トアリ凡ソ審理ノ期日ハ勿論判決宣告ノ期日ト雖辯護人ニ對シテハ兎モ角被告人ニ對シテハ必ス召喚ノ手續ヲ爲ササル可ラス刑事訴訟法第三百六十八條ニハ「辯論終結ノ後ハ被告人出頭セスト雖宣告ニ依リ判決ヲ告知ス」トアルモ這ハ召喚手續ヲ爲シタルコトヲ前提トシタル規定ニシテ若シ此ノ手續ヲ了セサリシトセンカ重要ナル手續規定ニ違背シ且事實ノ確定ニ影響ヲ及ホスヘキ法令ノ違反トシ破毀ヲ免レサルコトハ御院判例大正十四年(レ)第二九五號同年六月十日三九七頁ニ於テ既ニ認メラレタル處ナリ而シテ此ノ召喚手續ハ召喚狀ヲ以テスルヲ原則トスルモ例外トシテ(1)被告人ヨリ期日ニ出

期日變更ト被告人召喚手續ノ要否 第一審ニ於テ從犯事實ヲ認定シタル事件ノ控訴審ニ於ケル共同正犯事實ノ認定ト刑事訴訟法第四百三條

頭スヘキ旨ヲ記載シタル書面ヲ差出シタルトキ(2)出頭シタル被告人ニ對シ口頭ヲ以テ次回ノ出頭ヲ命シタルトキノ二場合ノトキハ召喚狀ヲ送達シタルト同一ノ效力ヲ有ストアルコトハ同法第八十四條ノ規定スル處ナリ然ルニ本件ニ於テハ(1)ノ如キ書面ヲ差出シタルコトナキハ勿論(2)ノ如キ出頭ヲ命シタル宣言ヲモ爲シタルコトナキハ前示公判調書ノ如ク單ニ「判決宣告期日ヲ來ル四月二日午前九時ニ變更ス」トアルニ止マリ同期日ニ被告人ノ出頭ヲ命シタル記載ナキヲ以テ被告人ハ同日出頭スルヘキヤ否ヤヲ知ルニ由ナシ凡ソ期日ノ變更ト出頭ノ命令トハ二個ノ行爲ナルヲ以テ期日變更ノ宣告ノミヲ以テ兩者ニ兼用スルコトヲ得サルハ言ヲ俟タス御院判例大正十三年(れ)第一七七號同年十一月二十七日八〇三頁ニモ公判期日ヲ通知シテ訴訟關係人ノ出頭ヲ促ス云々トアリ二個ノ行爲トシテ取扱ハレ居ルコト明カナリ而モ同法文ニハ「口頭ヲ以テ出頭ヲ命シタル場合ニ於テハ其ノ旨ヲ調書ニ記載スヘシ」トアルニ此ノ記載ナシ破毀ノ理由アルコト疑ナシト思考ス假ニ出頭スヘシトノ宣言ヲモ併セ爲サレタリトスルモ未タ以テ前示(2)ノ要件ヲ充タシタルモノト云フヲ得ス何トナレハ法文ニハ「出頭シタル被告人ニ對シ」トアルカ故ニ不出頭ノ被告人ニ對シスル宣言ヲナスモ其ノ效力ナキコト明カナレハナリ然ルニ御院判例大正十三年(れ)第一一九二號同年十月十六日七〇五頁ニハ「出頭命令ハ其ノ際在廷セサル辯護人ニ對シテモ其ノ效力ヲ及ホスヘキモノトス蓋シ此ノ出頭命令ヲ以テ現ニ期日ニ出頭シタル者ノミニ對シテモ其ノ效力ヲ有スルニ過キササルモノトセンカ期日ヲ懈怠シタルモノニ對シテモ更ニ召喚狀ノ送

達ヲ要スルコトトナリ却テ出頭義務ヲ履行シタルモノニ比シ多クノ便益ヲ受クルニ至リ故ナクシテ動怠其ノ地ヲ換ユルノ不條理ニ陥ルヘケレハナリ」凡ソ或宣言ヲナスハ現實ニ其ノ意思表示ノ通達アルヲ要シ理論ヲ以テ其ノ手續アリタルカ如ク押付クルヲ許サス而モ判例ノ如キ「出頭義務ヲ履行シタル者ニ比シ多クノ便益ヲ受クルニ至リ」トノ如キ理論ハ一顧ノ價值ナキモノト云ハサル可ラス何トナレハ我刑事訴訟法ハ口頭辯論主義ヲ一貫センカ爲出頭セサル被告人ニ對シテハ如何ニ手續ノ繁雜ヲ加フルトスルモ何回ニテモ召喚ノ手續ヲ爲スヘク(第三百三十條)控訴審ニ於テスラ二回ノ召喚手續ヲ爲ササル可ラサル處ナレハ(第四百四條)缺席者カ出頭義務ヲ履行シタル者ニ比シ多クノ便益ヲ受クル結果トナルコトハ我訴訟法ノ立前ナリト云ハサル可ラサレハナリ斯ル理論ヲ以テ現實ニ知ラシメサルヘカラサル召喚手續ヲ省略シ得ルト爲スカ如キハ思ハサルノ甚シキモノト云フヘク原判決ハ此ノ點ニ於テモ破毀ヲ免レサルモノト思考スト云フニ在リテ

原審昭和十五年三月二十七日ノ第三回公判期日(判決宣告ノ期日)ニハ被告人等及其辯護人等共ニ公判廷ニ出頭セザリシニ拘ラズ裁判長ハ同公廷ニ於テ判決宣告期日ヲ同年四月二日午前九時ニ變更スル旨ヲ告ゲテ閉廷シ右四月二日ノ第四回公判期日ノ公廷ニ於テ裁判長ハ被告人等及其辯護人等ノ出頭セザルママニテ原判決ノ宣告ヲ爲シタルコトハ寔ニ所論ニ違ハズ又右第三回公判期日ノ公廷ニ於テ裁判長ハ公判期日變更ノ旨ヲ告ゲタルノミニテ被告人等ニ對シ次回期日ノ出頭ヲ命ジタルコト竝ニ原審ガ

期日變更ト被告人召喚手續ノ要否 第一審ニ於テ從犯事實ヲ認定シタル事件ノ控訴審ニ於ケル共同正犯事實ノ認定ト刑事訴訟法第四百三條

右第四回ノ公判期日ニ付被告人等ニ對スル召喚ノ手續ヲ爲シタルコトノ記録上認め得ザルコトモ亦所論ノ如シ仍テ先ツ被告人克修ニ關スル論旨ニ付審按スルニ右第三回公判期日ナルモノハ判決宣告期日ニシテ其ノ前適法ニ開カレ同被告人モ出頭在廷セシ同年三月二十日ノ第二回公判期日ノ公廷ニ於テ裁判長之ヲ指定告知シタル所ニ係リ且裁判長ハ其ノ告知ト同時ニ該期日ニ出頭スベキコトヲ訴訟關係人等ニ命ジタルモノナルコト記録上明白ナル所ナリ而シテ適法ニ開カレタル公判期日ノ公廷ニ於テ裁判長判決宣告ノ期日ヲ指定シテ在廷ノ被告人ニ告知シ且其ノ期日ニ出頭スベキコトヲ命ジタルトキハ被告人ハ茲ニ右指定ノ期日ニ出頭スベキ義務ヲ有スルニ至ルコト勿論ナルヲ以テ被告人ニシテ該期日ニ出頭スルコトヲ懈怠シタリトセバ自ラ策ヲ講ジテ右指定期日ノ公廷ニ於テ施行セラレタル手續ヲ知悉スベキ責アルモノト爲スベク從テ右指定期日ノ公廷ニ於テ被告人不出頭ノ儘期日ノ變更告知アリタルトキト雖モ裁判所ハ特ニ其ノ次回期日ニ付被告人召喚ノ手續ヲ爲スノ要無キモノトス若シ夫レ如上被告人不出頭ノ公廷ニ於テ期日ノ變更告知アリタル場合該公廷ニ於テ被告人ニ對シテ出頭ヲ命ズルノ要ナキコトハ多言ヲ俟タズ蓋此ノ場合ニハ既ニ被告人ガ出頭ヲ命ゼラレ居レル期日ヲ變更スルニ止マリ新ニ期日ヲ指定シ新ニ出頭ヲ命ズルモノニハ非ザレバナリ然ラバ即チ前示原審第三回公判期日ノ公廷ニ於テ裁判長ガ被告人克修不出頭ノ儘冒頭記載ノ如ク同期日ヲ變更スル旨ヲ告ゲタルノミニニ被告人ニ對シテ次ノ期日ノ出頭ヲ命ズルコトナク又原審カ特ニ被告人ニ對シテ次ノ期日ノ召喚手續ヲ爲スコ

トナクシテ前示第四回期日ニ原判決ノ宣告ヲ爲シタリトテ何等ノ違法ヲモ醸スモノニ非ズ被告人克修ニ關スル論旨ハ理由無シ次ニ被告人住一ニ付テ觀ルニ同被告人ハ前示第三回公判期日ヲ指定告知シテ出頭ヲ命ジタル第二回公判期日ノ公廷ニモ出頭シ居ラザリシコト記録上明白ナルガ故ニ同被告人ニ關スル論旨ノ理由アリヤ否ヤハ被告人克修ト同様簡單ニハ論斷スルヲ得ズ更ニ一段ノ考究ヲ要ス仍テ記録ニ付同被告人ニ對スル原審審理ノ迹ヲ原スルニ原審第一回公判期日ハ昭和十五年三月十五日適法ニ開カレ該期日ニハ同被告人モ公廷ニ出頭シ裁判長ノ被告人ニ對スル氏名年齢職業住居本籍出生地ノ訊問檢事ノ被告事件ノ陳述ヨリ裁判長ノ被告人ニ對スル公訴事實ノ訊問證據調ニ至ルマテノ手續總テ適法ニ施行セラレタル後裁判長ハ同月二十日午前九時ニ審理ヲ續行スル旨ヲ告ゲ且訴訟關係人ニ出頭ヲ命ジテ閉廷シ其ノ三月二十日ノ第二回公判期日ニハ被告人ハ公廷ニ出頭セザリシモ其ノ辯護人佐海直隆ノ出頭アリ裁判長ハ事實及證據トモ取調濟ナル旨ヲ告ゲ檢事ノ事實及法律適用ニ關スル意見ノ陳述辯護人ノ辯論アリテ裁判長ハ辯論ヲ終結シ同月二十七日午前九時判決ノ宣告ヲ爲ス旨ヲ告ゲ訴訟關係人ニ出頭ヲ命ジテ閉廷シ而シテ右三月二十七日ノ第三回公判期日ノ公廷ニ於テ被告人不出頭ノママ冒頭記載ノ如ク判決宣告期日ヲ變更告知シ冒頭記載ノ第四回公判期日ノ公廷ニ於テ原判決ノ宣告アリタルモノナルコト明白ナリ而シテ裁判所ハ罰金以下ノ刑ニ處スベキモノト認ムル被告事件ニ付テハ被告人出頭セザルトキト雖モ其ノ後ノ取調ニ依リ禁錮以上ノ刑ニ處スベキモノト認メザル限リハ被告人ノ

期日變更ト被告人召喚手續ノ要否 第一審ニ於テ從犯事實ヲ認定シタル事件ノ控
 訴審ニ於ケル共同正犯事實ノ認定ト刑事訴訟法第四百三條

陳述ヲ聽カズシテ判決ヲ爲スヲ得ベキコトハ刑事訴訟法第三百六十七條ノ明定スル所ニ係リ原審ガ右第二回公判期日ニ被告人不出頭ノママ審理ヲ爲シタルハ本件ヲ罰金以下ノ刑ニ處スベキ事件ナリト認メ且爾後ノ取調ノ結果ニ依ルモ被告人ヲ禁錮以上ノ刑ニ處スベキモノトハ認メザリシニ因ルモノナルコトハ記録上之ヲ肯認スルニ十分ナルヲ以テ原審ノ右措置ニハ何等ノ違法モ存スルコト無ク即チ右第二回公判期日ノ審理モ適法ナリト謂ハザルベカラズ夫レ然リ被告人ハ前段説明ノ如ク既ニ適法ニ開カレタル前示第一回公判期日ニ於テ裁判長ヨリ前示第二回公判期日ヲ告知セラレ且出頭ヲ命ゼラレタルモノナルガ故ニ第二回公判期日ニ出頭スベキノ義務アルト共ニ其ノ第二回公判期日ノ適法ナルコトハ右説明ノ如クナル以上該期日ノ公廷ニ出頭スルコトヲ懈怠シタル被告人ハ該公廷ニ於テ施行セラレタル手續ニ付テハ自ラ之ヲ知悉スベキ方法ヲ講ズルノ責務アルモノト謂フベキガ故ニ前叙ノ如ク該期日ノ公廷ニ於テ第三回公判期日ノ告知及出頭ノ命令アリタル以上其ノ期日告知及出頭命令ハ被告人ノ出頭シ居ラザリシニ拘ラズ有效ニシテ裁判所ハ特ニ該第三回公判期日ニ付被告人ニ對シテ召喚ノ手續ヲ爲スノ要ナク從テ其ノ第三回公判期日ハ被告人ニ對スル召喚手續ナカリシト雖適法ニ開カレタルモノト謂フヲ妨ケズ然レバ該公判期日ノ公廷ニ於テ原審裁判長ガ被告人住一不出頭ノママ判決宣告期日ヲ冒頭記載ノ如ク變更シテ第四回公判期日ヲ告知シタルノミニテ公廷ニ於テ出頭ヲ命ズルコトナク又特ニ召喚ノ手續ヲ爲スコトナクシテ右告知ニ係ル第四回公判期日ニ於テ原判決ノ宣告ヲ爲シタルノ違

法ニ非ザルコトハ曩ニ被告人克修ニ關スル論旨ニ付説明シタルト結局同一ニ歸ス被告人住一ニ關スル論旨亦理由無シ論旨中ニ援用セル當院ノ各判例ハ本件トハ場合ヲ異ニス適切ナラズ
 第三點原判決ハ被告人ノミニ控訴ナルニ前審ニ於テ從犯ト認メタル藤井克修ノ責任ヲ菊池住一ト共謀シタル共同正犯ト認定シ其ノ法條ヲ適用セラレタル重大ナル事實ノ誤認又ハ前審ノ刑ヨリ重キ刑ノ言渡ヲ爲シタル不法アルモノトス第一審及原審ノ判決ヲ査閱スルニ第一審判決ニ於テハ藤井ニ對シ菊池ノ犯罪ヲ幫助シタル從犯ト認メ刑法第六十二條ヲ適用セラレタルニ拘ラス原審判決ニ於テ菊池藤井兩名共謀ニ出テタル共同正犯ト認メ藤井ニ對シテモ菊池ト同様刑法第六十條ヲ適用セラレタリ是重大ナル事實ノ誤認アルハ勿論假ニ誤認ナシトスルモ第一審ノ刑ヨリ重キ刑ヲ言渡シタル違法アルモノト云ハサルヘカラス一、重大事實誤認ノ點ニ付テ本件文書ノ作製及配布ハ藤井ノ爲シタル處ナルモ何レモ菊池ノ承諾又ハ依頼ニ因リタルモノナリ菊池ニシテ斯ル承諾又ハ依頼ヲ爲ササランカ藤井一人ニテ之ヲ爲シ得ルモノニ非ス一人ニテ獨立ニ爲シ得サル行爲ハ正犯ヲ幫助シタル從犯ナリト認ムルヲ相當トスヘシ二、重キ刑ノ言渡ニ就テ刑事訴訟法第四百三條ニ「原判決ノ刑ヨリ重キ刑ヲ言渡スコトヲ得ス」トアル其ノ刑トハ刑法第九條ノ刑名ノミヲ指シタル狹義ノモノニ非ス實質上刑ト同視スヘキモノ一切ヲ包含スルコトハ貴院判例ニ於テ屢次認メラレタル處ニシテ之ヲ例示スレハ(1)刑ハ同等ナルモ前審同様刑ノ執行猶豫ヲ宣告セサリシトキ(2)未決勾留ノ通算日數ヲ前審ノ刑ヨリ減シ又ハ皆無ト爲シタルト

期日變更ト被告人召喚手續ノ要否 第一審ニ於テ從犯事實ヲ認定シタル事件ノ控訴審ニ於ケル共同正犯事實ノ認定ト刑事訴訟法第四百三條

キ(3)選舉權被選舉權ノ停止ヲ前審同様宣告セザリシトキ等ハ何レモ重キ刑ノ言渡ト爲サルルカ如シ然
 ラハ法定刑ヲ前審ノ法定刑ヨリ重ク變更スルコトモ亦同條ノ支配スル處ト解スルヲ相當トス而シテ此
 ノ根據ハ刑事訴訟法第三百六十條第二項第四百十條第二十號ニ依ルヲ可トス即チ公判ニ於ケル從犯ノ
 主張ニ對シ其ノ判斷ヲ遺脱シタルトキハ前示二法條ニ該當ストシ破毀ヲ免レサルヲ以テ此ノ判斷ノ遺
 脱ヨリモ一層重大ノ影響ヲ惹起スル從犯ヲ共同正犯ト認定スルカ如キハ法ノ禁止スル處ナリト解セサ
 ル可ラス果シテ然ラハ右「刑」ノ中ニハ言渡刑ノミナラス本件ノ如キ法定刑ヲモ包含スルモノト解ス
 ルヲ正當トスヘケレハナリト云フニ在レドモ

原審援用ノ證據ニ依レバ被告人克修ハ原判示ノ如ク被告人住一ト共謀シテ原判示ノ各所爲ニ及ビタル
 コトヲ認ムルニ足リ原審ノ該事實認定ニ重大ナル誤謬アルコトヲ疑フニ足ルベキ顯著ナル事由ハ記録
 上之ヲ發見スルヲ得ズ又刑事訴訟法第四百三條ニ「原判決ノ刑ヨリ重キ刑ヲ言渡スコトヲ得ズ」トア
 ルハ判決主文ニ於テ原判決主文ニ定メラレタル刑其ノ他之ト同視スベキ事項ヲ被告人ノ不利益トナル
 如クニ變更シテ定メ之ヲ言渡スコトヲ得ズトノ趣旨ナルコトハ本院屢次ノ判例ノ示ス所ニシテ所論ハ
 未タ以テ之ヲ動カスノ必要ヲ認メシムルニ足ラズ而シテ第一審ニ於テハ被告人克修ハ被告人住一ノ本
 件犯行ヲ幫助シタルモノト認定シテ刑法第六十二條ヲ適用シタルニ拘ラズ原審ニ於テハ同被告人ハ被
 告人住一ト共謀シテ本件犯行ヲ爲シタルモノナリト認定シテ刑法第六十條ヲ適用シタルコト所論ノ通

【要旨第二】

リナリト雖モ原審ガ原判決主文ニ於テ定メタル刑ハ罰金三十圓其ノ完納不能ノ場合ノ勞役場留置ノ期
 間ハ罰金二圓ヲ一日ニ換算シタル期間ニシテ第一審判決主文ノ定メタル其レト全ク相同シク且原判決
 主文中ニハ被告人兩名ニ對シ衆議院議員選舉法第三百三十七條第一項ノ規定ヲ適用セズトノ項アリテ此
 ノ點亦第一審判決ノ主文ト異ル所無ク即チ原審ハ原判決主文ニ於テ被告人克修ニ對シ第一審判決主文
 ノ定メタル刑其ノ他之ト同視スベキ事項ヲ不利益ニ變更シテ定メタル點毫モ存セザルガ故ニ原審ノ右
 措置ヲ以テ前掲法條違背ノ違法アルモノト謂フヲ得ザルヤ勿論ナリトス論旨理由無シ(其ノ他ノ上告
 論旨及判決理由ハ之ヲ省略ス)

仍テ刑事訴訟法第四百四十六條ニ則リ主文ノ通り判決シタリ
 檢事田口環關與

期日變更ト被告人召喚手續ノ要否 第一審ニ於テ從犯事實ヲ認定シタル事件ノ控
 訴審ニ於ケル共同正犯事實ノ認定ト刑事訴訟法第四百三條

○竊盜被告事件 (昭和十五年(九)第一一三五號 棄却)

【被告人】 被告人 鈴木權三郎 辯護人 (須藤威雄)

【第一審】 山形區裁判所 【第二審】 山形地方裁判所

○判示事項

通信事務員ト竊盜罪ノ成立

○判決要旨

通信事務員力郵便局長ノ指揮監督ノ下ニ赤行囊ヲ開披シ郵便物ノ整理中竊カニ右郵便物ヲ領得スルトキハ竊盜罪ヲ構成シ業務上横領罪ヲ構成セス

【參照】 刑法第二百三十五條 他人ノ財物ヲ竊取シタル者ハ竊盜ノ罪ト爲シ十年以下

ノ懲役ニ處ス 同法第二百五十三條 業務上自己ノ占有スル他人ノ物ヲ横領シタル者ハ十年以下ノ懲役ニ處ス

○事實

第二審ハ左記ノ如ク事實ノ認定及法律ノ適用ヲ爲シ被告人ヲ懲役壹年ニ處ス原審ニ於ケル未決勾留日數中三十日ヲ右本刑ニ算入ス訴訟費用ハ全部被告人ノ負擔トスル旨ノ判決ヲ爲シタリ

被告人ハ山形縣西村山郡高松郵便局ニ通信事務員トシテ郵便電信電話ノ事務ヲ取扱ヒ居リタル處自己ノ債務辨濟金ニ窮シタル結果昭和十五年四月九日午前八時頃前記高松郵便局内ニ於テ同郵便局宛山形郵便局發送ニ係ル赤行囊在中ノ郵便物ヲ整理シタル際同郵便局發送同郡白岩郵便局宛資金七百圓在中ノ封金一箇(郵便送達證第七八一號)ヲ竊取シタルモノナリ

法律ニ照スニ被告人ノ判示所爲ハ刑法第二百三十五條ニ該當スルヲ以テ其ノ所定期間範圍内ニ於テ被告人ヲ懲役一年ニ處シ同法第二十一條ニ依リ原審ニ於ケル未決勾留日數中三十日ヲ右本刑ニ算入シ訴訟費用ハ刑事訴訟法第二百三十七條第一項ニ則リ全部被告人ヲシテ之ヲ負擔セシムヘキモノトス

○主 文

本件上告ハ之ヲ棄却ス

○理 由

通信事務員ト竊盜罪ノ成立

辯護人須藤威雄同鍛治利一上告趣意書第四點原判決ハ其事實理由ニ於テ「被告人ハ山形縣西村山郡高松郵便局ニ通信事務員トシテ郵便電信電話ノ事務ヲ取扱ヒ居リタル處自己ノ債務辨濟金ニ窮シタル結果昭和十五年四月九日午前八時頃前記高松郵便局内ニ於テ同郵便局宛山形郵便局發送ニ係ル赤行囊在中ノ郵便物ヲ整理シタル際同郵便局發送同郡白岩郵便局宛資金七百圓在中ノ封金一個(郵便送達證第七八一號)ヲ窃取シタルモノナリ」ト判示シ其擬律理由ノ部ニ於テ「被告人ノ判示所爲ハ刑法第二百三十五條ニ該當ス」ル旨說示シタリ然レトモ原判決ノ認定シタル事實ニヨレハ上告人ハ高松局郵便係トシテ山形郵便局發送ニカカル高松局宛ノ赤行囊ヲ開封シ同行囊在中ノ郵便物ヲ整理シタリト云フニアルヲ以テ同行囊中ノ郵便物其他ハ開封ト同時ニ全部上告人ノ占有ニ屬シタリト云フヘク從テ同行囊中ニ封入セラレアリタル判示資金七百圓在中ノ封金一個モ上告人ノ占有ニ歸シタルコト明カナリ然ルニ上告人カ右封金一個ヲ不正ニ領得シタリト云フモノナレハ上告人ノ判示所爲ハ原判決ノ認定事實ヨリスルモ窃盜罪ニ非サルヤ當然ナリトス蓋シ窃盜罪ハ他人ノ占有スル自己以外ノ者ノ所有物ヲ奪取スルニ因リ成立ス(大審院大正十二年(れ)第九二四號同年七月三日判決大刑集二卷六二四頁)ルモノナル處上告人ハ其占有ニ係ル判示封金ヲ領得シタモノト云フモノナレハナリ果シテ然ラハ原判決ハ擬律錯誤ノ違法アリテ到底破毀ヲ免カレサルモノト信スト云フニ在リ

【要旨】

按ズルニ物ニ對スル事實上ノ支配ガ數人ニ依リテ行ハルル場合ニ於テ其ノ數人ノ支配ガ對等ノ關係ニ

在ルコトナク上下主從ノ關係ヲ有スルニ過ギザル場合ニ於テハ從タル物ノ支配者ハ刑法上ノ占有ヲ有スルモノニ非ズ從テ斯ル者ガ主タル支配ヲ排斥シテ物ニ對スル獨占的ノ支配ヲ爲ストキハ窃盜罪ヲ構成スルモノト謂ハザルベカラズ而シテ郵便局ニ雇ハレ局長指揮監督ノ下ニ他ノ郵便局ヨリ同郵便局宛ニ郵送セラレタル赤行囊ヲ開披シテ在中ノ郵便物ヲ整理スル事務ニ從事スル通信事務員ハ其ノ整理中ノ郵便物ニ對シ事實上ノ支配力ヲ有スルコトハ疑ナキトコロナルモ該郵便物ニ付テハ同時ニ郵便局長ノ事實上ノ支配存スルガ故ニ右通信事務員ノ支配ハ畢竟局長ノ指揮監督ノ下ニ爲サル從屬的支配ニ過ギザルモノトス從テ通信事務員カ局長ノ隙ニ乘シ右整理中ノ赤行囊在中ノ郵便物ヲ奪取シ自己ノ獨占的支配ニ置クトキハ即チ窃盜罪ヲ構成スルモノニシテ所論ノ如ク業務上ノ横領罪ヲ構成スルモノニアラス然ラハ右趣旨ニ出タル原判決ノ擬律ハ相當ニシテ論旨理由ナシ(其ノ他ノ上告論旨及判決理由ハ之ヲ省略ス)

以上ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第四百四十六條ニ則リ主文ノ如ク判決ス

檢事横田麟二關與

○刑事補償請求棄却決定ニ對スル抗告事件(昭和十五年(一〇)第一二二號棄却)

【抗告人】 關根 博 代理人 辯護士 菅野勘助

【原 審】 東京控訴院

○判示事項

豫審ニ於ケル供述ト刑事補償法ニ所謂重大ナル過失

○決定要旨

豫審ニ於ケル供述力後日ニ至リ眞實ニ非サルコトヲ發見セラレタルトキト雖其ノ供述ニ因リ勾留セラレタルモノナルトキハ刑事補償法ニ所謂重大ナル過失ニ基クモノトス

【参照】 刑事補償法第四條 無罪又ハ免訴ノ言渡ヲ受ケタル者ニ付左ノ事由アルトキ

ハ補償ヲ爲サズ

- 一 刑法第三十九條乃至第四十一條ニ規定スル事由ニ因リ無罪又ハ免訴ノ言渡アリタルトキ
 - 二 起訴セラレタル行爲ガ公ノ秩序又ハ善良ノ風俗ニ反シ著シク非難スベキモノナルトキ
- 本人ノ故意又ハ重大ナル過失ニ因ル行爲ガ起訴勾留公判ニ付スル處分又ハ再審請求ノ原由ト爲リタルトキハ第一條第一項ノ補償ヲ爲サズ
- 本人ノ故意又ハ重大ナル過失ニ因ル行爲ガ原有罪判決ノ證據ト爲リタルトキハ第一條第二項ノ補償ヲ爲サズ
- 一個ノ裁判ニ依リ併合罪ノ一部ニ付無罪又ハ免訴ノ言渡ヲ受クルモ他ノ部分ニ付有罪ノ言渡ヲ受クル者ニ對シテハ補償ヲ爲サザルコトヲ得

○事實

事實關係ハ決定理由ニ說示スル所ノ如シ

○主 文

本件抗告ハ執レモ之ヲ棄却ス

○理 由

抗告申立人成富久治代理人辯護士有松祐夫抗告理由ハ原決定カ抗告人ノ請求ヲ却下シタル理由ハ上略

豫審ニ於ケル供述ト刑事補償法ニ所謂重大ナル過失

仍テ進ンテ本件補償請求ノ當否ニ付審按スルニ右事件ノ記録ニ徴スレハ前記勾留ニ先立チ昭和九年七月二十三日神奈川縣壽警察署ニ於テ横濱地方裁判所檢事竹上三郎ノ取調ヲ受ケ其際自分ハ川崎市土木課第二技術係主任ニシテ係擔任事務ハ川崎市ノ建築ニ關スル事一切ニテ設計工事ノ現場監督建物ノ評價等ヲ取扱ヒ居リタリ川崎市ハ昭和七年五月頃ヨリ富士見尋常小學校ノ建築ニ着手シ該工事ハ競争入札ノ結果川崎鈴捨組鈴木龜吉カ請負タリ自分ハ右工事ニ付材木ヲ供給シ右鈴捨組ノ金主ト思ハルル加瀬忠治ヨリ昭和七年十月中元トシテ商品切手十圓同年暮歲暮トシテ反物一反同年十一月末頃現金二百圓ヲ受取タリ右二百圓ハ加瀬ニ金融ヲ頼ミ借受ケタルモノニテ自分カ右小學校ノ工事ニ付監督ヤ檢査ヲ爲スニ付宜敷頼ムトノ意味ヲ含メテ寄越シタモノト思フ又同年九月下旬頃職務ニ關シ鈴捨組小島ヨリ百圓ヲ貰ヒ受ケタル旨陳述シ昭和九年七月二十五日前記ノ如キ加瀬忠治ヨリ金二百圓ヲ收受シタル旨ノ被疑事實ニ付横濱地方裁判所ニ於テ豫審判事ノ訊問ヲ受ケタル際ハ右事實ヲ否認シ同月三十日横濱地方裁判所檢事局ニ於テ前同竹上檢事ノ取調ヲ受ケ同檢事ノ先ノ取調ト同趣旨ノ陳述ヲ爲シ同年八月二日前記ノ如キ豫審請求ヲ受クルヤ同年九月十五日第一回豫審訊問同月十七日第二回豫審訊問同年十月三十日ノ第三回豫審訊問ニ際シ孰レモ公訴事實申請人カ竣工檢査ヲ爲シタル點ハ違ヒ居ルモ其餘ノ事實ハ相違ナキ旨ノ陳述ヲ爲シタルコトハ明カニシテ右陳述カ他ノ證據ト相俟チ本件請求人ノ勾留起訴公判ニ付スル處分ノ原因ヲ爲シタルコトヲ認ムルヲ得ヘシ請求人ハ右係檢事立會ニテ司法

警察官ヨリ警察ニテ拷問審問セラレ拷問審理ノ自白強要ニ對スル恐怖ノ爲メ正當ナル利害ヲ判斷スル精神ヲ失ヒ取調官ノ誘導訊問ヲ易々諾々トシテ認メタルモノニシテ無意識的の追隨ノ陳述ナル旨主張スレトモ豫審判事カ請求人ノ自白ヲ強要誘導シタリトノ事實ハ之ヲ認ムルノ證據ナキノミナラス前記檢事ノ各聽取書豫審判事ノ訊問調書ノ記載内容ニ鑑ミレハ右請求人ノ各陳述ハ孰レモ請求人ノ任意ノ陳述ト認ムル外ナク右認定ヲ覆シ前示請求人ノ主張ヲ容認スルニ足ル證據ナク其他請求人主張ノ右ハ刑事補償法第四條ニ所謂重大ナル過失ニ該當セサル旨ノ主張ヲ容認スル證據ナキヲ以テ右請求人ノ主張ハ孰レモ之ヲ採用セス然ラハ前示認定ノ如ク請求人ノ前記自白カ右事件ノ請求人ノ勾留起訴公判ニ付スル處分ノ原由ト爲リタルモノニシテ請求人ノ右自白ハ刑事補償法第四條ニ所謂請求人ノ重大ナル過失ニ該當シ右重大ナル過失カ請求人ノ勾留起訴公判ニ付スル處分ノ原由ト爲リタル場合ナルヲ以テ本件請求人ノ請求ハ失當タルヲ免レスト云フニ在リ即チ本件請求許否ノ爭點ハ本件請求人取調ニ際シ司法警察官、檢事、豫審判事ニ拷問、誘導訊問ノ事實アリシヤ否ヤノ點ニ存ス本件請求人取調ニ際シ司法警察官、檢事ニ於テ拷問、誘導訊問ノ事實存シタルコトハ敢テ立證ヲ俟ツ迄モナク公知ノ事實ナリ即チ當時ノ横濱地方裁判所檢事正松井和義氏竝ニ本件取調ニ當リタル横濱地方裁判所檢事竹上三郎氏ハ孰レモ本件及所謂横濱事件ノ責ヲ負ヒ退職セラレタルコトハ吾人ノ記憶ニ未タ新ナルトコロナリ更ニ當時請求人等ヲ取調ヘタル司法警察官モ各々行政處分ニ附サレタルコトモ亦顯著ナル事實ナリ昭

和十二年二月二十二日ノ第一審公判ニ於テ(所謂横濱事件)菊池立會檢事ハ請求人等ノ川崎市關係及縣市關係ノ疑獄取調ニ當リ不當苛酷ノ取調アリ遺憾ノ意ヲ表明セラレ拷問ノ事實ヲ認メラレタリ以上ノ如ク本件請求人ノ取調ニ當リ司法警察官及檢事ニ於テ不當苛酷ノ取調ヲ爲シタルコトハ炳乎トシテ明ナリ仍テ司法警察官、檢事カ如何ナル不當苛酷ノ取調ヲ爲シタルヤニ付考察スルニ請求人カ第一審宛提出シタル上申書ノ記載ニ依レハ一、刑事ノ取調へ、壽署ノ三階ノ一室テ四人ノ刑事ニ拷問ニ逢ヒ次ノ様ニ無理ニ認メサセラレマシタ「加瀬カラ金ヲ貰ツタラウ」ト問ハレマシタカラ貰ツタ覺ハアリマセシカ「絶対ニアリマセン」ト申シマシタ「嘘ヲ言フナ」ト言ツテ頭ヲ手テ毆ラレマシタ然シ事實ナキコトテアリマスカラ何ト言ツテ良イカ判リマセンカラ「有リマセン」知リマセン」ノ一點張リテ通シマシタ「現職ノ者ヲ充分ナ證據カ無クテ引張ルカ貰ツテ居ル早ク言ヘ言ハヌカ」ト言ツテワイシャツ一枚ニナシ兩手ヲ頭ノ後テ縛リ背中ニ締メ付ケテ上向ニ蹴轉シ一人カ腹ノ上ニ跨ツテ俗ニ云フ胸佛ノ處ヲ拳固テド突き左右ニ一人宛居テ胸カラ腋下ニカケテド突ク揉ム、今一人(取調主任ト思イマス)カ頭ノ處ニ居テ顔ヲ撲ツ之ヲ四人ノ刑事ニ一時ニ長時間續ケラレマシタノテ苦シマキレニ唸リマシタラ靴ヲ磨イタラシイ石油ノ匂ノスル手拭様ノモノヲ口ニ押込ミマシタノテ口ト鼻カ塞リ苦シクテ耐ヘラレナクナリマシタカラ斯ウマテサレルノタカラ加瀬カ中村トノ貸借關係上ノ事ヲ言ツタノタラウト思イ(中村ニ豫テ五百圓程ノ貸金カ有リマシタカ工事モ濟ミ引渡モ濟ンタノニ内金ノ返濟モ致

シマンカラセメテ利子ナリトモト思ヒ年末「十二月三十日夕方」加瀬宅ニテ落合フ様話ヲ定メテ同氏ニ道ヲ良ク尋ネテ加瀬宅ニ落合ヒ(此時私カ中村ヨリ早ク着キマシタノテ座敷テ中村ノ來ルノヲ待ツテ居リマシタ)内金ノ返濟ヲシテ貰ツタ事カアリマス其事ヲ申シマシタ人ヲ中ニ挾ムナト言ツテ私一人テ行ツテ二百圓丈ケ受取ツタ事ニ無理ニサレテ仕舞ヒ然モ月モ十月ノ下旬トサレテ仕舞ヒマシタ此時私ハ中村カラ受取ツタ金モ何程テ有ツタカ覺ヘテ居リマセンテシタ後豫審ノ時加瀬ノ判取帳ヲ見セテ貰ツテ中村カ八十圓受取ツタ後五十圓私ニ渡シタ事カ解リマシタ加瀬カラ二百圓私カ受取ツタ事ニサレマシタノハ拷問責ニ會ツテ苦シクテ實際死ハセナイカト思ツタ位テ時々新聞テ見ル取調中ニ逆上ノ結果心臟麻痺ヲ起シテ死ンタ等アルノハ拷問ニアツテ死ンタノタナト云フ感カ頭ニ浮ヒマシタカラモウ堪リマセン(後テ茶腕テ水ヲ飲マセテ貰ヒ深呼吸ヲシテ我ニ歸ツタ位テス此時窓際ニ居リマシタ「コッチニ來イ」ト言ツテ怒ラレマシタ)「何程テモ良イカラ言ツテ下サイ其ヲ認メマスカラ」ト申シマシタ「馬鹿ツソソナ調ヘカアルカ」ト言ハレ結局「三十圓」テス「違フ」「五十圓テス」違フ「八十圓テス」違フ「百圓」違フ「百二十圓」違フ「百五十圓」違フ「百八十圓」違フ「二百八十圓」違フ「ソソナ半端ハ付イテ居ナイ」ト言ハレマスカラ「三百圓」ト言ヒマスト違フ「四百圓」違フ「五百圓」違フ「其那澤山ノ金テハナイ」ト言ハレマシタソコテ「百圓」ト申シマスト違フ「二百圓」ソウタ「ト言ツテ二百圓ニ決定サレマシタ然シテ何故最後ニ本當ノ事ヲ言フカト言ハレマシタカ私トシ

豫審ニ於ケル供述ト刑事補償法ニ所謂重大ナル過失

テハ最後ニ「ホント」ノ事ヲ言ツタノテハアリマセン止メヲササレタカラ最後ノ言葉トナツタノテスソコテ加瀬カ私ニ二百圓渡シタト言ツタノタナ——ト思ヒマシタ漸ク濟ンタノカト思ヒマシタラ未ダアルト言ハレマシタカラ愈々「ワケ」カ解ラナクナリマシタ、ソコテ絶對ニアリマセント申シマシタラ小島カラ貰ツタラウト言ツテ同シ様ナ拷問ニ會ヒマシタカラ「三十圓」違フ「五十圓」違フ「百圓」サウタト言ツテ之モ百圓ト決定サレテ仕舞ヒマシタ實ニ情ナイ事テス然シテオ前カ受取ツタカ、家内カ受取ツタカ暫クシテカラ家内カ受取ツタノタラウト言ハレマシタカラ之ハ大變タ今身持ノ體テ家内カ引張ラレタラトウナルタラウ又小サイ子供達ハ什ウナルタラウト考ヘマシタラ絶對絶命口惜シ涙ヲ飲ンテ日曜日タツタカ土曜日タツタカ知リマセンカ私カ家ニ居リマシタカラ私カ受取ツテ其ヲ家内ニ渡シマシタト申シマシタ子ヲ持ツ親トシテ誰シモ斯ンナ考カ浮フ事ト思ヒマス加瀬ノ宅テ加瀬カラ又私ノ家テ小島カラ受取ツタ時ノ模様ヲ言ヘト申サレマシタカ事實無イ事テスカラ什ンナニ言ツテ良イカ分リマセンカラ加瀬ノ分ハ十二月ニ中村ト加瀬ノ宅ニ行ツタ時ノ模様ヲ申シマシタ處カ保釋中中村カラ聞キマシタ事テスカ加瀬カ中村ニ對スル支拂計算ヲ爲ス時「君カ成富ニ借金カ有ルウチ幾ラカテモ良イカラ返金スル様頼マレタカラ君ニ支拂フ金ノ内カラ二百圓丈ケ差引ク」ト言ツテ加瀬カ差引イタカラ其金ヲ受取ツタラウト中村カ私ニ申シマスカラ「受取ラナイ、受取ツタラ君ニ通知スルノカ當然ヲナイカ」ト申シマシタラ「其當時モ受取ラヌト君ハ言ツタカヤツバリ受取ラナカツタノカ」ト中村

カ申シマシタノテ其當時ヲ思ヒ出シマシタ全ク私ハ忘レテ居リマシタ私ハ加瀬ニ幾何テモヨイカラ中村ノ支拂ヒカラ私ニ返ス様言ツテ呉レト頼ンタ事カアリマス然シ加瀬カラ金ヲ受取ツタ事ハアリマセン受取ツタ處テ貸金ノ返金テスカラ構ヒマセンノテスカ金ノ性質如何ニ不拘受取ツタ事ハアリマセン又私ニ渡シタラ必ス私カラ受取ヲ取ル筈テス又中村ニ渡シタト云フ事ヲ加瀬カラ通知スル筈テス私モ中村ニ其ノ旨ヲ通知セネハナリマセン第一私カ受取ツテ居レハ其使途カナクテハナリマセンカ夫レモアリマセン私カ加瀬ニ中村ノ貸金ノ返済方ヲ頼ンタ時加瀬ハ私ニ斷リマシタカラ暮ニ中村ト加瀬ノ家ニ行キマシタ次第テス以上ノ様ナ次第アリマシテ貰フ處カ取ルヘキ金モ取ツテ居リマセン小島ノ分テアル益ヲ貸シテ呉レト言ツタト申シマシタコトハ私自身カソウ致シマスカラ其儘其時ノ模様ニシテ話シマシタ若シソレカ事實小島カシタ事テシタラ他人ノ家テモソウスル筈ト思ヒマス又庭ニ居テ云々ト申シマシタ事ハ休ノ日ハ必ス庭ニ出テ終日草花ヤ鉢物ヲイジツテ居リマスカラソソナニ申シマシタ又玄關ノ次ニ在ル四疊半ニ居テ云々ト申シマシタノハ豫テ人カ來タ時ニ私カ良クスル事テスカラ左様申シマシタ事實小島トハ一回モ話シタ事モアリマセンソレナノニ何故カ其時頭ノ中ニ事實小島カ尋ネテ來テ私カ受付テ居ル模様カ夢ノ様ニ頭ノ中ニ事實ノ様ニ浮ンテ來マシタ今ニ不思議テナリマセン然シ小島トハ保釋後道中テ出會ヒ生レテ初メテ言葉ヲ交シマシタノテス警察テ拷問ニ會ツタ爲ニ、三日ハ流動物モ吐シ胸ハ一週間位腫レ上リ顎ハ半月位痛ンテ思フ様食事モ出來マセンテシタ此事ハ未決收

容後ニ於テ受持看守モ良ク知ツテ居リマス一、檢事ノ取調ヘ、刑事ニ拷問ニ會ツタ直ク後テ檢事サンカ壽署ニ出張取調ヲ爲サレタノテスカ檢事サント云フ事ハ一ツモ知リマセンテシタ又新手ノ刑事カ來テ再訊問スルノカト思ヒ愈々恐シクナリ前ニ言ツタ様ニ成ルヘク差異ヲ來タサヌ様努メテ申シマシタ處カ後テ檢事局ニ送ラレテ始メテ二度目ノ方ハ檢事サン達テアルコトヲ知ツテ驚キマシタカモウ既に遅カツタノテス刑事ニ拷問ニ會ツタ爲メ又トシテ逢ハサルノカト思ヒ檢事サント知ラス拷問カ怖シサニ貫ツタト嘘ノ申立ヲシマシタト何程申シマシテモ駄目テシタ然シ檢事局テハ別ニ拷問ハ受ケマセンテシタカ只堀檢事ニ喉ヲ突カレテ壁ニ押シ付ケラレタ位テス然シ乍ラ取調カ餘リ峻烈テシカモ私ノ申ス事ハ何一ツ取上ケテ下サラス怒鳴リ散ラサレマシタノテ逆上シテ仕舞ヒ全然氣力ハ無クナリ何カ何カ判ラス只口惜シ涙カ止メ度モナク流レルハカリテシタ「ソレニ君カ頑張り切ルカ俺カ調ヘ切ルカ一ツヤラウシヤナイカ今ハ夏タネ秋カ來テ春カ來テ……ソレトモアツサリ謝罪シタラフウタ直ク歸ラレルチャナイカ執行猶豫ノ恩典モアルシ家ニハ妻子カ待ツテ居ルヨ實ハ僕モ去年家内ニ死ナレ小サイ子供カ居テ弱ツタヨ」等言ハレマスノテモウ一ヶ月モ過キタカ子供達ハ什ウシテ居ルテアラウカ家内ハ身持ノ體テ什ウシテ居ルテアラウカト次キ次キト不吉ノ事ハカリ頭ニ浮ヒ欲モ得モナク只一日モ早く出所シタイ一念テ將來ノ事ヤ名譽モ何モアツタモノテハアリマセン此心持ハ恐ラクス様ナ目ニ遣ツタ人テナイト全ク解ラスト思ヒマス、假令刑事ニ拷問ニ會ヒ苦シ紛レニ認メタニセヨ一

且認メタ以上檢事サンハ職責上トコ迄モ追及ナサルノハ當然タ口惜シクトモ認メテ一日モ早く出所シタ方カ得タト思ヒ言ハル儘ニ認メマシタ、司法警察官檢事ノ取調ハ敍上ノ如シ讀ム人ヲシテ顔ヲ背ケシム如斯行動ヲ以テ取調ト謂ヒ得ルヤ蓋シ何人モ之ヲ否定シ其供述モ亦自由ナル意思ニ基ク供述トハ言ヒ得サルヘシ從テ前記ノ如ク取調係官ニ其ノ責任ヲ問ハルルニ至リタルモ之亦當然ノ歸結ナリト謂フヘシ然ルニ原決定ハ檢事ノ聽取書ノ供述モ亦請求人ノ自由ナル意思ニ基ク供述ナリト爲ス其ノ旨斷タルヤ論ヲ俟タサルヘシ次ニ豫審判事ノ訊問ニ付檢討スルニ請求人カ第一審宛提出シタル上申書ノ記載ニ依レバ(三九丁以下)一、豫審判事ノ取調ヘ第一回檢事取調カ終ツテ直ク判事サンニ呼ハレタ時「事實無根テスカ四人ノ刑事ニ拷問ニ合ハサレマシテ苦シ紛レニ出鱈目ヲ言ツタノテス又十二月三十日ヨリ外ニ加瀬ノ家ヲ尋ネタ事ハ絶對ニアリマセン」ト申シマシタラ又直ク檢事サンノ所ヘ戻サレマシタ檢事サンノ調カ終ツテ豫審ニ廻サレタ時ハモウ欲モ得モナク夫レニ豫審ニ廻ル前日檢事サンヨリ「百圓ト二百圓ノ事ハ豫審テ貫ツタト言ヘ」ト念ヲ押サレマシタカラ否定シタラ何時マテ置カルルカ判ラナイ一日モ早く子供ノ産レナイ前ニ出所シ度イ一念カラ完全ニ諦メテ居リマシタカラ簡單ニ認メテ仕舞ヒマシタ(事實ハ絶對ニアリマンカ)什ウセ認メナケレハ置カレルナラ早イ方カマシタト思フタカラテス然シ時々「違フ」ト言ハレマスノテ判事サンニ檢事サンノ調書ヲ讀ンテ下サイト頼ンテ讀ンテ貫ヒ其ノ通リニ答辯致シマシタ、判事サンニ御取調中時々「違フ」ト言ハレマスノハ當然テス

ソレハ實際事實無根ノ事ヲフカラ檢事サンニ言ツタ事ヲ完全ニ覺ヘテ居マセンカラテス何度モ申シマ
ス様テスカ一日テモ一時間テモ早ク出度イ出度イト思フ心ヨリ外ニ何物モアリマセンテシタ今ニナツ
テ考ヘレハ實ニ残念テナリマセン又實ニ恥入ル次第テアリマス云々(以下略)豫審判事ノ取調敍上ノ
如シ右上申書ノ記載竝ニ原決定説示ニ依リ明ナル如ク請求人ハ昭和九年七月二十五日横濱地方裁判所
豫審判事田邊高三郎ノ強制處分ノ訊問ニ於テ被疑事實ヲ否認シ同年同月三十日同地方裁判所檢事局檢
事竹上三郎ノ取調ヲ受ケ再度被疑事實ヲ認メタリ請求人ハ司法警察官及檢事ニ對シテ拷問ノ苦シサ
ニ耐ヘ兼テ遂ニ身ニ覺ヘナキ虚偽ノ自白ヲ爲シタルモ豫審判事ニ對シテハ毅然トシテ事實無根ヲ訴ヘ
居ルナリ請求人ノ此ノ心情ハ判事ハ正シキ訴ヲ正シキモノトシテ受容レテ吳レルモノナリトノ信賴ニ
外ナラス然ルニ田邊豫審判事ハ請求人カ自白ヲ翻スヤ直ニ之ヲ檢事ニ通告シ同月三十日ニハ竹上檢事
カ取調ニ當リ居ルナリ請求人ハ司法警察官カ一番恐シイ檢事ニ否認スレハ再ヒ警察ニ歸サレルトノ恐
怖ハ念頭ヲ離レサルナリ其故檢事ニモ亦迎合虚偽ノ自白ヲ爲シタルナリ豫審判事ハ判事ナリ判事ハ正
シキモノナレハ正シキ事ヲ申述ヘルハ此時ナリト否認スレハ檢事ノ下ニ歸サレル請求人ハ正シキ人ト
考ヘタ豫審判事モ亦檢事ト同様テアリ豫審判事ハ檢事ノ延長ナリト考ヘサルノ已ムナキニ至リタルナ
リ敍上ノ如キ豫審判事ノ遣口ハ明白ナル自白ノ強要ナルノミナラス請求人ノ乞ヒヲ容レタトハ云ヘ請
求人ノ答辯出來サル部分ニ付檢事聽取書ヲ讀ミ聞カスカ如キハ其行爲自體誘導訊問ナリト謂ハサルヘ

カラス然ルニ原決定カ豫審判事カ自白強要誘導シタリトノ證據ノ認ムヘキモノナシトシテ本件請求人
ノ請求ヲ排斥シタルハ失當タルヲ免レス更ニ田邊豫審判事カ其訊問ニ當リ被疑事實又ハ公訴事實ヲ否
認スルヤ直チニ其ノ被告ヲ檢事ノ許ニ歸シタル例ハ所謂横濱事件ニ付テハ枚舉ニ遑アラス即チ横濱事
件ハ司法警察官、檢事、豫審判事ノ三者共同シテ不當苛酷ナル取調ヲ爲シ以テ架空ノ事實ヲ創作シタ
ルモノナリ其故第一審公判審理ニ於テハ各被告人ハ「從來拷問ノ苦痛ニ耐ヘ兼テ司法警察官、檢事ニ
對シ虚偽ノ自白ヲシテ來タ然シ初メテ豫審判事ニ會ツタ時ハ恰モ地獄テ佛ニ會ツク心地ニテ自白ヲ訂
正シタ、サスレハ吾々ハ間モ無ク檢事ノ許ニ歸サレ再度自白ヲ強要サレタソレテ豫審判事ハ矢張鬼テ
アル事カ判ツタ」ト供述シタリ蓋シ田邊豫審判事ノ遣口ハ檢事ノ聽取書ヲ公認シ證據力アル調書ヲ作
ルコトヲ之レ努メ毫モ眞實發見ノ努力ヲ爲ササリシモノナリ即チ同判事ハ豫審判事亦判事タルノ認識
ヲ忘却セシモノナリ更ニ又田邊豫審判事ノ前敍ノ如キ事實ヲ立證スル爲メ茲ニ横濱市電氣局關係事實
ニ付キ取調ラレタル證人神谷正太郎ノ公判ニ於ケル調書ヲ添附ス同人ハゼネラルモーターズ株式會社
東京出張所長タリシモノナル處偶々横濱市電氣局ニ賣却シタル自動車車臺納入ニ關シ贈賄シタリトノ
嫌疑ヲ受ケ取調ヘラレ司法警察官、檢事及強制處分ノ豫審判事ノ訊問ニ各贈賄事實アル旨虚偽ノ自白
ヲ爲シ強制處分ノ期間滿了ト同時ニ釋放サレタルモ昭和十年三月五日田邊豫審判事ニ證人トシテ取調
ヲ受ケタリ其際神谷正太郎ハ豫審廷ニ入り着席シタル際机上ニ宣誓書アリ從前ハ虚偽ノ自白ヲ爲シ居

ルモノナルニ付キ此儘従前ノ供述ヲ維持スルニ於テハ偽證罪ニ問ハルト思ヒ斷然従前ノ供述ヲ翻シ
 タリ然ル處田邊豫審判事ハ非常ニ憤慨シ「三ヶ月カ六ヶ月位勾禁シテ調ヘナクテハ判ラヌ旨」告ケ直
 チニ此旨檢事ニ通告シ直刻竹上、伊藤兩檢事豫審廷ニ來リテ證人ヲ威迫シ上申書ヲ認メシメ然モ右直
 申書ヲ檢事カ檢閱シ後日問題トナラヌ様檢事自ラ筆ヲ入レ書換ヘシメ豫審判事ニ提出セシメ再訊問シ
 タリ從テ記録上ニ於テハ同證人ノ證言ハ否認シタ證言ト認メタ證言ト日ヲ同シクシテ二ケノ調書アル
 奇觀ヲ呈シ居ルナリ此ノ一事ヲ以テスルモ田邊豫審判事ノ遣口カ如何ナルモノナリシカ窺知シ得テ充
 分ナリ證人ニ付テスラ斯ノ如シ況ヤ勾留サレ居ル被告人ニ對スル態度ハ更ニ更ニ峻嚴苛酷ナリシモノ
 ナルコト想像ニ餘リアリ本件請求人ニ付テ見ルニ昭和九年七月二十五日田邊豫審判事ノ強制處分ノ訊
 問ニ於テ被疑事實ヲ否認シ更ニ同月三十日竹上檢事ノ取調ヲ受ケ被疑事實ヲ認ムルニ至リタルハ前記
 神谷證人ニ對スル事實ト對比考覈スレハ請求人主張ノ如キモノナリシコト看取シ得テ充分ナリトス請
 求人ノ第一、二、三回豫審訊問ニ於ケル自白ハ豫審判事ノ態度前敍ノ如クナリシヲ以テ所詮正シキヲ
 表現スヘキ術ナキヲ悟リ諦メノ上爲シタル虛偽ノ自白タルコト之亦明白ナリサレハ豫審判事ハ檢事ト
 共同シテ自白ノ強要ヲ爲シタルコト明白ニシテ原決定ノ誤レルヤ論ヲ俟クス惟フニ前敍ノ如キ不當苛
 酷ノ取調ヲ爲サレタル場合假ニ豫審判事親切丁寧ニ之ニ努メタリトスルモ心身ノ疲勞恐怖ハ其ノ親切
 丁寧スラ受ケ容ルル能力ナキニ至ルヲ常態ナリト思料ス斯ル狀況ニ於テ當被告人ニ正シキ陳述ヲ求ム

ルハ不能ヲ強フルモノト謂フヘシ故ニ拷問ノ事實明瞭トナリタル場合ニ於テハ爾餘ノ點ヲ審研スルマ
 テモナク已ムヲ得サル自白ナリトシテ取扱ハサルヘカラス彼ノ第七十一回帝國議會ニ刑事補償法第四
 條改正案ノ提案セラレタル理由亦茲ニ存ス然モ同議會ニ於ケル政府委員久山知之氏ノ答辯ニ依レハ
 (第七十一回帝國議會衆議院速記昭和十二年八月一日附官報號外一一一丁)私ハ曾テ此壇上ニ於キマ
 シテ人權蹂躪ノ非ヲ糾彈致シマシタ記憶ヲ持ツテ居リマス本日ハ立場ヲ變ヘマシテ同シ此壇上ニ立ツ
 テ平川君ニオ答ヘ申スルコトハ洵ニ思出深イモノカアルノテアリマス只今オ述ヘニナリマシタ神奈川
 縣ニ於キマス集團放火事件ニ對シマシテハ司法當局ト致シマシテモ洵ニ遺憾ナ出來事ト致シマシテ十
 二分ノ注意ヲ拂ツテ居リマス尙ホ全國各地ニ起リマスル人權蹂躪ノ聲ニ對シマシテモ決シテ之ヲ閑却
 シテ居ルモノテハナイノテアリマス集團放火事件ノ被疑者カ多數豫審免訴ニナリマシタ事ニ就キマシ
 テハ其原因竝ニ事情等ニ對シマシテ目下大審院檢事局ノ檢事ニ於キマシテ熱心ニ調査致シテ居リマス
 其審査ノ結果ヲ俟チマシテ適當ナル處置ヲ講スルカ至當テアラウト斯様ニ私ハ考ヘテ居リマス尙ホ放
 火事件ノ被疑者中ニ若シ本人ノ自白カ拷問ノ結果餘儀ナク致サレタルモノカアリマシタ場合ニ於キマ
 シテハ當該檢事局ノ審査部ノ檢事ニ於キマシテ其事實カハツキリ現ハレマシタ時ハ現行刑事補償法ノ
 下ニ於キマシテモ賠償ニ與ルコトカ出來ル事ニ相成ツテ居ルノテアリマス云々ト答辯セラレ居ルナリ
 右答辯ノ趣旨ハ拷問ノ事實カ明瞭ニナリタル場合ニ於テハ當然ニ餘儀ナキ自白トシテ取扱フ、斯ル趣

旨ナリト解セサルヘカラス蓋シ何人モ好キ好ンテ虚偽ノ自白ヲ爲ス者非サルヘク拷問ノ事實アル場合ニ於テハ常人ニ正シキ供述ヲ期待スルコト自體不能ノ事柄ニ屬スサレハ司法當局ノ政府委員ハ前記ノ如キ答辯ヲ爲サレタルモノト信スルナリ然ルニ本件請求人ノ被疑事實取調ニ關シ拷問ノ事實存シタル事ハ公知ノ事實ニシテ此事實嚴トシテ存スル以上請求人ニ對シ正シキ供述ヲ期待シ得サルモノナルコト勿論ナリ然シテ原決定カ豫審判事ニ自白強要誘導ノ證據ナシトシテ本件請求人ノ請求ヲ却下シタルハ其ノ思考自體既ニ誤謬タルヘキモノナリ況ンヤ前記ノ如ク豫審判事ニ自白強要誘導ノ事實アルニ於テオヤサレハ請求人ノ豫審第一、二、三回ノ自白ハ請求人ノ重大ナル過失ニ基ク供述ナリト謂フヲ得ス故ニ原決定ハ當然取消サルヘキモノナリト確信スル次第ナリ何卒御審査ヲ煩ス諸公ニ於カセラレ本件請求人ノ如キ立場ニ立至リタル時果シテ被告人ハ如何ニナルカ篤ト御洞察賜リ涙アル決定相仰度候也ト云ヒ抗告申立人内山福之輔代理人辯護士菅野勘助抗告理由ハ申立人ニ對スル東京控訴院刑事第二部昭和十五年補第二號刑事補償請求事件ニ關シ同部カ同年十月二十四日爲シタル本件補償請求ヲ棄却スル決定ハ代理人ニ對シ同年十一月十三日送達セラレタリ、而シテ右決定ノ理由ヲ査閱スルニ何等申立人ノ請求理由ヲ顧慮スル所ナク檢事聽取書及豫審訊問調書中申立人ノ供述記載ヲ摘記シアルニ止マリ申立人カ右供述記載ヲ自供セシメラレ又ハスルニ至リタル先行的不法ノ暴行凌虐及威脅ノ事實ニ關シ觸ルルトコロナシ只徒ラニ形式的右各供述記載ヲ援用シアルニ過キスシテ其原因經過ヲ調査シ審理

シタル形跡ナキハ不滿ニ堪ヘサルトコロナリ裁判ハ飽ク迄眞實主義ヲ其ノ基本トセサルヘカラス形式的ニ事務的ニ取扱ハレ眞實ヲ無視スルカ如キハ大ニ裁判ノ神聖ヲ冒瀆スル虞アリ申立人カ右各供述記載ノ如キ自供ヲ爲シタルハ全ク拷問ニ始マレル繼續的恐怖意思ニ依ルモノナルコトハ各上申書公判廷ニ於ケル供述等ニ徴シテ察知シ得ヘシ申立人ハ右決定ニ對シ不服ニ付更ニ御審理仰上度刑事補償法第十一條第二項ニ依リ即時抗告ニ及ヒ候也ト云ヒ抗告申立人關根博西野平治郎兩名代理人辯護士山田半藏抗告理由ハ第一、原決定ハ抗告人關根博ノ本件補償ノ請求ヲ棄却シ其理由トシテ(一)昭和九年九月二十一日附強制處分請求ニ對スル豫審判事ノ同人ニ對スル訊問調書中ノ陳述(二)同年十二月十七日ノ同人ニ對スル豫審第一回訊問調書中ノ陳述(三)昭和十年二月二十七日ノ同人ニ對スル豫審第二回訊問調書中ノ陳述ヲ各摘示シ是等陳述カ其他ノ證據ト相俟テ關根博ノ事件ニ對スル起訴勾留公判ニ附スル處分ノ原因トナリタル事ヲ認メ得ヘク請求人ハ右豫審訊問ハ搜查官ノ大規模ナル人權蹂躪ト搜查官ノ豫審訊問ヘノ介入トニ依リ請求人ヲ畏怖ト強制ノ下ニ置キ不任意ノ陳述ヲ爲サシメタル旨主張スレトモ右陳述ノ内容ニ徴スレハ請求人ノ陳述ハ其ノ任意ノ陳述ト認ムルヲ相當トシ之ヲ覆スニ足ル證據ナキヲ以テ右陳述ヲ爲シタルコトハ請求人ノ重大ナル過失ト謂フヲ相當トシ右重大ナル過失カ請求人關根博ノ勾留起訴公判ニ附スル處分ノ原因トナリタリト認ムルノ外ナシト説示セラレタリ依テ先ツ第一ニ原決定摘示ノ右三個ノ陳述カ關根博ノ勾留ノ原由ヲ爲シ居ルヤ否ヤヲ研究スルニ檢事ハ昭和九年九

月二十一日附強制處分請求書ニ基キ證據物ノ押收及被疑者關根博ノ勾留ヲ豫審判事ニ求メ其ノ被疑事實ハ「關根博カ西野平治郎ト共謀ノ上昭和七年七月以降昭和九年七月迄ノ間數回ニ亙リ横濱市土木局庶務課勤務購買係主任書記天野操外五名ニ合計金三千六百圓位ヲ交付シテ贈賄シタルモノナリ」ト云フニ在リテ豫審判事ハ此ノ檢事ノ請求ニ依リ關根博ヲ勾留シタルコト記録上明瞭ナリ被疑者關根博カ右九月二十一日ノ豫審判事ノ訊問ニ於テ假令全部ノ被疑事實ヲ否認シタリトスルモ其ノ勾留ハ之ヲ免レサリシ關係ニ在リテ關根カ此ノ訊問ニ於テ特ニ内山福之輔ニ百圓ヲ贈賄シタリトノ事實ヲ陳述シタルカ故ニ勾留セラレタルモノニ非ス要スルニ強制處分請求書記載ノ被疑事實嫌疑ノ爲メニ勾留セラレタルモノトス果シテ然ラハ原決定摘示ノ(一)ノ九月二十一日ノ強制處分請求ニ對スル豫審判事ノ關根ニ對スル訊問調書中ノ同人ノ内山福之輔ニ百圓ヲ贈賄シタリトノ陳述ハ關根博勾留ノ原由ヲ爲ササルモノト解セサルヘカラス(二)ノ關根ノ豫審第一回訊問調書中ノ陳述(三)ノ關根ノ豫審第二回訊問調書中ノ陳述カ關根ノ勾留ノ原由ヲ爲ササルコトハ其性質上關係ナキ事明瞭ナリ第二ニ原決定摘示ノ右三個ノ陳述カ關根博ノ起訴ノ原由ヲ爲シ居ルヤ否ヤヲ研究スルニ内山關係ノ贈賄事實ニ對スル豫審請求書ニハ「昭和七年四月頃以降昭和九年七月頃迄ノ間ニ於テ被告人關根博ハ贈賄資金ヲ支出シテ被告人西野平治郎ニ交付シ被告人西野ハ同期間中八回ニ亙リ同市土木局工務課外二ヶ所ニ於テ同課勤務道路係技手トシテ道路工事並ニ道路舗裝工事ノ設計起案工事施行監督等ニ關スル殘務ヲ擔任シ居タル内山

福之輔ニ對シ前同趣旨ノ請託ヲ爲シタル上其職務執行ニ對スル報酬トシテ合計金五百圓ヲ交付シテ贈賄シタルモノナリ」トアリ(昭和九年十一月十二日附追豫審請求書第二事實)テ原決定ノ摘示スル(一)ノ關根博ノ被疑者訊問ニ於テ陳述セル内山福之輔ニ對スル贈賄ノ事實ノ陳述ハ其回数ニ於テモ金額ニ於テモ相違アリ然レハ右豫審ノ請求ハ西野平治郎ノ被疑者訊問調書同人ノ檢事聽取書及内山福之輔ノ被疑者訊問調書ノ陳述カ其原由ヲ爲シ居ルモノニシテ關根博ノ右被疑者訊問調書ノ陳述ハ其ノ原由ヲ爲シ居ラサルモノト解セサルヘカラス又原決定摘示ノ(二)ノ關根豫審第一回訊問調書及(三)ノ同人豫審第二回訊問調書ノ各陳述ハ何レモ豫審請求以後ノ陳述ニ係ルヲ以テ關根ノ起訴ニ關係ナキモノナルコト明瞭ナリトス第三ニ原決定摘示ノ三個ノ陳述カ關根博ノ公判ニ附スル處分ノ原由ヲ爲シ居ルヤ否ヤヲ研究スルニ内山關係ノ贈賄事實ニ對スル豫審終結決定ニハ「關根博、西野平治郎ノ兩名ハ共謀ノ上被告人西野平治郎ニ於テ贈賄資金ノ一部ヲ被告人關根博ヨリ受取リタル上昭和七年七月頃ヨリ同年七月頃迄ノ間ニ七回ニ横濱市土木局工務課技手内山福之輔ニ對シ其ノ職務ニ關シ合計金四百五十圓ヲ交付シ贈賄シタルモノナリ」トアリテ原決定摘示ノ(一)ノ關根ノ被疑者訊問調書ノ陳述(二)ノ同人豫審第一回訊問調書ノ陳述即チ内山福之輔ニ對スル贈賄事實ノ陳述ハ其ノ回数ニ於テモ金額ニ於テモ相違アリ然レハ右豫審終結決定ハ西野平治郎及内山福之輔ノ被疑者訊問調書ノ陳述ニ依リ有罪ノ決定ヲ見タルモノト云フヘク關根博ノ右被疑者訊問及第一回豫審調書ノ陳述ハ公判ニ附スル處分ノ

原由ヲ爲シ居ラサルモノト解セサルヘカラス唯原決定摘示ノ(三)ノ關根豫審第二回訊問調書ノ陳述ハ其形式ヨリ觀レハ關根博ノ公判ニ附スル處分ノ原由ヲ爲セルノ觀アレトモ關根カ豫審第二回訊問ニ於テ原決定摘示ノ如キ陳述ヲ爲シタルハ之ヨリ先豫審第一回訊問ヲ受ケタル際豫審判事ヨリ豫審請求書及追豫審請求書ノ讀聞ケラレタルニ對シ「自分カ西野ト共謀ノ上小泉賢次郎、天野操、安達新平、内山福之輔、大岡大三、志賀真一、里見富次、橋坂武運三等ニ對シ賄賂トシテ金圓ヲ贈與シタリトノ點ハ全ク自分ノ關知セサル所ナリ」ト陳述シタル處(關根第一回豫審訊問調書)其翌々日檢事廷ニ呼出サレ其變節ヲ嚴シク叱責セラレ若シ檢事ニ對スル陳述ヲ翻シテ事實ヲ否認スルニ於テハ何日迄掛ルモ取調ヲ續行シ又何處迄事件カ擴大スルヤモ判ラサル故其考ニテ居ヨト申渡サレ又一面ニハ關根、九月二十一日以來左足アヒレス腿ノ斷裂ニテ歩行モ出來サル不自由ノ身ニテ事件ノ長引クコトヲ憂慮シ居タル爲メ最初諦メタ通り進ムヨリ外致方ナシト覺悟シ再調ヲ願フ上申書ヲ豫審判事ニ提出シタル程ニテ斯ル關係ヨリ豫審第二回訊問ニ於テ原決定摘示ノ如ク全面的事實承認ノ陳述ヲ爲スニ至リタルモノニシテ此陳述ハ檢査官ノ豫審訊問ヘノ介入ニ依リ畏怖ト強制ノ下ニ置キ陳述セシメタル不任意ノ陳述ナリトス從ツテ此陳述ニ付テハ關根ハ其責任ヲ負フヘキモノニ非ス尙關根博ノ豫審ニ於ケル自白の供述カ檢査官ノ不當苛酷ノ取調ニ原因シ不任意ニ陳述シタル事實ノ詳細ハ關根カ第一審ニ提出シタル上申書及公判ニ於ケル供述ヲ記載セル公判調書ニ明カナリ之ヲ要スルニ原決定カ前記(一)關根ノ被疑者訊

問調書ノ陳述(二)同ノ第一回豫審訊問調書ノ陳述(三)同人ノ第二回豫審訊問調書ノ陳述ヲ以テ何レモ重大ナル過失ナリト認定シ且關根博ノ勾留起訴公判ニ附スル處分ノ原由トナリタルモノナリト斷定シタルハ事實竝ニ證據ニ副ハサル失當ノ決定ナリト思料ス第二原決定ハ抗告人西野平治郎ノ本件補償請求ヲ棄却シ其理由トシテ(一)昭和九年九月二十二日附強制處分請求ニ對スル同日付豫審判事ノ被疑者西野平治郎ニ對スル訊問調書中ノ陳述(二)昭和九年九月二十二日橫濱市役所土木局關係吏員ニ對スル贈賄ニ付キテノ強制處分請求ニ對スル同日附同人ニ對スル豫審判事ノ訊問調書中ノ陳述(三)昭和十年一月十五日同人ニ對スル第二回豫審訊問調書中ノ陳述ヲ各摘示シ是等陳述カ其他ノ證據ト相俟テ請求人西野平治郎ノ事件ニ對スル起訴勾留公判ニ附スル處分ノ原因トナリタルコトヲ認メ得ヘク右請求人ハ該陳述ハ檢査官ノ大規模ナル人權蹂躪ト檢査官ノ豫審訊問ヘノ介入ニ依リ請求人ヲ畏怖ト強制ノ下ニ置キ不任意ニ陳述セシメタルモノナル旨主張スレトモ之ヲ容認スルニ足ル證據ナク反テ右記錄ニ徵スレハ豫審判事ノ訊問ニ對スル部分ニ於テハ右請求人ノ陳述ヲ任意ノ陳述ト認ムルヲ相當トス然ラハ即チ右陳述ヲ爲シタルコトハ請求人ノ重大ナル過失ニシテ右過失カ請求人ノ起訴勾留公判ニ附スル處分ノ原因ト爲リタリト謂フヲ得ヘシト說明セラレタリ然レトモ抗告人西野平治郎ノ豫審ニ於ケル自白的ノ陳述ハ悉ク檢査官ノ大規模ナル人權蹂躪ト檢査官ノ豫審訊問ヘノ介入ニ依リ同人ヲ畏怖ト強制ノ下ニ置キ不任意ニ陳述セシメタルモノナリ抑モ西野平治郎ハ昭和九年九月十一日橫濱水上警察署ニ同

行ヲ求メラレ同月十五日横濱刑務所ニ收容セララル迄ハ一步モ水上警察署ヲ出テサルモノナリ其ノ西野カ生々シキ負傷ヲ受ケタルモノナレハ(第一審公判ニ於テ横濱刑務所ヨリ取寄ニ係ル西野平治郎ノ身分帳ニ歷然トシテ左眼下ニ班點右乳下ニ傷痕トノ記載アリ而シテ此創傷ハ神奈川縣警部秋澤武カ倒レ居タル西野ヲ靴ニテ蹴リタル時負傷セルモノナリ)此創傷ハ警察官ニ依テ與ヘラレタルモノナルコトハ何人モ之ヲ否定スルコトヲ得サルモノナリ西野カ水上警察署ニ於テ警察官ニ殘虐ナル拷問ヲ受ケタル詳細ハ西野カ第一審ニ於テ提出シタル上申書ニ記載セラレアル通りナリ聞ク所ニ依レハ警察官ハ拷問シテモ後日ニ證據ノ殘ル様ナ負傷ハ與ヘスト云フ其ノ警察官カ創痕ヲ殘ス程ノ拷問ヲ至シタルモノナレハ其拷問ノ程度ノ激烈ナリシコトノ知ルニ足ル西野ハ警察官ノ拷問ニ堪ヘ兼ネテ九月十二日水上警察署ニ於テ一度自白の不實ノ供述ヲ爲シタルモ翌十三日檢事ニ向ツテ之ヲ取消スト十四日ニ又警察官ノ手ニ渡サレテ拷問ヲ受ケ其日ノ夕刻ニ至ツテ遂ニ屈シテ十二日ノ供述ヲ承認シタルモノナルカ十五日ニ檢事カ取調ヘル時ハ西野ノ取消ヲ豫防スル爲メ三人ノ拷問警察官ヲ立會サセテ無形ノ彈壓ヲ加ヘタルモノナリ西野ハ十五日ニ檢事ニ聽取書ヲ作ラレタル後九月十五日附川原檢事聽取書及同日附第二回聽取書天野操ニ對スル贈賄事實ニ付強制處分ノ請求ヲ受ケ田邊豫審判事ノ被疑訊問ヲ受ケ公訴事實ヲ否認シ一切出鱈目ナリト陳述セシカ十六、十七、十八、十九ト連續シテ毎日檢事ニ責メラレ遂ニ屈シテ三タヒ警察ノ供述ヲ承認シ檢事ニ自白の供述ノ聽取書ヲ作ラレ(九月十六日附望月檢事聽取

書九月十八日附川原檢事第三回同日附第四回同日附第五回聽取書)多數ノ冤罪者ヲ生シタルモノナリ西野カ望月、川原兩檢事ヨリ強責サレ椅子ヲ外シテ立タセラレタリ頭ヲテーブルニスリ付ケラレタリ胸倉ヲトラレタリ怒號サレタリシテ自白ヲ強要セラレタルモノニシテ其詳細ハ西野カ第一審ニ於テ提出シタル上申書ニ記載セラレタル通りナリ警察ニ於テハ拷問ニテ責メラレ不實ノ供述ヲ爲シ檢事ニ否認スレハ警察ヘ戻サレ又拷問セラレ豫審判事ニ否認スレハ檢事ヘ逆戻リスル是テハ權力ヲ有セサル者ハ到底對抗出來サルコトハ必然ナリ人間トシテ何人モ嘘ヲ申シタイ者ハナイ況ンヤ其ノ嘘ノ爲メ自分モ苦シミ他人ニ迷惑ヲ及ホスモノナレハ好ンテ嘘ヲ申ス者ナシ他ヨリ暴力ト權力トヲ以テ肉體ト精神トニ彈壓ヲ加ヘ強制シタル力ノ下ニ抑ヘ付ケラレタル者ノ供述ハ自白ニ非ス聲ハ被告ノ口ヨリ出テモ夫レハ實ハ彈壓者ノ言葉ナリトス原決定ノ摘示セル(一)昭和九年九月二十二日附強制處分請求ニ對スル同日附豫審判事ノ被疑者西野平治郎ニ對スル訊問調書中ノ陳述(二)昭和九年九月二十二日附横濱市役所土木局關係吏員ニ對スル贈賄ニ付キテノ強制處分ニ對スル同日附同人ニ對スル豫審判事ノ訊問調書中ノ陳述ハ前敍ノ如キ經過ノ下ニ豫審判事ノ訊問ヲ受ケタル爲メ西野ハ事實ヲ否認スレハ又々檢事ニ逆戻リシテ檢事ヨリ前ニ増シテ暴行脅迫ヲ受ケ責メラレ事件ノ取調長引クコトヲ虞レタル結果九月十五日附川原檢事第一回及第二回聽取書九月十六日附望月檢事聽取書九月十八日附川原檢事第三回第四回第五回聽取書ノ通り事實承認自白の供述ヲ爲シタルモノナリ尙西野カ右強制處分請求ニ對スル訊

問ヲ受クルニ先チ竹上檢事ヨリ峻烈ナル取調ヲ受ケタルコトハ第一審公判ニ於テ取寄ニ係ル被告人處
 遇表西野平治郎九月二十二日ノ部ニ「本日地方檢事局竹上檢事ノ峻烈ナル取調アリ在廷時午前十一時
 十分ヨリ午後四時三十分」トアルニ徴シ明瞭ナリ而シテ其後西野ハ昭和九年十二月十七日富岡豫審判
 事代理判事ヨリ第一回豫審訊問ヲ受ケタルカ其際西野ハ檢事廷ニ於ケル申立ハ全部虚偽ナル旨陳述シ
 眞實ノ贈答品丈ケヲ陳述セシカ其訊問終ルヤ望月川原兩檢事ハ其ノ豫審ニ於ケル公訴事實ノ否認ヲ難
 詰シ「早ク片附ケテ年内中ニテモ出シテヤラウト思ヒ急イテ豫審ニ廻シテ遣レハ何タ吾々ノ心證ヲ害
 スレハ害スル程損タツアヤマレ、アヤマレ起キテ其所へ何時迄モテールノ上ニ頭ヲスリ付ケテ居レ」
 トカ貴様ハ日本人カ耳カ無イカ、口カ無イカ、モノヲ言ハナイト罵詈譏ヲ繰リ返シツツ頭ヲテーブ
 ルノ上ニ強打シ或ハ打擲スル等公訴事實ノ否認ヲ難詰セラレタル爲メ西野ヲシテ豫審廷ニ於テモ矢張
 リ檢事ニ述ヘタ其儘ヲ述ヘナケレハ何日迄モ豫審廷ト檢事廷ノ間ヲ往復シテ檢事ノ言フ通り二年モ三
 年モ事件ノ取調カ掛ルモノト思ハシムルニ至ラシメタルモノナリ西野カ豫審第一回訊問ニ於テ公訴事
 實ヲ否認スルヤ檢事カ之ヲ難詰シ脅迫暴行ノ舉ニ出テタル事實ノ詳細モ西野カ第一審ニ提出セル上申
 書ニ記載セル通りナリ原決定ノ摘示スル(三)昭和十年一月十五日ノ第二回豫審訊問調書ハ右ノ如ク西
 野カ第一回豫審訊問ニ於テ公訴事實ヲ否認スルヤ檢事ヨリ難詰セラレ脅迫暴行セラレタル結果心ニ泣
 イテ事實承認ノ自白の供述ヲ爲シタルモノナリ以上ノ事實ハ前記西野平治郎ノ上申書第一審公判ニ於

ケル西野ノ供述横濱刑務所ヨリ取寄ニ係ル西野ノ身分帳豫審判事及檢事ノ被告人取調ノ日時模様ヲ記
 載セル處遇表、共同相被告人ノ第一審公判ニ於ケル警察官、檢事及豫審判事取調ノ模様ニ關スル供述
 辯護人今村力三郎ヨリ提出セル辯論稿等ニ依リ之ヲ認定スルニ充分ナリトス西野平治郎ノ豫審ニ於ケ
 ル事實承認ノ自白の供述ハ正ニ搜查官ノ大規模ナル人權蹂躪ト搜查官ノ豫審訊問へノ介入トニ依リ同
 人ヲ畏怖ト強制ノ下ニ置キ不任意ノ陳述ト謂フヘク原決定カ右事實承認自白の供述ヲ以テ任意ノ陳述
 ナリト認メ右陳述ヲ爲シタルヲ以テ西野ノ重大ナル過失ナリトシ其重大ナル過失カ起訴勾留公判ニ附
 スル處分ノ原因トナリタルモノナリト判斷セラレタルハ事實竝ニ證據ニ副ハサル失當決定ナリト思料
 ス以上ノ次第ナルニ付原決定御取消ノ上抗告人等ノ本件補償請求許容セラレル御決定相成度候也ト云
 フニ在リ

仍テ案スルニ抗告申立人等カ原決定攻撃ノ目標トシテ舉示セル豫審判事ノ訊問ニ對シテハ其當時ニ於
 テ事實ノ一部又ハ大部分ノ肯定的供述ヲ爲シタルコトヲ認ムルヲ得ヘタ苟モ斯ノ種ノ陳述アリタル以
 上ハ他ノ證據ト相俟ツテ勾留ノ原由トナルコトハ普通ナリトス只其陳述ヲ爲スニ至リタルハ被告人ノ
 重大ナル過失ニ出テタルヤ否ヤノ點ニ付テハ抗告申立人等ハ極力其然ラサル所以ヲ力説シ當該係官ニ
 於テ人權蹂躪的行動アリタルヨリ不得已斯ル供述ヲ爲スニ至リタリト主張スレトモ凡ソ被疑者ノ地位
 ニ立テルモノカ謂レナクシテ不利益ナル供述ヲ爲スコトナシトノ常識論ヲ容ルルノ餘地アルコトアリ

ト雖モ極メテ不用意ノ間ニ供述ヲ爲スコトアリ或ハ打算的ニ迎合的ニ其他種々ナル理由ニ基キ供述ヲ爲スモノアルヲ以テ法ハ重大ナル過失ニ基ツク供述アル場合ヲ豫想シ以テ刑事補償ヲ與ヘサルコトトナシタルナリ從ツテ大ナル不利益ヲ避クル爲メ比較的小ナル犠牲的供述ヲ爲ス場合ヲモ之ニ包含スルモノトス固ヨリ其比較的判斷ヲ爲スニモ自由ナル考慮ニ基ツクヘキコト勿論ナリトス而シテ豫審判事ノ職タルヤ其以前ニ於テ假令如何ナル不任意的供述ヲ爲ササルヘカラサル地位ニ置カレタルモノト雖モ一度其ノ前ニ立ツモノニ對シテハ公平冷靜ニ被疑者、被告人ノ利益、不利益ニ關スル證據ヲ蒐集シ以テ證據ノ基本的確實ヲ保障スルニ在ルヲ以テ其ノ使命ヲ知リテ充分ニ辯護權ノ擁護ニ努ムヘキハ被疑者被告人ノ立場ナルヲ以テ假ニ豫審判事ヲ以テ捜査官ト誤認シ又ハ其延長ナルカ如ク曲解スルコトアリトスレハ夫レ自身既ニ重大ナル過失アリト云ハサルヘカラス本件ノ基本タル瀆職事件ニ付テハ恰モ人權蹂躪的行動ノ行ハレタルカ如キ巷評アリ其事ナシトスルモ斯ル巷評アルコトハ檢察權ノ爲ニ眞ニ遺憾ノ極ナリト雖モ世ニハ往々人權蹂躪ノ叫ハルル場合ニ其實ニ過キテ其聲ノ大ナルモノアリ世人モ亦之ニ同情スルノ餘リ層一層其聲ノ大ナルニ至ルモノアリ甚シキニ至リテハ其然ラサルモノニ至ル迄之ニ便乘シテ自己ノ罪責ヲ免レントスルモノアリ而シテ捜査官ノ側ニ於テモ其職ニ熱中スルノ餘リ不知不識ノ間ニ往々脱線のナルカ如ク他ノ眼ニ映スルモノアリ之カ取調ヲ受クルモノノ側ニ在リテハ最モ感情ノ動搖シ又最モ弱キ地位ニ立ツモノニシテ敢然トシテ自己ノ主張ヲ貫カントスルカ如キハ意

思ノ極メテ強キモノニ非スンハ能ハサルコトモ絶無ナリト云フヘキニアラス然リト雖モ此ノ如キモノモ豫審判事ノ前ニ立ツニ於テハ其訊問ノ進行ニ依リ自己本來ノ立場ニ復舊シ辯護權ノ主張ニ努ム從來ノ供述ヲ翻スモノノアルコトモ亦頗ル多キノ事例ナリトス故ニ豫審判事ノ訊問ニ對シテ猶從前ノ供述ヲ繰返スニ於テハ固ヨリ自由任意ノ供述トシテ勾留ノ原由タルコトモ往々避クヘカラサル處ナリトス若シ夫レ豫審判事ノ訊問ニ對シテ他力ノ介入セリト云フカ如キハ在リ得ヘカラサルコトニシテ輕々ニ論斷スヘキモノニアラス本件ノ基本タル瀆職事件ニ於テモ之ヲ認ムルヲ得サル所ナリトス既ニ之ヲ認ムヘキニアラス而シテ豫審ノ供述ニシテ肯定的ナルコトニ於テハ其供述ニシテ後日ニ至リテ其眞實ニアラサルコト明ナルニ至リシコトアリトスルモ其供述ニ基ツク勾留ハ被告人ノ重大ナル過失ニ因ルモノト謂ハサルヲ得ス原決定カ此趣旨ニ基ツキ右請求ヲ棄却シタルハ相當ニシテ各抗告ハ孰レモ其理由ナキヲ以テ刑事訴訟法第四百六十六條ニ依リ主文ノ如ク決定シタリ

檢事瀧川秀雄關與

【要旨】

○業務上横領被告事件 (昭和十五年(九)第一、一五二號棄却)

【被告人】 被告人 増田長雄 増田文太郎 辯護人 稻本錠之助 松永陸 東
【第一審】 熊本地方裁判所 【第二審】 長崎控訴院

○判示事項

公判手續ノ更新ト理由宣示ノ要否

○判決要旨

公判手續ヲ更新スルニ當リテハ其ノ理由ヲ宣示スルノ要ナシ

【参照】 刑事訴訟法第二百八十八條 公訴ノ提起ハ豫審又ハ公判ヲ請求スルニ依リテ之ヲ爲ス

同法第二百九十條第一項 公訴ノ提起ハ書面ヲ以テ之ヲ爲スヘシ

同法第三百十二條第一項 公判ニ付スルニ足ルヘキ犯罪ノ嫌疑アルトキハ豫審判事
ハ決定ヲ以テ被告事件ヲ公判ニ付スル言渡ヲ爲スヘシ
同法第三百五十八條第一項 被告事件ニ付犯罪ノ證明アリタルトキハ第三百五十九
條ノ場合ヲ除クノ外判決ヲ以テ刑ノ言渡ヲ爲スヘシ
同法第三百六十二條 被告事件罪ト爲ラス又ハ犯罪ノ證明ナキトキハ判決ヲ以テ無
罪ノ言渡ヲ爲スヘシ
同法第三百五十三條 開廷後被告人ノ心神喪失ニ因リ公判手續ヲ停止シ又ハ其ノ他
ノ事由ニ因リ引續キ十五日以上開廷セザリシ場合ニ於テハ公判手續ヲ更新スヘシ
同法第三百五十四條 開廷後判事ノ更迭アリタルトキハ公判手續ヲ更新スヘシ但シ
判決ノ宣告ヲ爲ス場合ハ此ノ限ニ在ラス

○事實

第二審ハ左ノ如ク事實ヲ認定シ法律ヲ適用シ尙被告人文太郎ニ對スル公訴事實中ノ一ニ付左ノ如ク説
明シテ

第一、被告人増田長雄ハ熊本縣八代郡高田村信用販賣購買利用組合ノ書記トシテ同組合ノ事務一切ヲ處理シ現金ノ出
納保管等ノ業務ニ從事中犯意繼續ノ上

(一)昭和十年初頃ヨリ昭和十三年九月三十日迄ノ間右業務上保管スル組合ノ金員合計約八千圓ヲ熊本縣八代町其ノ
他九州一圓ニ於テ數十回ニ亘リ擅ニ遊興費其ノ他自己ノ用途ニ費消シ

(二)昭和九年十二月頃ヨリ昭和十三年三月頃迄ノ間右業務上保管ニ係ル組合ノ金員合計四千六百六圓三十一錢ヲ熊

公判手續ノ更新ト理由宣示ノ要否

本縣八代郡高田村所在ノ前記組合事務所其ノ他ニ於テ前後數十回ニ亙リ擅ニ相被告人増田文太郎ノ爲同人ノ遊興費其ノ他同人個人ノ用途ニ支出シテ費消シ以テ業務上横領シ

第二、被告人増田文太郎ハ昭和九年頃ヨリ帝國在郷軍人會八代郡聯合分會長トシテ同分會ノ基本金ノ保管等ノ事務ヲ管掌中昭和十三年十二月一日熊本縣八代町八代共立銀行ヨリ自己ノ用途ニ充ツル爲自己名義ヲ以テ金千二百圓ヲ借用スルニ際リ前記自己ノ業務上保管ニ係ル同分會ノ基本金タル帝國政府發行五分利公債證書額面金壹千圓(昭和二年發行も號二八〇四九)及同公債證書額面金五百圓(昭和二年發行も號六六四九)各一枚ヲ擅ニ右債務ノ擔保トシテ同銀行ニ交付シテ業務上横領シタルモノナリ

法律ニ照スニ被告人兩名ノ所爲ハ夫々刑法第二百五十三條ニ該當スルトコロ被告人長雄ノ所爲ハ犯意繼續ニ係ルヲ以テ同法第五十五條ヲ適用シ所定期限範圍内ニ於テ被告人長雄ヲ懲役十月ニ、被告人文太郎ヲ懲役八月ニ處シ尙被告人文太郎ニ對シテハ情狀ニヨリ刑ノ執行ヲ猶豫スルヲ相當ト認メ刑法第二十五條ニ從ヒ本裁判確定ノ日ヨリ四年間右刑ノ執行ヲ猶豫シ訴訟費用ハ刑事訴訟法第二百三十七條第一項ニ則リ主文第三項掲記ノ如ク被告人兩名ヲシテ負擔セシムヘキモノトス

被告人文太郎ニ對スル公訴事實中被告人カ相被告人長雄ト共謀ノ上昭和九年十二月頃ヨリ昭和十三年九月三十日頃迄ノ間ニ長雄ノ業務上保管セル組合ノ金員中合計金六百六十二圓四十六錢ヲ八代町熊本市等ニ於テ擅ニ被告人文太郎ノ遊興費等ニ費消横領シタルモノナリトノ點ニ付テハ犯罪ノ證明十分ナラサルモ右ハ被告人文太郎ノ判示第二ノ所

爲ト連續犯ノ關係ニアリトシテ公判ニ付セラレタルモノト認ムルヲ以テ特ニ主文ニ於テ無罪ノ言渡ヲ爲サス

被告人増田長雄ヲ懲役十月ニ、被告人増田文太郎ヲ懲役八月ニ處ス但シ被告人増田文太郎ニ對シテハ裁判確定ノ日ヨリ四年間右刑ノ執行ヲ猶豫スル旨(訴訟費用ニ關スル點省略)ノ判決ヲ爲シタリ

○主 文

本件上告ハ執レモ之ヲ棄却ス

○理 由

被告人文太郎辯護人松永東松山義雄藤岩陸郎上告趣意書第六點原審ハ昭和十五年八月二十日第二回公判期日ニ於テ公判手續ヲ更新シタレトモ何カ故ニ更新シタルカノ理由ヲ表示セス凡ソ公判手續ノ更新タルヤ引續キ十五日以上開廷セサル場合ナルカ或ハ開廷後判事ノ更迭アリタル場合ナルカ此兩者ノ法定ノ場合ニ限り之ヲ爲スヘキモノニシテ各々其更新ヲ爲スヘキ理由ヲ異ニス依テ更新ヲ爲ス場合ニハ其果シテ執レノ場合ニ屬スルヤヲ明カニスルコトヲ要スヘシ本件ニ於テハ記錄ヲ精査スレハ引續キ十五日以上開廷セサリシ上開廷後判事ノ更迭アリ二個ノ理由ノ競合セルコトヲ窺知シ得ヘク固ヨリ手續更新其物ハ必要且適法ナリト雖モ此場合ニハ右二個ノ理由ヲ明示スヘク何等ノ理由ヲ示サスシテ突如公判手續ヲ更新スルハ訴訟關係人ヲシテ歸趨ニ迷ハシメ其更新ノ果シテ理由アリヤ否ヤノ判斷ニ苦シマシムルモノニシテ從テ理由ヲ示サスシテ爲シタル更新手續ニハ瑕疵アリ即チ本件ハ更新ノ手續ニ違

公判手續ノ更新ト理由宣示ノ要否

法アリト謂フヘシト云フニ在レトモ

【要旨】
 刑事訴訟法第三百五十三條及第三百五十四條ハ孰レモ單ニ云々ノ場合ニハ公判手續ヲ更新スベキ旨ヲ定メタルノミニシテ其ノ手續更新ヲ爲スニ當リテハ之ヲ爲スノ理由ヲ示スベキコトヲ命セズ加之凡公判手續ノ更新ハ之ヲ爲スベキ理由ノ如何ニ因リテ其ノ手續、效果等ニ何等徑庭アルニアラズ從テ其ノ理由ヲ示スコトナケレバトテ訴訟關係人之ガ爲ニ毫モ不利益ヲ被ルガ如キ事モナク苟モ更新ノ實アルトキハ法律ガ此ノ制度ヲ認メタル目的ハ即チ達セラルベキモノナルガ故ニ更新ヲ爲ス理由ノ如キハ之ヲ示スノ要無キモノト解スルヲ正當トス之ニ反スル見解ニ立テル論旨ハ理由無シ(其ノ他ノ上告論旨及判決理由ハ之ヲ省略ス)

以上説明ノ如クナルヲ以テ刑事訴訟法第四百四十六條ニ則リ主文ノ通り判決シタリ

檢事横田麟二關與

大審院刑事判例集第十九卷 完

○昭和十五年十二月大審院刑事部

裁判長及部員氏名表

第一刑事部

裁判長	判事	久保田美英
部長	判事	尾佐竹 猛
部員	判事	日下部 義夫
	判事	宮 城 實
	判事	十川 寛之助

本部ノ開廷

月 曜 日
木 曜 日

本部ノ所管

上告其ノ他事件毎ニ順次平分ス
但シ未済事件ハ前年度受理ノ部ニ於テ引續キ結了ス

刑事部判事氏名表

第二刑事部

裁判長	判事	織田嘉七
部長	判事	岸 達 也
部員	判事	齋藤三郎
	判事	宮内聰太郎
	判事	田 中 龜

本部ノ開廷

月 曜 日
木 曜 日

本部ノ所管

上告其ノ他事件毎ニ順次平分ス
但シ未済事件ハ前年度受理ノ部ニ於テ引續キ結了ス

第三刑事部

裁判長

部長

判事

豊水道雲

部員

判事

神原甚造

判事

池田確二

判事

小林四郎

代理判事

安齋保

本部ノ開廷

水曜日

土曜日

本部ノ所管

上告其ノ他事件毎ニ順次平分ス
但シ未済事件ハ前年度受理ノ部ニ於テ
引續キ結了ス

第四刑事部

裁判長

部長

判事

宇野要三郎

部員

判事

沼義雄

判事

駒田重義

判事

日下巖

判事

吉田常次郎

判事

久禮田益喜

本部ノ開廷

火曜日

金曜日

本部ノ所管

上告其ノ他事件毎ニ順次平分ス
但シ未済事件ハ前年度受理ノ部ニ於テ
引續キ結了ス





